

京丹後市文化財保存活用地域計画 (案)

令和4年(2022)6月15日

京丹後市教育委員会

目 次

序章	1
1. 計画作成の背景と目的	1
2. 地域計画の位置付け	2
3. 計画期間	3
4. 計画作成の経緯・体制	4
5. 用語の定義（地域計画の対象とする範囲）	6
第1章 京丹後市の概要	7
1. 自然的・地理的環境	7
1-1. 京丹後市の位置・面積	7
1-2. 地名・地区区分	8
1-3. 自然環境の特性	10
（1）地形・地質	10
（2）水利・水系	14
（3）気候	14
（4）生態系	15
（5）景観	18
2. 社会的状況	20
2-1. 人口動態	20
2-2. 教育	23
2-3. 産業	25
2-4. 土地利用	30
2-5. 交通	31
2-6. 法規制	32
2-7. 美しいふるさとづくりの取り組み	35
2-8. 山陰海岸ジオパークの取り組み	36
2-9. 市民による地域資源ガイド活動	41
3. 歴史的背景	42
3-1. 先史	42
3-2. 古代	45
3-3. 中世	46
3-4. 近世	48
3-5. 近現代	52

第2章 文化財の概要 59

1. 既往の文化財把握調査の概要	59
2. 文化財の指定等の状況	61
2-1. 指定等文化財	61
2-2. 日本遺産の認定	64
3. 未指定文化財の概要	66
4. 文化財の特徴	68
4-1. 有形文化財	68
4-2. 無形文化財	72
4-3. 民俗文化財	72
4-4. 記念物	76
4-5. 伝統的建造物群	78
4-6. 文化的景観	78
4-7. 環境保全地区	78

第3章 歴史文化の特徴と関連文化財群 79

1. 地球の胎動がもたらす恵みと脅威	82
1-1. 地球の営みが生んだ半島の景観と恵み	82
1-2. 半島に展開する海・里・山の生業	84
1-3. 災害の歴史と記憶を伝える	86
2. 日本海の玄関口での交流・交易	88
2-1. 「丹後王国」の成立から興隆	88
2-2. 半島に語り継がれた豊かな伝説・伝承	90
2-3. 「一色領国」から「海の代官所」へ	92
3. ものづくりのふるさと丹後	94
3-1. 「気張る」丹後人の気質とものづくりのふるさと	94
3-2. 「丹後ちりめん」をめぐる人と技	96
4. 多様な信仰・民俗と百歳長寿を支える食文化	98
4-1. 花開いた仏教文化	98
4-2. 暮らしを彩る祭礼・芸能	100
4-3. 半島と共に生きる食の知恵	102
コラム 「日本のふるさと丹後～可能性に満ち溢れた丹後の歴史文化」	104

第4章 文化財の保存・活用に関する将来像・基本目標 107

第5章 文化財の保存・活用に関する課題・基本方針 109

1. 包括的な課題	109
1-1. 「光」の価値を明らかにするための課題	109
1-2. 「光」を後世につなぐための課題	109
1-3. 「光」を活かすための課題	111

1-4. 「光」を伝える人を育てるための課題	112
1-5. 「光」をつなぐ体制をつくるための課題	112
2. 関連文化財群ごとの課題	113
3. 文化財の保存・活用の基本方針	117

第6章 文化財の保存・活用に関する措置	119
----------------------------	------------

1. 包括的な措置	119
2. 関連文化財群ごとの措置	125

第7章 文化財の防災・防犯の推進	133
-------------------------	------------

1. 文化財防災・防犯の推進に向けた背景	133
2. 京丹後市における文化財防災・防犯の現状	134
3. 「京丹後市地域防災計画」への位置づけ	134
3-1. 災害予防計画	134
3-2. 災害応急対策計画	135
3-3. 災害復旧・復興計画	135
4. 文化財の防災・防犯に関する課題	136
4-1. 文化財の災害予防対策・防犯対策の拡充	136
4-2. 災害発生時の対応の明確化	136
4-3. 日常的な防犯パトロールの導入	136
5. 文化財の防災・防犯に関する方針	136
6. 文化財の防災・防犯に関する措置	137
7. 文化財の防災・防犯に関する体制づくり	138

第8章 文化財の保存・活用の推進体制	139
---------------------------	------------

1. 計画の進捗管理と自己評価の方法（推進協議会の設置）	139
2. 京丹後市の推進体制	140

参考資料	145
-------------	------------

参考資料1 指定等文化財一覧	145
参考資料2 関連文化財群リスト	157
参考資料3 計画の骨子	175

序章

1. 計画作成の背景と目的

本市は、京都府の最北端、日本海に突き出た丹後半島に位置しています。市内には、弥生時代に造られた国内最大級の墳丘墓の赤坂今井墳墓や、古墳時代に造られた日本海側最大の前方後円墳の網野銚子山古墳など「丹後王国」ともいうべき勢力が存在したことを示す数多くの遺跡があります。これらは、丹後半島の立地をいかし、古くは大陸からの玄関口として交易により栄えたことを示しています。

奈良時代には、丹波国から5郡を割いて丹後国が成立し、これが現在の「丹後」という地名のはじまりとなりました。その後は、都のあった京都に近い立地や、日本海に面した壮大で優れた地形を生かし、農業・漁業・織物業のほか、近年は機械金属業・観光など様々な分野で発展を続けてきました。

こうした長い歴史の中で育まれた遺跡・寺社・町並み・食文化・民俗行事・民俗芸能等の様々な文化財は、日本最古の羽衣伝説や麻呂子親王の鬼退治伝承、小野小町伝承など数多くの伝説・伝承とともにまちの「宝」として大切に守り伝えられ、現在も私たちの生活の中に息づいています。

また山陰海岸国立公園、丹後天橋立国立公園に指定された丹後半島の海岸は、断崖絶壁や砂浜が織りなす美しいコントラストが特徴です。全国初の禁煙ビーチとして知られる琴引浜は、地域住民による清掃活動が行き届いており、美しい鳴き砂の浜を楽しむことができます。

本市では、これらの豊かな文化財をまちづくりの重要な財産と捉え、文化財の掘り起こしと総合的な保存・活用、まちづくりへの展開等を目的として、平成18年(2006)9月に「京丹後市文化財マスタープラン」を策定しました。この計画に基づき、網野銚子山古墳などの遺跡整備のほか、市史編さん事業、資料館事業など文化財の保存・活用に関わる様々な施策や事業を展開してきました。

加えて、京都府(京丹後市)、兵庫県(豊岡市・香美町・新温泉町)、鳥取県(岩美町・鳥取市)にまたがる山陰海岸は、日本海形成期の地質がよくわかるという学術的な価値とともに、琴引浜のように地域住民自らが保全・活用に取り組んできた活動が評価され、「山陰海岸ジオパーク」としてユネスコ世界ジオパークの認定を受けています。また平成29年(2019)4月には、丹後2市2町(宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町)による『300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』が日本遺産に認定されるなど、他市町と連携した文化財等の保存・活用を目的とした広域的な取り組みも推進してきました。

一方で、人口減少・少子高齢化等による社会構造の変化、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化、デジタル技術の発展に伴う情報化社会の進展等、本市を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。それに伴いコミュニティや人々の意識も変化し、本市の文化財は、無任の寺社の増加や伝統行事・民俗芸能の中止・廃絶、文化財の周辺景観の変容など、破壊や滅失の危機にあるものも少なくありません。また本市は、昭和2年(1927)の北丹後地震(丹後震災)を経験し、文化財についても寺社建造物などを中心に大きな被害を受けました。近年は、地球温暖化による高温多湿化など厳しい環境変化のほか、集中豪雨等による大規模災害の頻発など、自然の脅威に晒される文化財が数多く見受けられます。

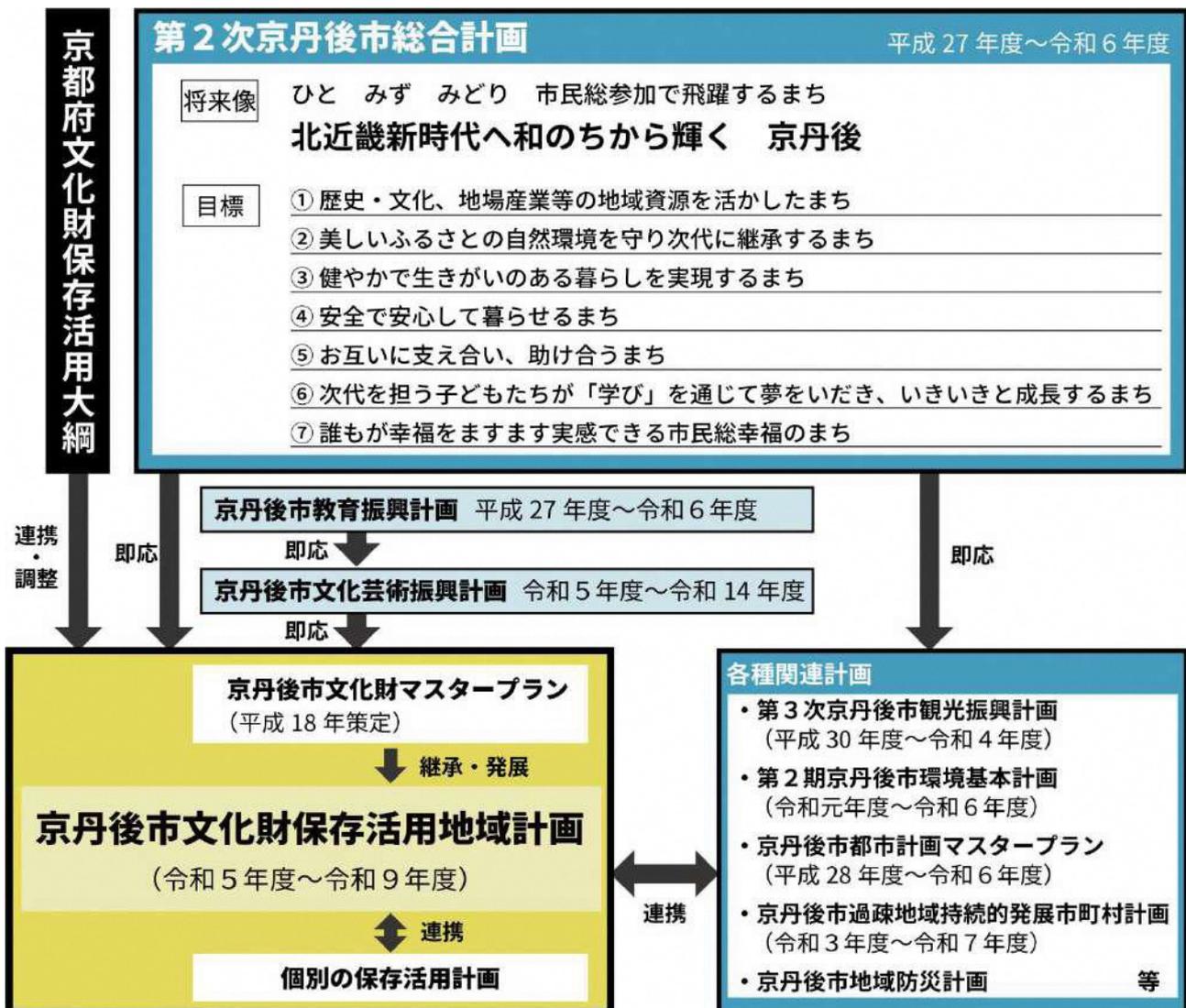
こうした背景を踏まえ本市では、「丹後半島」における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化や文化財を「光」と捉え、「光」を未来につなぐ誇りあるまちづくりを進めることで「丹後半島に語り継がれる先人の息遣いが感じられるまち～輝きの古代から煌めきの未来へ～」を達成するため、行政、市民、所有者、観光・商工関係団体、専門家などが協働して「京丹後市文化財保存活用地域計画」(以下、「地域計画」といいます)を作成します。

2. 地域計画の位置づけ

市の最上位計画である、平成 27 年（2015）に策定された「第 2 次京丹後市総合計画」（以下、「第 2 次総合計画」といいます）では、まちの将来像として「ひと みず みどり 市民総参加で飛躍するまち 北近畿新時代へ和のちから輝く 京丹後」が示されています。その中で、「歴史・文化、地場産業等の地域資源を活かしたまち」や「美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するまち」、「次代を担う子どもたちが「学び」を通じて夢をいただき、いきいきと成長するまち」などが目標として掲げられています。

地域計画は、平成 18 年（2006）9 月に策定された「京丹後市文化財マスタープラン」を継承・発展し、法定計画として作成するもので、市の最上位計画である第 2 次総合計画の将来像を歴史文化の面から実現する計画として位置づけられるとともに、「京丹後市教育振興計画」、「京丹後市文化芸術振興計画」に即し、「第 3 次京丹後市観光振興計画」や「第 2 期京丹後市環境基本計画」等の市の各種関連計画との連携を図りながら運用するものとして位置づけます。さらに、今後作成を予定している史跡・天然記念物等に関する個別の保存活用計画と連携することで、着実な計画の推進を図ります（図序-1）。

また、地域計画は、京都府が令和 2 年（2020）3 月に策定した「京都府文化財保存活用大綱」と齟齬が生じないように、整合を図ります。



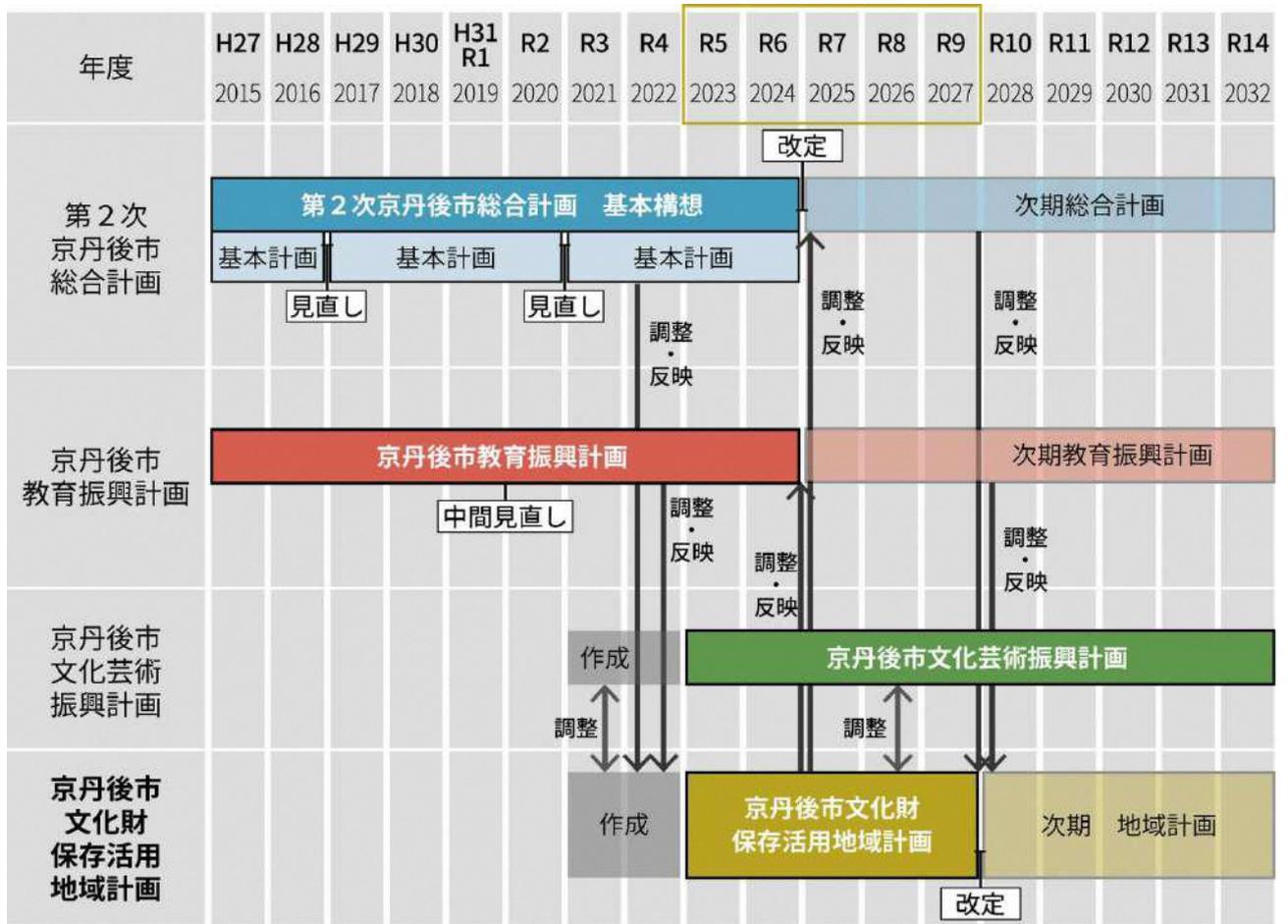
図序-1 地域計画の位置づけ

3. 計画期間

地域計画の計画期間は、令和5年（2023）度から令和9年（2027）度までの5年間とします。地域計画は、本市における文化芸術に関する基本的な方針を示す京丹後市文化芸術振興計画＜計画期間：令和5年（2023）度から令和14年（2032）度＞と連動させながら推進します。

地域計画に基づく事業については、10年先の長期的な目標も見据えながら、原則5年間で実施するものとします。なお、市の最上位計画である第2次総合計画＜計画期間：平成27年（2015）度から令和6年（2024）度＞等との齟齬が生じないように、計画の策定・改定時、相互に計画内容を反映させるなど、適宜関係課と調整し、整合を図ることとします。

また、地域計画について軽微な変更を行う際には京都府を通じて文化庁に報告し、計画期間の変更や市内の文化財の保存に影響を与えるおそれのある変更、地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更等の大きな変更が必要となった場合には、計画期間中であっても変更の認定を文化庁に申請します。



図序-2 計画期間

4. 計画作成の経緯・体制

本市では、「京丹後市文化財保存活用地域計画」の作成を目的に、令和3年（2021）10月に「京丹後市文化財保存活用地域計画協議会」（以下、「協議会」といいます）を設置しました（表序-1）。

令和3年（2021）11月22日の第1回協議会を皮切りに、計4回の協議会を開催し、本市における文化財の保存・活用に係る方針及び具体的な措置の内容等を検討し、計画（案）を取りまとめました。協議会での計画（案）の作成後、京丹後市文化財保護審議会、京丹後市議会における計画（案）の説明・報告を経て、令和4年（2022）●月●日の第●回教育委員会定例会での承認を受けて、「京丹後市文化財保存活用地域計画」を作成しました（表序-2）。

表序-1 京丹後市文化財保存活用地域計画協議会の構成

分類	氏名	所属等	備考
所有者	中江 吉徳	京丹後市区長連絡協議会委員（幹事）	令和4年5月31日まで
所有者	小倉 伸	京丹後市区長連絡協議会委員（監事）	令和4年6月1日から
学識経験者	菱田 哲郎	京都府立大学文学部教授（考古学）	
学識経験者	東 昇	京都府立大学文学部准教授（近世史）	
学識経験者	上杉 和央	京都府立大学文学部准教授（歴史地理学）	
学識経験者	松原 典孝	兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科 講師（地質学）	
学識経験者	藤田 泰弘	京丹後市文化財保護審議会	
商工関係	増田 俊彦	京丹後市商工会	
観光関係	中村 秀雄	海の京都DMO京丹後地域本部 （京丹後市観光公社）峰山支部長	
観光関係	池田 香代子	京丹後宿おかみさんの会	
観光関係	丸田 智代子	琴引浜ガイドシンクロ代表	
観光関係	飯島 徹	WILLER TRAINS 株式会社代表取締役	
その他	小林 朝子	丹後暮らし探究舎	
その他	水口 政弘	NPO法人まちづくりサポートセンター事務局長	
その他	友松 祐也	NPO法人わくわくする久美浜をつくる会理事長	令和4年3月31日まで
その他	東 哲	NPO法人わくわくする久美浜をつくる会理事	令和4年4月1日から
その他	森 正	京都府教育庁文化財保護課課長	

表序-2 作成の経緯

年月日		内容
令和3年 (2021)	8月6日	第1回京丹後市文化財保護審議会にて「京丹後市文化財保存活用地域計画」策定について報告
	9月27日	京丹後市文化財保存活用地域計画作成に向けた文化庁意見照会
	11月22日	第1回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会
	12月22日 ～3月7日	京丹後市文化財保存活用地域計画作成に向けた庁内協議
令和4年 (2022)	1月31日	第2回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会
	2月18日	第1回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会保存分科会
	2月24日	第1回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会活用分科会
	3月9日	第2回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会保存分科会
	3月22日	第2回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会活用分科会
	3月30日	京丹後市文化財保存活用地域計画作成に向けた文化庁意見照会
	4月8日	第3回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会保存分科会
	4月25日	第3回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会
	5月11日	京丹後市文化財保存活用地域計画作成に向けた文化庁意見照会
	6月15日	京丹後市議会文教厚生常任委員会にて「京丹後市文化財保存活用地域計画(案)」を報告
	6月21日 ～7月11日	「京丹後市文化財保存活用地域計画(案)」のパブリックコメントの実施
	6月●日	京丹後市文化財保存活用地域計画作成に向けた文化庁意見照会
	7月15日	第4回京丹後市文化財保存活用地域計画協議会
	7月●日	令和4年度第1回京丹後市文化財保護審議会にて「京丹後市文化財保存活用地域計画(案)」について審議
	●月●日	第●回教育委員会定例会において「京丹後市文化財保存活用地域計画」の作成について承認

表序-3 京丹後市文化財保護審議会の構成

役職名	氏名	地域	備考
委員	藤田 泰弘	弥栄町	
委員	足達 礼三郎	久美浜町	
委員	田中 光浩	峰山町	令和4年3月31日まで
委員	吉岡 百代	峰山町	令和4年4月1日から
委員	尾崎 容樹	峰山町	
委員	澤 吉博	網野町	
委員	松尾 秀行	網野町	
委員	芝野 吉実	久美浜町	
委員	水口 政弘	大宮町	
委員	畑中 順二	丹後町	
委員	小西 安子	大宮町	

5. 用語の定義(地域計画の対象とする範囲)

地域計画の対象とする範囲について、文化庁の指針^{※1}には、次のように記されています（下線は本市が追加）。

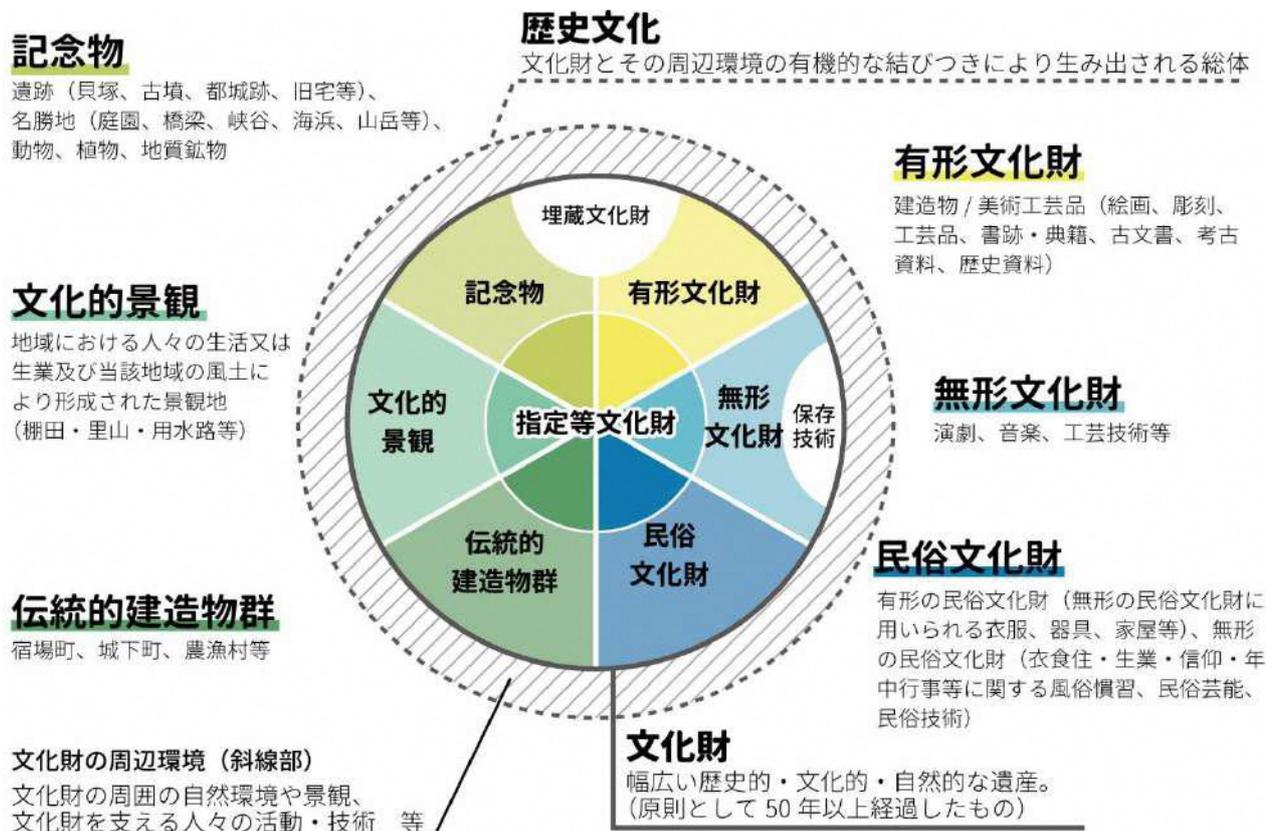
本指針の対象とする「文化財」とは、法第2条に規定される有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6つの類型をいう（なお、この中には国や地方公共団体に指定等されたものだけでなく、何ら行政による保護措置が図られていない、いわゆる未指定文化財も含まれる）。

また、法に規定される土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）や文化財を次世代へ継承する上で欠かせない文化財の材料製作・修理等の伝統的な保存技術についても、幅広く対象とすることが有効である。

※1…指針とは「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針」（令和3年6月14日変更）を指す。

この視点を踏まえ、本市の地域計画においても、文化財保護法令に基づく指定等の有無にかかわらず、全市域にひろがる幅広い歴史的・文化的・自然的な資産を文化財と捉え計画の対象とします。なお、計画の対象とする文化財は、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群の6つの類型に加え、埋蔵文化財及び伝統的な保存技術を含み、原則として50年以上経過したものとします。

また、文化財とその周辺環境（文化財の周囲の景観や文化財を支える人々の活動、技術等）の有機的な結びつきにより生み出される総体を「歴史文化」と定義し、将来へつなげることを目指します。



図序-3 文化財と歴史文化の概念

第1章 京丹後市の概要

1. 自然的・地理的環境

1-1. 京丹後市の位置・面積

京丹後市は、京都市から直線距離で約 90 km、京都府の最北端に位置します。市域は、東西約 35 km、南北約 30 km、面積 501.85 km²あり、日本海に突き出た丹後半島の大部分を占めます。

市域の4割を占める山地には、北近畿最大級のブナ林など緑豊かな風景が広がり、標高 400～600m の山々から流れる竹野川などの流域に盆地が形成されています。海岸線は、断崖絶壁と砂浜が織り成すコントラストが特徴で、大半が山陰海岸国立公園と丹後天橋立大江山国立公園に指定されています。特に経ヶ岬から丹後松島、屏風岩、立岩へと続く海岸景観、鳴き砂の浜で国の天然記念物及び名勝に指定されている琴引浜、北近畿一のロングビーチで約8kmも続く小天橋から浜詰海岸や久美浜湾などが特に美しく有名です。これら海岸線を中心とした地形、地質は、数々の激しい地殻変動や火山活動、海食によって生じた奇岩・怪岩・洞窟を形成しており、日本海の成立から現在まで、大地の成り立ちやそこに暮らす人々のくらしの歴史を体感できる地域として、平成 22 年（2010）10 月に、「山陰海岸ジオパーク」が世界ジオパークに認定され、平成 26 年（2014）、31 年（2019）には、ユネスコの正式事業となった世界ジオパークに再認定されています。

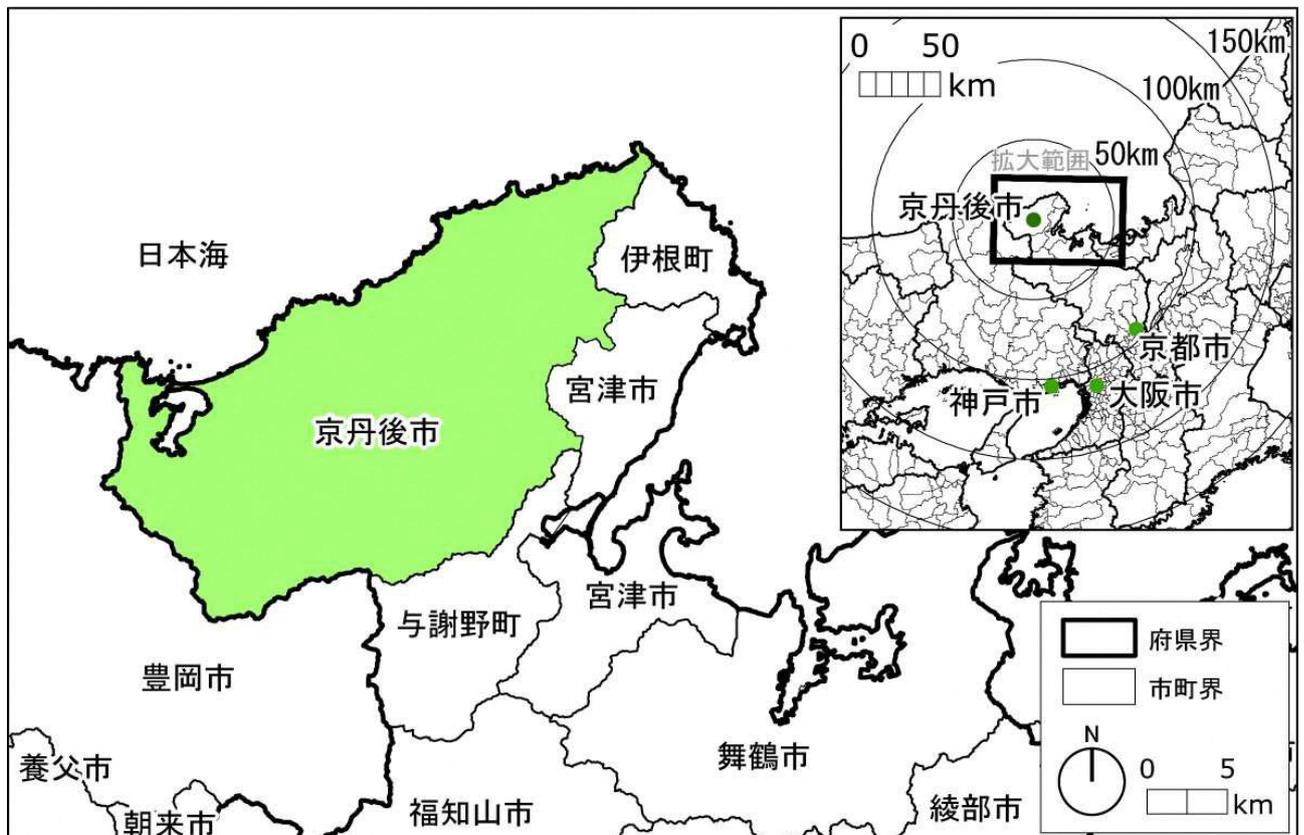


図1-1 広域位置図

資料:基盤地図情報 25000(京都府・兵庫県)より作成

1-2. 地名・地区区分

丹後国は「たにわのみちのしりのくに」と呼ばれ、和銅6年(713)に加佐郡、与謝郡、丹波郡、竹野郡、熊野郡の五郡が丹波国から分かれ、成立しました。分国以前の丹波国は、現在の京都府亀岡市以北全域と兵庫県氷上郡、多紀郡を範囲とする広大な国であり、その中心は丹波(京丹後市峰山町)にあったとされています。飛鳥、奈良時代に都が置かれた藤原宮、平城宮から出土した荷札木簡、正倉院宝物の「絶」、平安時代前期に編さんされた『和名類聚抄』などには、現在の大字地名が郷名として記されています。室町時代に入ると、長祿3年(1459)の「丹後国郷保荘惣田数帳」や天文7年(1538)の「丹後国御檀家帳」には、さらに多くの大字地名が記されています。その後、江戸時代には村の領域が完成し、現在の区の大部分はこの領域を引き継いでいます(図1-2、1-3)。

江戸時代の丹後国は、当初、全域を宮津藩が支配していましたが、元和8年(1622)に宮津、田辺、峯山(峰山)の三藩に分割されました。その後、藩主の入れ替わりに際して江戸幕府の直轄領(天領)が加わるようになり、享保20年(1735)には天領支配の拠点として久美浜代官所が置かれました。明治4年(1871)の廃藩置県で、丹後は宮津・舞鶴・峰山・久美浜の4県となりました。このうち久美浜県は、久美浜代官所の管轄であった丹後・丹波・但馬(兵庫県北部)・播磨(兵庫県南部)・美作(岡山県)の5か国にまたがる広域なものでした。同年11月、丹後、但馬および丹波天田・氷上・多紀の3郡は豊岡県となり、さらに明治9年(1876)には、豊岡県が廃止され、丹後、丹波は京都府に編入されました。

明治22年(1889)の町村制施行では、単独移行した一部の町村を除き、町村合併が行われました。この明治期の町村の単位は小学校の設置単位でもあり、現在も地域のまとまりとして機能しています。

戦後、昭和28年(1953)には町村合併促進法が制定され、その前後には昭和の合併が進みました。昭和25年(1950)に網野町の合併、昭和26年(1951)の大宮町の合併、昭和30年(1955)の峰山町、丹後町、弥栄町、久美浜町の合併が行われ、丹後3郡は峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町の6町となりました。さらに平成16年(2004)4月1日には、6町が対等合併し、京丹後市が発足しました。市発足後も、昭和期の町は住所表記に残り、現在も市民局や地域公民館などの枠組みとして機能しています。また地区公民館は、その多くが明治期の町村単位で設置されています。

一方、神社や祭礼行事、民俗行事の基本単位である区は、大部分が江戸時代の村の単位であり、人口規模、面積ともに大小さまざまな規模のものがあります。

以上のように京丹後市は、昭和期の町、明治期の町村、江戸時代の村を引き継いだ区という地域区分があり、それぞれ地域性や歴史の積み重ねがあります。

以上のように京丹後市は、昭和期の町、明治期の町村、江戸時代の村を引き継いだ区という地域区分があり、それぞれ地域性や歴史の積み重ねがあります。

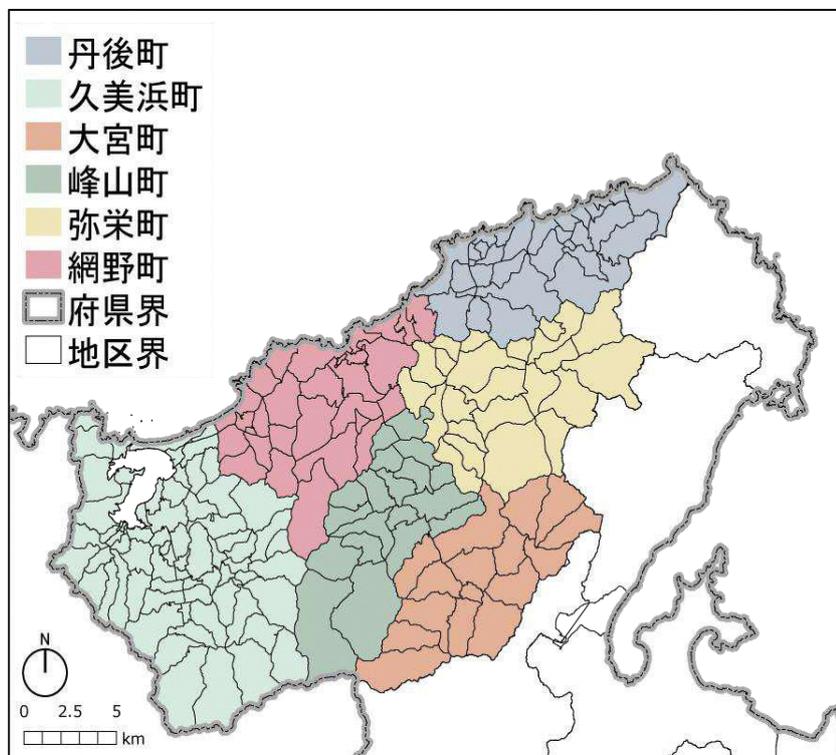


図1-2 京丹後市発足前の各町域と字界

資料：地図で見る統計(統計GIS)、国勢調査2000(境界データ)より作成
字界は国勢調査2000によるもの

1-3. 自然環境の特性

(1) 地形・地質

【概観】

丹後半島は、中国山地から丹波高地へ連続する山地の北縁部に位置し、北東—南西方向の断層によりわかれた丹後地塊を形づくっています。この地塊は、東西約 40 km、南北約 20 km の長方形ブロックであり、京丹後市はこの中におさまります。日本海に面した北部は、東の経ヶ岬から西の久美浜湾まで海岸段丘や砂浜など変化に富んだ海岸線を形づくっています。市域の南部は、高度 500~600m の磯砂山、高竜寺ヶ岳、法沢山などの山が連なっており、北に向かって高度が徐々に低くなります。市域の東部は、おもに固い火山岩からなる高度 500~700m の高原状地形であり、宇川などの河川が深い浸食地形をつくっています。これに対して市域の西部は、竹野川および佐濃谷川・川上谷川の両流域に幅広い低地がひらけ、おもに風化した花崗岩からなる高度 100~200m の比較的 low 平らな丘陵が広く発達しています。また久次岳および河梨峠と三原峠を結ぶ二つの南北方向の山地が両流域を分けています。このような東西 2 地区の対照的な地形的特徴は、東部が活断層による断層ブロックとして、西部より新しく隆起したことを示しています。

【平野の地形】

市域で最も大きな平野を形成しているのは竹野川流域です。竹野川は、大宮町五十河付近を源流とし、丹後町竹野で日本海に注ぐ全長 27.6km の丹後半島最大の河川です。周辺の山地は、風化が進んだ花崗岩からなるため、風化によりマサ化した砂礫が下流に運ばれます。そのため竹野川流域には、砂礫質で水分を吸収する力が大きい土壌のため、水田に利用されにくい扇状地が多く分布します。扇状地の末端部は、湧水帯ができる場合が多いため、集落が形成されやすくなっています。

また竹野川沿いの大宮町三重から下流部及び支流の鱒留川流域では、河岸段丘が発達しています。河岸段丘は高位、中位、低位があり、洪水時にも冠水することが少ないため、古くから集落が形成されました。低位面は、中流部の大宮町周枳や河辺、峰山町新町・新治周辺に広く発達しています。

一方、佐濃谷川・河上谷川流域は、河岸段丘地形が少なく、沖積低地が広がります。沖積低地の中で河川とは段差があって冠水しにくい場所には、集落が形成されています。

【山地の地形】

市域の東部は高原状の地形を呈し、標高 600~700m の山頂が並んでいます。最高峰は五十河北方の高山（宮津市、702m）で、ここから北にかけて高尾山（620.2m）、金剛童子山（613.4m）、太鼓山（683.1m）などが続きます。

市域を流れる河川の多くは、南部に分水嶺があるため、南から北に流れています。太鼓山付近を源流とする宇川は、上流部で急斜面を伴う V 字谷をつくり、いくつもの支流と合流して山地内を北流します。弥栄町霰、野中などの集落付近では、狭長な谷底平野をいったん形成しますが、弥栄町田中から下流の丹後町鞍内にかけては、山地内を再び蛇行しながら V 字谷を形成します。こうした河川の浸食によって、落差約 20m の味土野大滝など特徴的な景観が形成されています。

丹後半島の山地には、数多くの地すべり地形が見られます。その分布には地域差があり、市域の西半部、花崗岩類の分布域にはほとんど見られません。地すべり地形の多くは、市域の東半部、高度 500~700m の高原状地形を形づくる火山岩中に見られ、特に依遅ヶ尾山の周辺に集中します。地すべり地形は、粘土層をすべり面とし、地下水の影響を受けてできあがった場合が多く、山地であっても湧水が豊

富なため、集落や棚田などに利用されています。

【海岸の地形】

市域北部の海岸沿いには、海岸段丘が発達しています。段丘面は、下位、中位、上位に大きく分類されますが、この中で最も連続性が見られるのは中位面で、最終間氷期（約13万年前）の海進期にできあがったものです。特に丹後町袖志から中浜にかけては幅が広く、厚さ10m以上の海進期の堆積物がみられます。海岸段丘の景観は、段丘上の水田と日本海のコントラストが美しく、印象深いものです。

海岸砂丘は、海岸の砂が風によって移動・堆積して形成された高まりで、市域では久美浜低地帯と網野峰山低地帯の海岸部などでみられます。丹後砂丘（久美浜砂丘）は、小天橋砂州の先端から木津川河口付近まで広がる府下最大のもので、東西6km、幅1km、面積約590haの規模です。現在、砂丘地では、飛砂防止のためにクロマツやニセアカシア等が植林されており、見た目には砂丘地とわからない場合も多いです。

このほか市域には、久美浜湾、離湖など、砂州や砂丘等により外海と切り離されて形成されたラグーン（潟湖・海跡湖）が見られます。久美浜湾は、約40万年前までにその骨格が形成されました。約13万年前には湾奥の位置まで海域が広がりましたが、約5万年前の最終氷期には海面が大きく低下しました。約6千年前の縄文海進期には、海面下に小天橋砂洲が形づくられ、その後、さらに発達した砂洲が陸地となり、現在の久美浜湾ができあがりました。

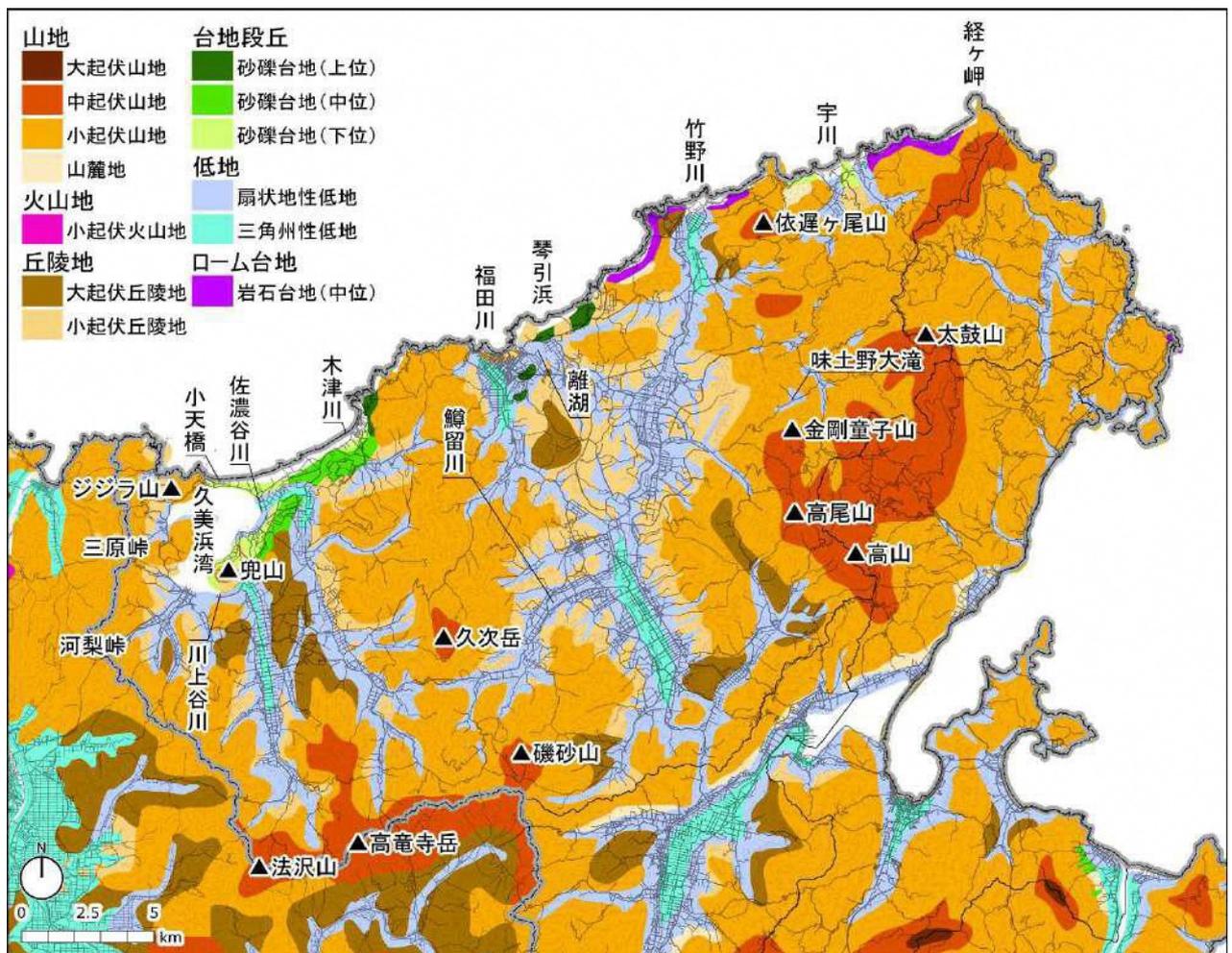


図 1-4 地形区分図

資料:20 万分の 1 土地分類基本調査(地形区分)より作成

【地質】

丹後半島には、日本列島ができる前後の時代の岩石や地質が広くみられます。市域の約半分を占め、特に西部の内陸部によくみられる花崗岩は、およそ5,000~6,000万年前のユーラシア大陸の地下で、マグマがゆっくり冷えて固まった岩石です。これは海岸の白砂のもとになる石英・長石や砂鉄の原料である磁鉄鉱などの鉱物からなり、風化すると崩れやすいマサ土になります。このように風化した花崗岩地帯は土木工事が容易であり、集落に近い花崗岩の丘陵では、国営農地開発がなされています。また花崗岩に含まれる磁鉄鉱は、風化により砂鉄として取り出すことができます。日本古来の製鉄であるたたら製鉄は、この砂鉄を木炭で高温にした炉で溶かして鉄を取り出す技術です。市域には古墳時代後期および奈良時代の製鉄遺跡である遠處遺跡（弥栄町木橋）、江戸時代に操業したと推定されるたたら製鉄跡（久美浜町奥山）などの製鉄遺跡が残っています。

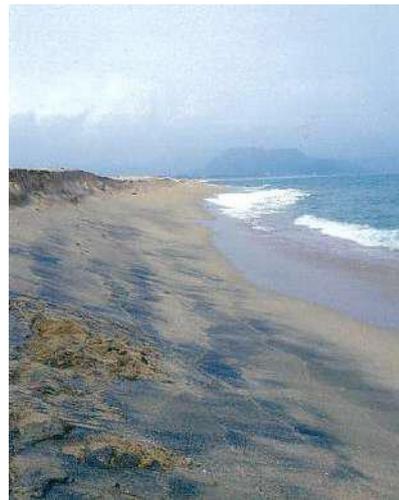
一方、半島東部、スイス村のある太鼓山周辺などの山間部には、およそ2,000万年前にユーラシア大陸の縁で起こった噴火で流れ出た安山岩、玄武岩がみられます。同じ時代の玄武岩質安山岩は、甲坂不動尊天長の滝（久美浜町甲坂）や神谷神社の磐座（久美浜町新町）付近に点在します。

さらに、東部の海岸部には、1,500万年前、日本列島ができたころの噴火で流れ出た溶岩が固まった安山岩や流紋岩、火砕流が堆積した凝灰岩がみられます。竹野川河口域にある安山岩でできた立岩と屏風岩が代表的なもので、どちらにも溶岩が冷え固まるときにできた柱状節理がみられます。また流紋岩の溶岩は流れにくいので、噴火時にはドーム状の火山を作ります。久美浜湾岸の兜山やジジラ山等は、噴火したドーム状火山の残骸とされています。

1,500万年前にできあがった日本海の海底に堆積した地層は、泥岩・砂岩・礫岩として、丹後半島の各地で見られます。鳴き砂で知られる国の名勝、天然記念物の琴引浜では、砂浜の下に硬い岩石が見え隠れしています。これは、火山灰が海水と反応して緑色となった凝灰岩の一種で、グリーンタフとも呼ばれています。また泥岩の地層の表面には、様々な筋状の模様が見えますが、これは生痕化石といって、海底で巣穴を掘り、這いまわった生物の痕跡です。同じく鳴き砂で知られる丹後町の砂方浜では、砂岩層の下の泥岩層から、海の生物の化石がみつかっています。



真砂の採土



久美浜町箱石浜の砂鉄



甲坂不動尊天長の滝



琴引浜 生痕化石

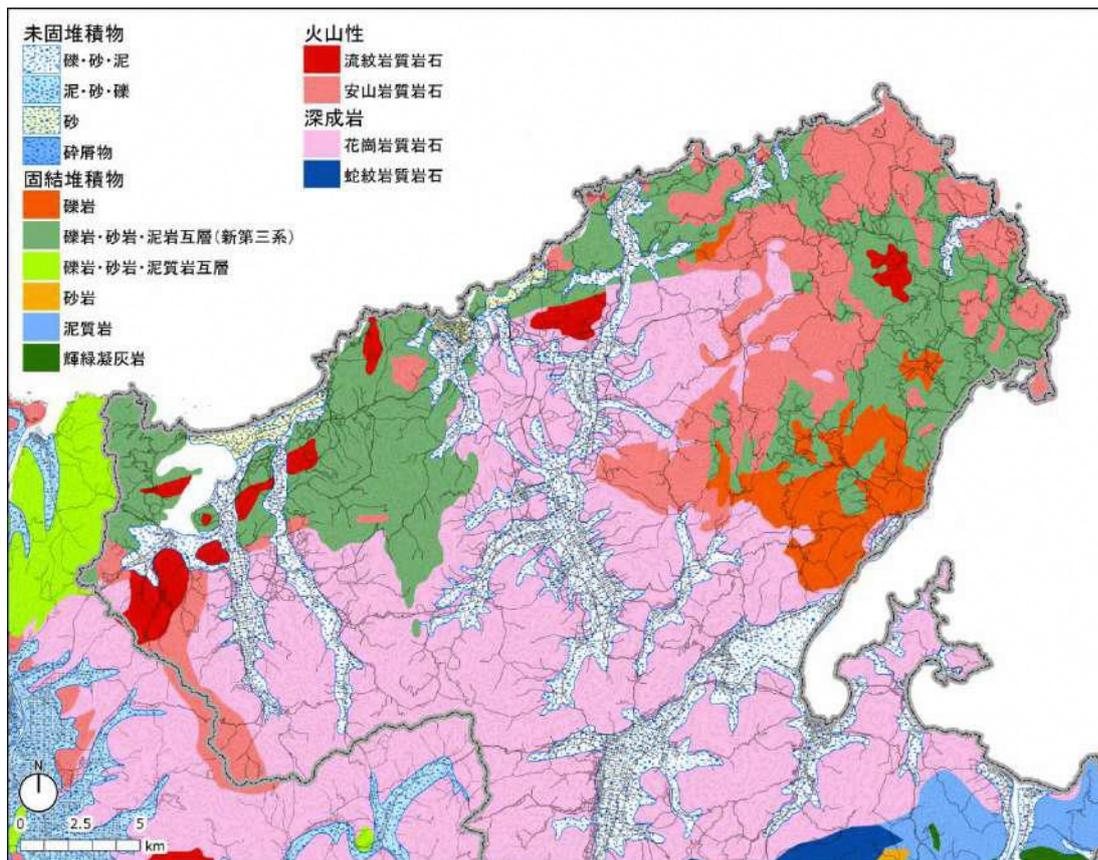


図 1-5 表層地質図

資料:20 万分の 1 土地分類基本調査(表層地質)より作成

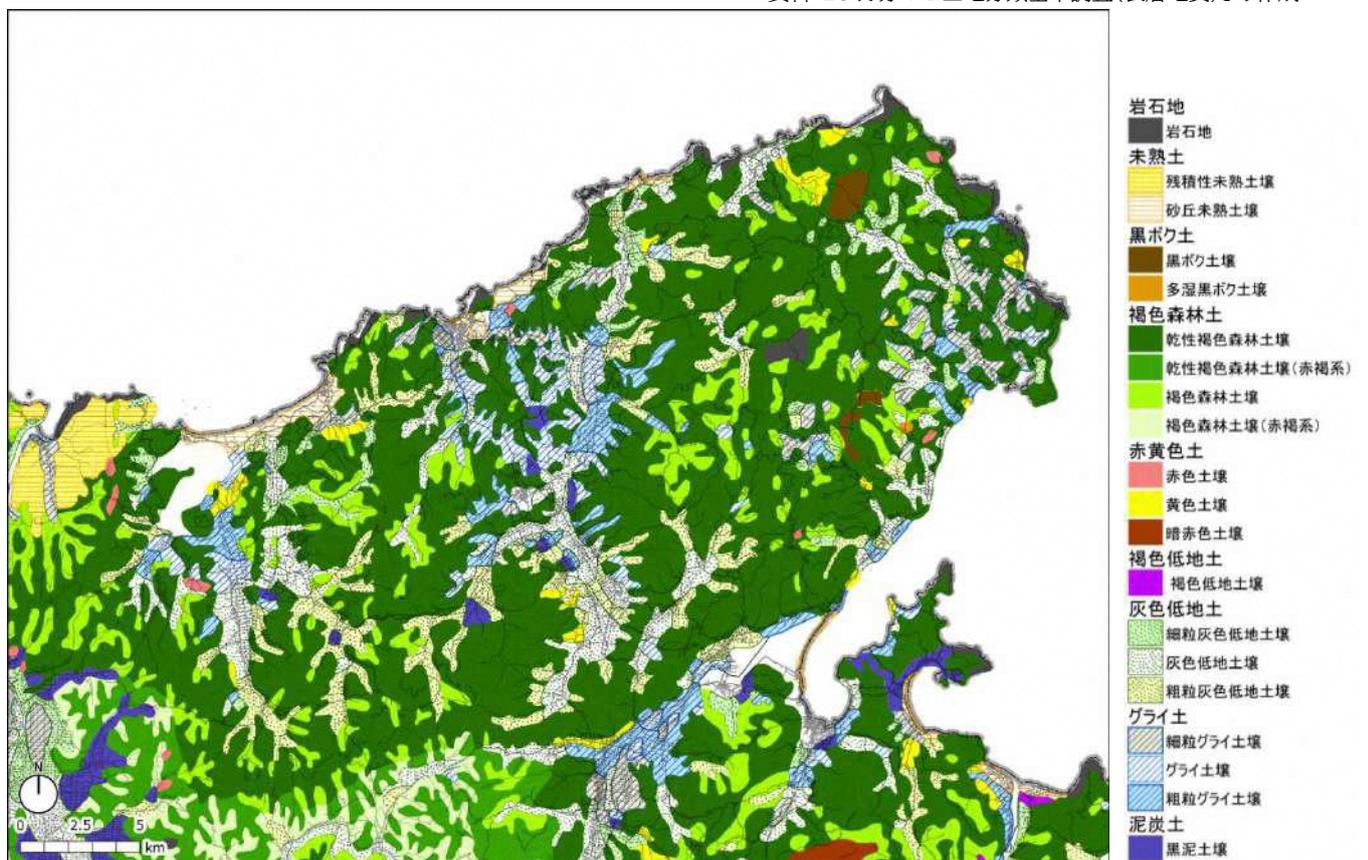


図 1-6 土壌分類図

資料:20 万分の 1 土地分類基本調査(土壌分類)より作成

(2)水系・水利

本市の主な水系は、東から順に、宇川、竹野川、^{ふくだがわ}福田川、^{きのだにがわ}佐濃谷川、^{かわかみだにがわ}川上谷川です。これらは約8kmの間隔に並んで、南から北に流れ、日本海にそそぐという特徴があります。

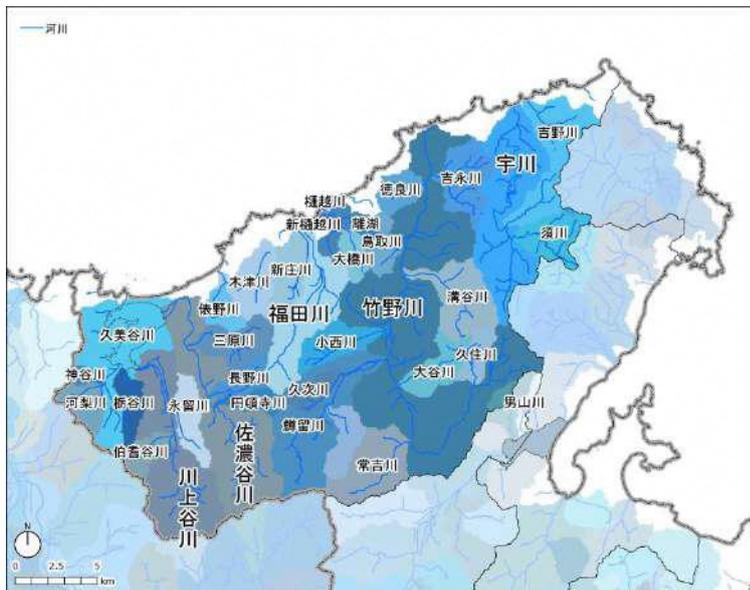


図 1-7 主な河川と流域区分図

資料：国土数値情報・流域メッシュ(平成 21 年)より作成

(3)気候

京都府北部に当たる丹後半島は、夏の日照時間が長く、冬が短い^{にほんかいきこう}日本海気候の特徴が顕著であり、冬の降雪は多く、比較的温暖な北陸・山陰型に属しています。この気候区は、冬に北西からの湿った季節風の影響で曇天が多く、^{たしつ こうすい}多湿で降水・降雪量も多くなるという特徴があります。「弁当忘れても傘忘れるな」という言葉は、冬の「うらにし」気候の特徴を言い表しています。また冬季に西高東低の気圧配置になると、大陸から冷たい湿った空気が日本海に流れ込み、温暖な^{つしまかいりゅう}対馬海流の水蒸気を吸収して湿った空気となり、日本海に到来します。これが山地にぶつかって、雪雲が発生し、日本海側に大雪をもたらします。しかし近年はほとんど積雪のない年もあり、その原因としては^{おんだんかげんじょう}温暖化現象が考えられます。

令和 2 (2020) 年度の^{まいざかんそくじょ}間人観測所及び宮津観測所の月平均気温は、最も寒い 2 月で 6.3~7.4℃、最も暑い 8 月で 28.1~28.2℃となっています。一方、都市部で頻出する^{ひんしゅつ}ヒートアイランド現象は見られません。

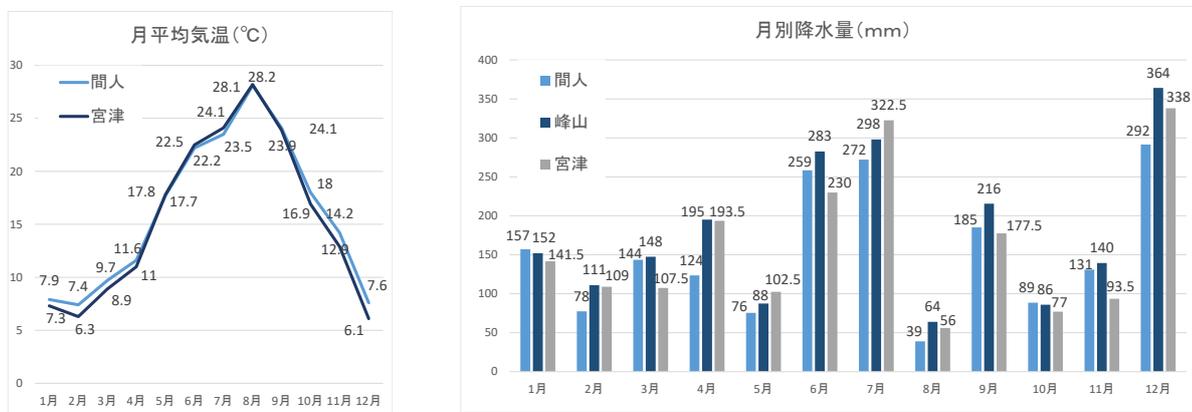


図 1-8 月別平均気温と月別降水量

※間人観測所(京丹後市丹後町間人小字新ヶ皿)、峰山観測所(京丹後市峰山町荒山)、宮津観測所(宮津市字上司)における令和2年度の計測値(資料：気象庁)より作成

(4)生態系

自然豊かな市域には、多様な植生が見られます。日本海に面している沿岸部の砂浜や岸壁地にはクロマツが広く分布しています。また人手のあまり入っていない海岸に近い丘陵斜面では、スダジイ、タブノキなどが優占する常緑広葉樹林が見られます。また山地のほとんどはアカマツ、コナラ、シデ類等の二次林でしたが、松枯れによってアカマツが減少し、常緑広葉樹のスダジイの勢力が強くなっています。集落周辺では、かつては農家によりモウソウチクなどの竹林が利用されていました。しかし現在は十分な管理がなされなくなり、繁殖力の強さから、周辺の杉人工林や広葉樹林に侵入し分布を拡大しています。一方、標高の高い500m以上の山地には、ミズナラなどの冷温帯性の落葉広葉樹林が広がっています。京丹後市と宮津市の境界域には、ブナを中心とした冷温帯落葉広葉樹林が分布し、内山ブナ林として知られています。ほかには、兵庫県との境界に近い高竜寺ヶ岳にも分布しており、近畿地方では残り少ない貴重な森林です。また丹後町乗原などの水田下には、スギの埋没林が見られます。かつては広い範囲でスギの自然林が分布しましたが、現在はまったく残っていません。

市内の名勝・天然記念物としては、郷村断層（国指定天然記念物）や、宗雲寺庭園（京都府指定名勝）等の19件が指定されているほか、京都府環境保全地区として、竹野神社文化財環境保全地区等の5件が決定されています（次頁表）。

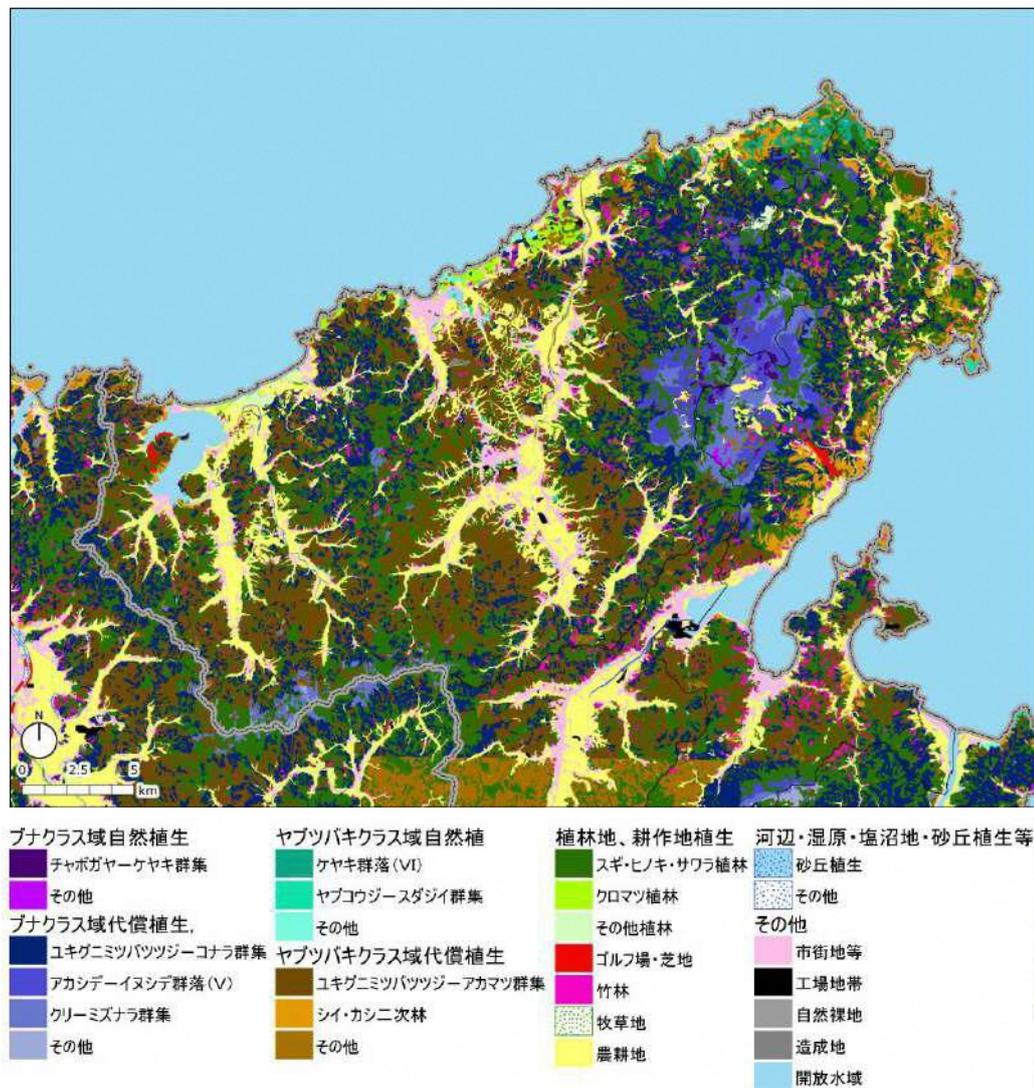


図 1-9 植生区分図

資料：自然環境保全基礎調査・第6・7回植生調査より作成

表 1-1 名勝・天然記念物一覧

番号	指定別	区分	名称	員数等	所在地	指定登録年月日	時代
1	国・指	天	郷村断層	257 m ²	網野町郷小字小池 47-1、網野町郷小字 樋口 680、網野町生 野内柱ヶ谷 186-2	昭和 4 年 12 月 17 日	昭和 2 年 (1927) 丹後 震災に伴うもの
2	国・指	名・天	琴引浜	-	網野町掛津、遊	平成 19 年 7 月 26 日	-
3	府・指	名	宗雲寺庭園	383 m ²	久美浜町新町	昭和 59 年 4 月 14 日	江戸時代後期 享和元年 (1801) 前後か
4	府・指	天	アベサンショウウオ基準 産地	-	大宮町善王寺	平成 5 年 4 月 9 日	-
5	府・指	天・名	立岩	-	丹後町間人	平成 30 年 3 月 23 日	-
6	府・登 市・指	天	アベサンショウウオ	-	-	昭和 59 年 4 月 14 日 平成 13 年 3 月 27 日	
7	市・指	名・天	五色浜周辺	-	網野町塩江	昭和 51 年 3 月 1 日	-
8	市・指	天	若宮神社のスダジイ	1 本	大宮町奥大野	平成 13 年 3 月 27 日	-
9	市・指	天	内山の大ブナ	1 本	大宮町五十河	平成 13 年 3 月 27 日	-
10	市・指	天	平海岸海浜植物群自生地	約 1 万 m ²	丹後町平	昭和 61 年 6 月 18 日	-
11	市・指	天	宇川流域天然鮎生息地	-	丹後町内小脇～平	昭和 61 年 6 月 18 日	-
12	市・指	天	八幡神社ムクロジ	1 本	峰山町鱒留	平成 20 年 7 月 8 日	-
13	市・指	天	生王部神社スダジイ	1 本	網野町生野内	平成 20 年 7 月 8 日	-
14	市・指	天	迎接寺跡シイ(ツブラジ イ)	1 本	久美浜町湊宮	平成 20 年 7 月 8 日	-
15	市・指	天	霧の宮神社八岐杉	1 本	大宮町五十河	平成 20 年 7 月 8 日	-
16	市・指	天	峰山陣屋跡エノキ	1 本	峰山町吉原	平成 20 年 7 月 8 日	-
17	市・指	天	雲松寺跡タラヨウ	1 本	久美浜町小桑	平成 20 年 7 月 8 日	-
18	市・指	名	霧降りの滝	-	網野町新庄	平成 27 年 5 月 7 日	-
19	市・指	名	無明の滝	-	久美浜町市野々	平成 27 年 5 月 7 日	-

天:天然記念物、名:名勝 ※令和 4 年 4 月 1 日現在

表 1-2 京都府環境保全地区

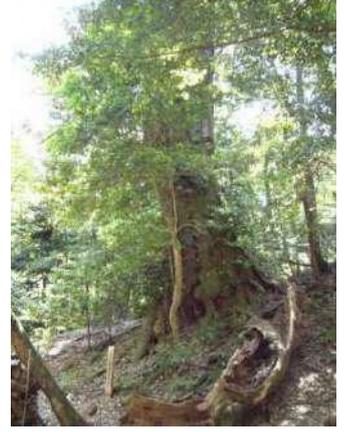
番号	指定別	区分	名称	所在地	決定年月日	時代
1	府	環	竹野神社文化財環境保全地区	丹後町竹野	昭和 60 年 5 月 15 日	-
2	府	環	神谷神社文化財環境保全地区	久美浜町新町	昭和 60 年 5 月 15 日	-
3	府	環	多久神社文化財環境保全地区	峰山町丹波・矢田	平成 16 年 3 月 19 日	-
4	市	環	三嶋田神社環境保全地区	久美浜町金谷	平成 3 年 7 月 15 日	-
5	市	環	甲坂不動尊環境保全地区	久美浜町栃谷	平成 3 年 7 月 15 日	不動尊磨崖仏:永禄 2 (1559)年銘



宗雲寺庭園



霧降りの滝



若宮神社のスタジイ



コウノトリの親子



アベサンショウウオの成体(アベサンショウウオを守る会提供)

動物の分布をみると、豊かな市域の自然環境を反映し、種類が豊富です。一方、学術的に貴重なため天然記念物に指定されている種や、野生下で生息数が少ないため、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)で「国内希少野生動植物種」に指定されている種が生息しています。

特別天然記念物のコウノトリは、兵庫県豊岡市が最大の繁殖地です。市域は、豊岡市に隣接し、学術的に見るとその生息圏に含まれます。「京丹後市生物多様性を育む農業推進計画」を進める京丹後市では、日常的にコウノトリが生息し、繁殖期には営巣、孵化、巣立ちが見られます。そのため京丹後市は、IPPM-OWS(コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル)によるコウノトリの個体群管理の取り組みに参加しています。

アベサンショウウオは、昭和7年(1932)、中郡長善村(現大宮町善王寺)姫宮神社付近で、小学生が小型サンショウウオの幼生を発見したことが始まりで、新種と認定されました。その後、種は昭和59年(1984)に京都府の天然記念物に登録され、新種認定個体が見つかった基準産地は平成5年(1993)に京都府の天然記念物に指定されました。また平成7年(1995)には、環境省(当時は環境庁)の国内希少野生動物種に指定され、その後、基準産地を含む周辺の生息地は、平成18年(2006)に善王寺長岡アベサンショウウオ生息地保護区に指定されています。また京都府は、種を京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例による指定希少野生生物に指定しています。その生息地は極めて限られており、京都府の丹後地域(京丹後市、与謝郡与謝野町)、兵庫県但馬地域、福井県嶺南南部、嶺南東部や石川県加賀西部地域のうちごく狭い範囲です。なお地元のアベサンショウウオを守る会が、生息地保護区内のアベサンショウウオの保護、観察などの活動を行い、見守りを続けています。

(5) 景観

【京都府景観資産および京都府文化的景観】

京都府には、地域固有の歴史や文化に裏打ちされた府内各地の身近な景観と、その景観を支えている地域の活動を合わせて登録する京都府景観資産登録制度があります。この制度は、景観資産としての価値を広く共有し、情報発信による地域の魅力向上、地域の景観づくりやまちづくり活動の促進を図ることを目的としています。市内では、「久美浜湾と牡蠣の養殖景観」、「丹後の立岩・屏風岩・丹後松島・経ヶ岬の海岸景観」、「琴引浜の白砂青松と鳴砂」、「城下町に由来する風情ある久美浜の街なみ」の4件が、景観資産として登録されています。また文化財としての景観保護制度では、文化的景観制度があります。京丹後市は景観条例が未制定のため、京都府景観資産に登録されたものの中から、市からの申し出により京都府文化的景観の選定が行われています。市域では「久美浜湾と牡蠣棚」と「京丹後市久美浜湾沿岸の商家建築群と街なみ景観」の2件が京都府文化的景観に選定されています。



久美浜湾と牡蠣の養殖景観

出典: 京都府「京都府景観資産」HP



「城下町に由来する風情ある久美浜の街なみ」の指定範囲



図 1-10 京都府景観資産および文化的景観の分布

【京丹後市住民協定景観形成条例】

本市では、久美浜一區（久美浜町仲町・土居・東本町・西本町・新町・新橋区）において、京丹後市住民協定景観形成条例第5条に基づく景観形成住民協定区域を設定しています。この区域内では、色彩、屋根及び庇、外壁などの材料や壁面の位置、窓や出入口など開口部の形状や色彩、階数、1階の軒高などの景観形成基準を設けており、面積が200㎡を超える開発行為や建築等の行為、工作物の設置等、規則で定める行為などを行う場合は、条例第6条に基づく届出が必要な場合があります。

また景観形成区域内において、市民が優れた景観形成を図るための自主的な努力を行おうとする場合、市は技術的援助を行い、又は予算の範囲内において財政的な援助を行うなど、支援に努めるものとしています。

このような地域主体の取り組みが早くから行われたこともあり、久美浜町一區の町並みは、京都府景観資産や京都府文化的景観に選定されています。



久美浜の町並みを構成する建物

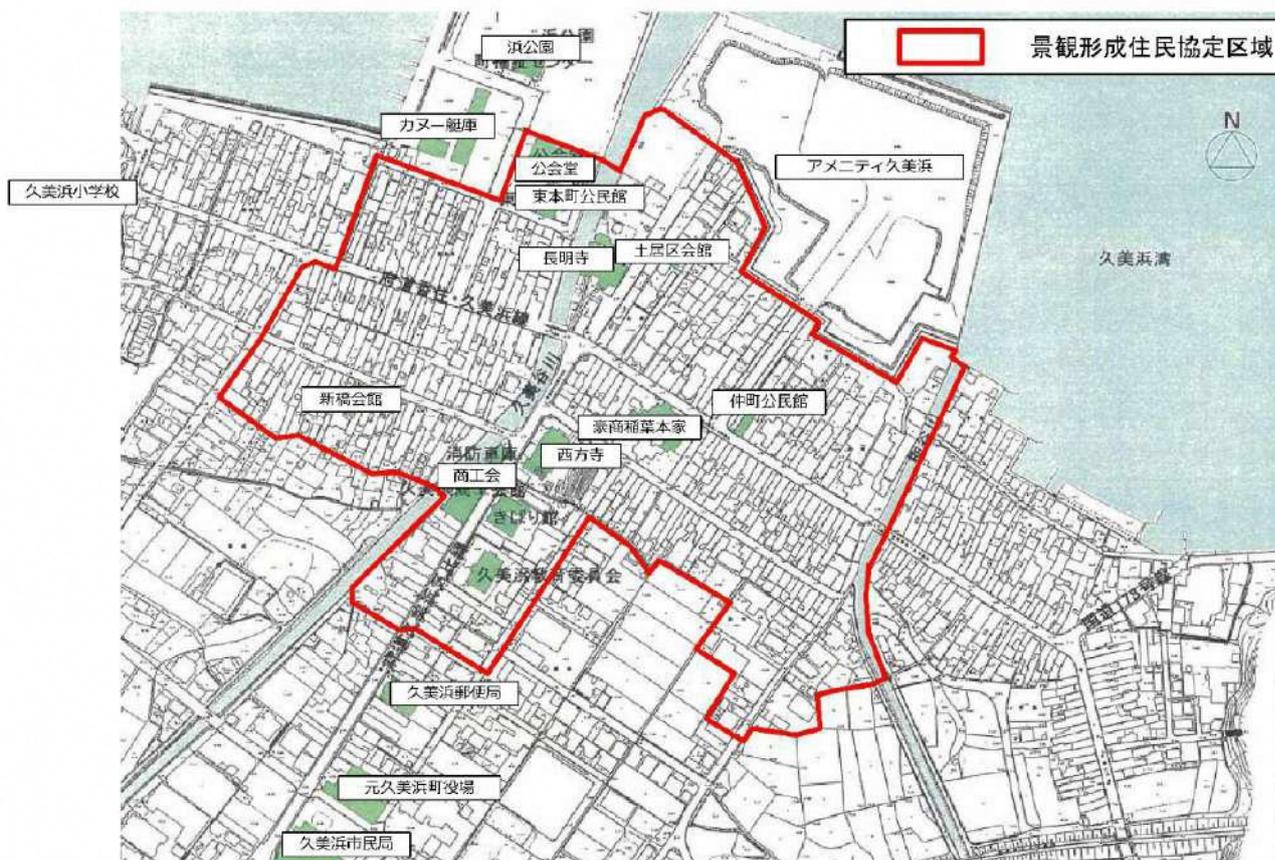


図 1-11 久美浜一區・景観形成住民協定区域 資料：京丹後市建設部資料より作成

2. 社会的状況

2-1. 人口動態

本市の人口推移をみると、昭和25年（1950）には83,001人でしたが、令和2年（2020）には50,860人と減少しています。一方、世帯数については、昭和55年（1980）には19,009世帯であり、その後は増加しましたが、平成17年（2005）の20,920世帯をピークとしてやや減少に転じ、令和2年（2020）では20,138世帯となっています。このように人口減少の一方で、世帯数増加が長期間続いたことから、結婚を機に世帯独立を行う核家族が増加したものと推測されます。また、将来推計人口をみると、令和27年（2045）には、32,255人まで減少すると予測されています。年齢区分別の人口を見ると、平成12年（2000）では老年人口（65歳以上）の割合が25.3%ですが、令和2年（2020）には38.2%と増加しています。一方、同期間での年少人口（0歳～14歳）の割合の推移をみると、16.2%（2000）から11.2%（2020）と減少しています。進学や就職で市外に転出するタイミングに該当する年齢層（15～24歳）に着目すると、「15～19歳」では5.2%（2000）から3.9%（2020）、「20～24歳」では3.1%（2000）から2.3%（2020）と、いずれも減少しています。年少人口の減少は、学校再配置を進める大きな要因となったほか、子どもを担い手とする行事の休止につながっています。

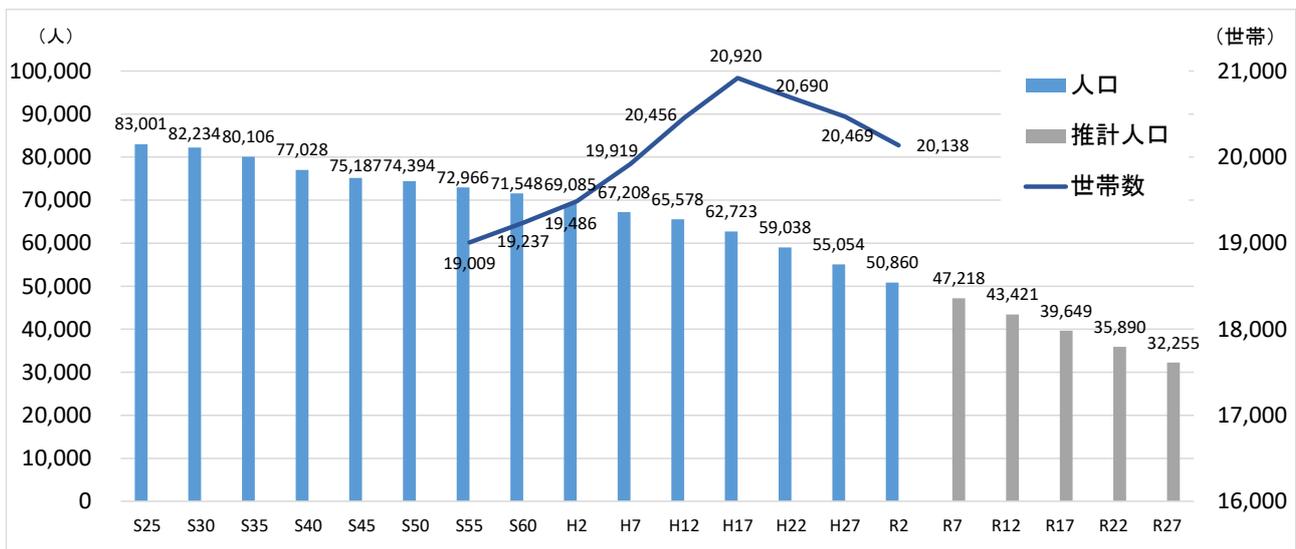


図 1-12 人口・世帯数の推移と将来推計人口

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」より作成。
注)人口及び世帯数は各調査年10月1日現在の値。平成12(2000)年度以前は、該当地域の合計値。

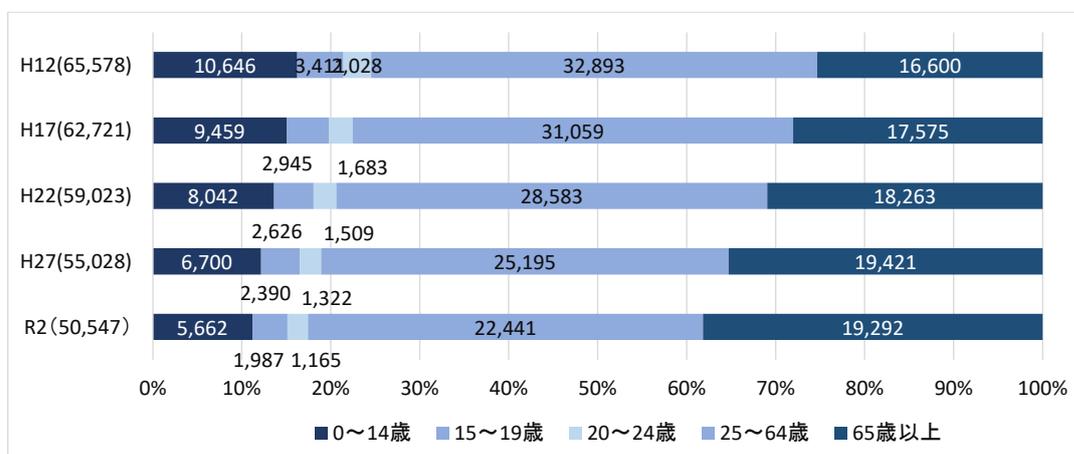


図 1-13 年齢別人口割合の推移

資料：国勢調査より作成。平成12年(2000)度は該当地域の合計値。「年齢不詳」を除いて集計。

【人口増減率】

統計区別人口の推移及び増減率をみると、平成 17 年(2005)から平成 27 年(2015)にかけての人口増減率は、弥栄町、久美浜町の山間部で-40%以下と低くなっています。一方で、竹野川流域や福田川流域の平地等では、人口は増加傾向にあります。

増減率のデータからは、市域全域で人口減少が進む一方、通勤、通学、買い物などの日常生活において便利な平地部へと人が移動する傾向が読み取れます。これは、世帯独立に際して、山間地から平地部へ居住地を移す可能性があるともいえます。

人口増減率の差異は、区の人口規模の格差が広がる要因の一つとなっています。

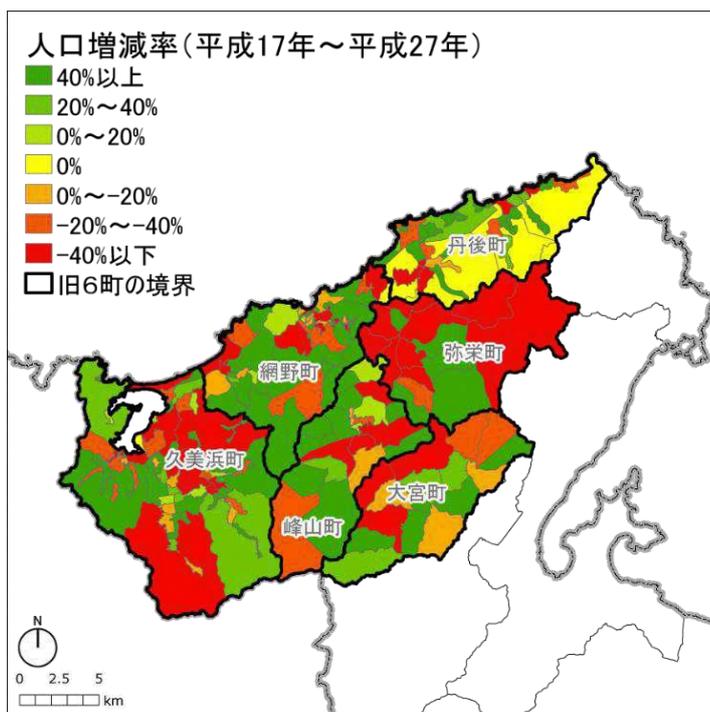


図 1-14 統計区別の人口増減率<平成 17 年(2005)～平成 27 年(2015)>

出典:国勢調査、地図で見る統計(統計 GIS)より作成

【老年人口割合の推移】

地域毎に高齢化の進行状況を把握するために、平成 7 年(1995)、平成 17 年(2005)、平成 27 年(2015)の国勢調査による年齢別人口割合を次表に整理すると、どの地域もこの 20 年間で老年人口割合が増加しています。特に平成 27 年(2015)について、老年人口割合が市全体での同割合 35.3%を超えている地域を挙げると、峰山町では、峰山(老年人口割合 37.7%)、五箇(36.2%)等 3 か所、久美浜町では一區(41.8%)、川上(40.8%)等 7 か所、網野町では、切畑(57.1%)、溝野(52.9%)等 12 か所、丹後町では竹野(46.5%)、下宇川(41.2%)等 5 か所、弥栄町は弥栄(37.6%)、野間(57.0%)と全域、大宮町では五十河(44.0%)、常吉(35.7%)等 3 か所となっています。このように、過疎化が進む山間部の集落や漁村地域での、高齢化の進行が顕著になっています。特に弥栄町野間では、既に平成 7 年(1995)の段階で老年人口割合が 42.2%と、他地域に比べて極めて高くなっています。逆に平成 27 年(2015)について、老年人口割合が 30%未満と他地域に比べて比較的少ない地域を挙げると、峰山町では長岡(老年人口割合 26.4%)、新山(新町、荒山 27.1%)、大宮町では口大野(29.6%)、周枳(25.9%)、河辺(27.9%)、善王寺(20.7%)です。これらの地域は、国道 312 号沿いに位置し、ショッピングセンターや大型店舗が立ち並びます。生活面で便利な地域であることから、新たな住宅地が形成されています。

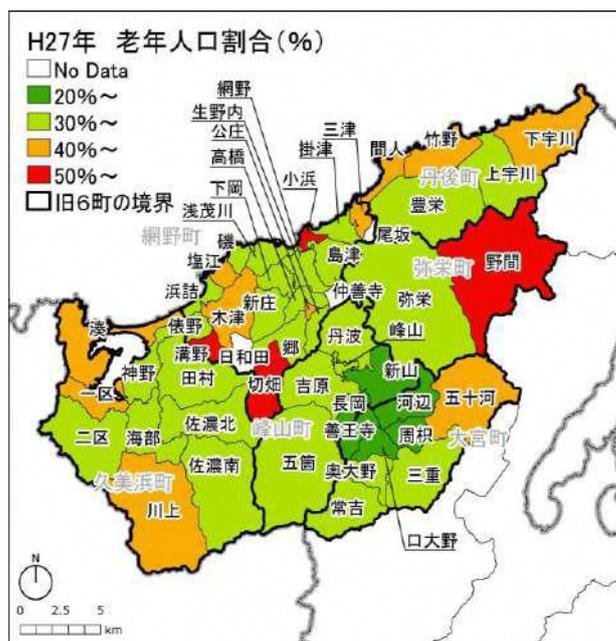


図 1-15 老年人口割合<平成 27 年(2015)>

出典:国勢調査、地図で見る統計(統計 GIS)より作成

このように市域の老年人口割合には、大きな地域差があることがわかります。

表 1-3 小地域別の年齢層別人口割合(平成 7 年(1995)、平成 17 年(2005)、平成 27 年(2015))

町	小地域※1	年	人口総数 (人)※2	年少人口 割合(%)	生産年齢 人口割合 (%)※3	老年人口 割合(%)	町	小地域	年	人口総数 (人)	年少人口 割合(%)	生産年齢 人口割合 (%)	老年人口 割合(%)
峰山町	峰山	H7	4,149	16.5	63.3	20.3	網野町 (続き)	郷	H7	597	17.8	58.8	23.5
		H17	3,629	14.6	55.9	29.4			H17	509	14.1	57.4	28.5
		H27	3,103	11.9	50.4	37.7			H27	387	10.6	54.0	35.4
	吉原	H7	2,790	18.1	63.1	18.8		生野内	H7	158	17.7	63.3	19.0
		H17	2,653	15.8	59.6	24.7			H17	143	19.6	54.5	25.9
		H27	2,399	14.0	55.2	30.7			H27	104	10.6	56.7	32.7
	五箇	H7	1,598	19.5	57.3	23.2		切畑	H7	101	23.8	41.6	34.7
		H17	1,414	13.5	57.2	29.3			H17	71	5.6	50.7	43.7
		H27	1,192	9.9	53.9	36.2			H27	42	0.0	42.9	57.1
	長岡	H7	949	16.0	59.9	24.1		新庄	H7	300	21.3	55.3	23.3
		H17	1,221	18.3	59.2	22.4			H17	261	15.7	56.3	28.0
		H27	1,362	18.6	55.0	26.4			H27	196	10.7	53.6	35.7
	新山	H7	2,690	17.1	65.7	17.2		木津	H7	1,100	15.5	62.8	21.7
		H17	2,727	17.8	59.4	22.8			H17	1,116	13.5	50.6	35.8
H27		2,678	15.9	57.0	27.1	H27	963		7.5	47.5	45.1		
丹波	H7	1,850	18.6	61.6	19.8	日和田	H7	26	53.8	46.2	0.0		
	H17	1,614	16.1	56.6	27.3		H17	X	X	X	X		
	H27	1,283	9.5	53.3	37.2		H27	X	X	X	X		
久美浜町	一区	H7	2,065	14.7	56.9	28.3	丹後町	俄野	H7	202	18.8	55.9	25.2
		H17	1,932	13.9	51.7	34.4			H17	185	18.9	54.6	26.5
		H27	1,647	10.8	47.4	41.8			H27	157	12.7	53.5	33.8
	二区	H7	1,122	19.0	54.8	26.2		溝野	H7	23	13.0	47.8	39.1
		H17	1,010	14.3	54.9	30.9			H17	25	0.0	56.0	44.0
		H27	879	10.9	51.6	37.4			H27	17	0.0	47.1	52.9
	川上	H7	1,578	16.1	56.8	27.1		浜詰	H7	1,522	18.1	64.3	17.5
		H17	1,359	11.2	55.1	33.7			H17	1,355	17.3	58.1	24.6
		H27	1,166	9.0	50.2	40.8			H27	1,183	13.7	52.4	33.9
	海部	H7	1,318	16.4	54.8	28.8		塩江	H7	286	13.6	66.1	20.3
		H17	1,204	11.5	54.2	34.2			H17	235	13.2	60.0	26.8
		H27	1,008	11.1	50.4	38.5			H27	181	6.1	53.0	40.9
	佐濃南	H7	1,152	17.9	52.6	29.5		磯	H7	163	25.2	57.7	17.2
		H17	1,019	13.8	52.9	33.3			H17	123	14.6	58.5	26.8
H27		838	11.2	52.4	36.4	H27	94		5.3	62.8	31.9		
佐濃北	H7	1,007	18.4	56.8	24.8	間人	H7	2,794	16.9	57.3	25.8		
	H17	887	11.2	57.2	31.7		H17	2,426	12.5	56.3	31.2		
	H27	785	9.6	52.9	37.6		H27	1,987	11.4	48.6	40.0		
田村	H7	1,188	19.9	54.8	25.3	豊栄	H7	1,787	19.3	55.1	25.6		
	H17	1,027	13.5	54.9	31.5		H17	1,645	14.8	54.3	30.9		
	H27	889	13.9	51.9	34.2		H27	1,442	11.2	49.7	39.2		
神野	H7	1,521	18.5	57.3	24.3	竹野	H7	787	14.0	57.8	28.2		
	H17	1,403	15.2	58.1	26.7		H17	674	11.6	49.1	39.3		
	H27	1,267	12.7	53.4	33.9		H27	525	7.6	45.9	46.5		
湊	H7	1,387	15.8	57.7	26.5	上宇川	H7	686	17.9	58.7	23.3		
	H17	1,256	11.8	52.1	36.1		H17	593	18.2	52.1	29.7		
	H27	1,117	11.5	46.4	42.1		H27	421	11.4	48.7	39.9		
網野町	網野	H7	5,019	16.6	64.4	19.0	下宇川	H7	1,553	17.2	57.5	25.3	
		H17	4,794	14.9	60.4	24.6		H17	1,207	10.9	56.3	32.9	
		H27	4,138	13.4	51.6	35.0		H27	941	7.9	50.9	41.2	
	浅茂川	H7	2,444	17.7	62.4	19.9	弥栄	H7	5,819	18.6	59.0	22.5	
		H17	2,187	15.5	58.2	26.3		H17	5,468	15.7	55.1	29.2	
		H27	1,764	11.6	53.5	34.9		H27	4,886	11.3	51.1	37.6	
	下岡	H7	939	18.4	63.0	18.5	野間	H7	306	10.5	47.4	42.2	
		H17	746	17.0	56.8	26.1		H17	237	11.4	40.5	48.1	
		H27	613	9.1	56.6	34.3		H27	172	5.2	37.8	57.0	
	小浜	H7	870	16.9	62.4	20.7	口大野	H7	2,317	18.5	62.4	19.1	
		H17	870	12.1	53.9	34.0		H17	2,467	18.2	56.5	25.3	
		H27	798	9.8	39.7	50.5		H27	2,253	14.1	56.3	29.6	
	島津	H7	1,527	17.4	64.4	18.2	奥大野	H7	980	16.7	62.3	20.9	
		H17	1,485	15.8	59.3	24.8		H17	959	16.2	59.6	24.2	
H27		1,281	10.9	53.6	35.5	H27		813	11.9	56.2	31.9		
仲禅寺	H7	45	24.4	53.3	22.2	常吉	H7	591	14.2	58.5	27.2		
	H17	27	11.1	51.9	37.0		H17	510	12.4	55.9	31.8		
	H27	17	0.0	52.9	47.1		H27	407	10.1	51.8	38.1		
掛津	H7	524	19.7	62.0	18.3	三重	H7	1,220	18.4	58.2	23.4		
	H17	479	15.4	59.9	24.6		H17	1,074	12.7	56.6	30.7		
	H27	381	10.0	57.0	33.1		H27	996	10.7	53.5	35.7		
尾坂	H7	-	-	-	-	五十河	H7	705	12.3	58.0	29.6		
	H17	-	-	-	-		H17	632	10.1	52.2	37.7		
	H27	-	-	-	-		H27	504	7.9	48.0	44.0		
三津	H7	544	17.6	62.5	19.9	周枳	H7	1,721	18.2	62.8	18.9		
	H17	480	13.3	58.1	28.5		H17	1,781	16.9	61.7	21.4		
	H27	360	4.2	49.4	46.4		H27	1,879	14.5	59.6	25.9		
高橋	H7	253	13.4	60.1	26.5	河辺	H7	1,673	19.6	62.9	17.5		
	H17	220	15.9	55.5	28.6		H17	1,703	17.1	62.5	20.3		
	H27	219	15.5	45.7	38.8		H27	1,639	15.7	56.3	27.9		
公庄	H7	53	20.8	60.4	18.9	善王寺	H7	1,209	19.9	64.8	15.2		
	H17	48	20.8	47.9	31.3		H17	1,631	22.9	63.5	13.7		
	H27	35	2.9	51.4	45.7		H27	1,620	18.1	61.2	20.7		
								京丹後市 全体	H7	67,208	17.5	60.3	22.2
									H17	62,723	15.1	56.9	28.0
									H27	55,028	12.2	52.5	35.3

※1:各年次の国勢調査における小地域(町丁・字等別)で集計している。

※2:人口総数は、年齢不詳人口を除く。「×」は秘匿地、「-」はデータなし。

※3:平成 27 年の老年人口割合が、市全体の同割合(35.3%)を超えた箇所に黄色の網掛け。出典:国勢調査より作成

2-2. 教育

【学校再配置】

戦後しばらくは、明治期の町村単位で小学校が運営され、小学校区が広域な場合は分校が設けられました。一方、大宮町域では、昭和47年(1972)の大宮第一小学校の設置を皮切りに学校統合が先行しました。

京丹後市発足後、本市と教育委員会では、少子化の進展と学校の小規模化が進む中、次代を担っていく子どもたちに、より良い教育環境や教育条件を整え「学校力」を高めるため、平成22年12月に策定した「京丹後市学校再配置基本計画」に基づいて、地域やPTAとの話し合いを持ちながら、学校の適正規模や適正配置を考えた学校再配置に取り組んできました。また、同時に進めてきた子どもたちの育ちと指導の一貫性をめざす「京丹後市学校教育改革構想」においても、小中一貫教育とともに、「まちの宝である子どもたち」を、行政、学校、地域が一体となって育成していく新しい学校づくり、地域づくりのスタートである学校再配置と連動した学校教育改革を進めるものとしていました。現在、次の図1-16に示すとおり、小学校17校、中学校6校に再編しています。なお令和4年2月には、これまでの再配置の検証結果や文部科学省が示す「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」などを踏まえ、地域の現状や市の行財政運営等を考慮するとともに、将来の小中学校の子どもたちにとって、より良い教育環境の姿を最優先に描くこととして、「京丹後市学校適正配置基本計画(京丹後市学校再配置基本計画改定版)」を定めています。

【保幼小中一貫教育】

本市教育委員会では、平成24年(2012)11月に「京丹後市の学校教育改革構想」を策定し、「子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指して」をテーマとして、平成26年(2014)度から小中一貫教育を順次導入しました。本市の小中一貫教育は、中学校区を単位として、既存の校舎を活用した「施設分離型」で実施しています。中学校区ごとに教育目標である「目指す子ども像」を設定し、校区内の離れた場所にある小学校と中学校がカリキュラム、生徒指導の方針などを一貫させ、互いに連携、協同しながら一体となった教育活動を系統的に行ってきました。令和2年度より「保幼小中一貫教育」と名称を改め、就学前の保育所や幼稚園を加え、中学校卒業までの10年間を見据えた保幼小中一貫教育を進めており、定期的にモデルカリキュラムの見直しを行っています。

【丹後学の取り組み】

本市では、学習を通して郷土への誇りと愛情を育て、地域を通して自己の生き方、あり方を考えるため、本市の「人」、「環境」、「文化」を学ぶ「丹後学」を保幼小中一貫教育モデルカリキュラムとしています。

幼稚園・保育所を0期として中学校2・3年までのⅢ期までに区分し、地域の人々との協働によって、地域から学ぶ学習、地域と連携したキャリア教育を進めています。

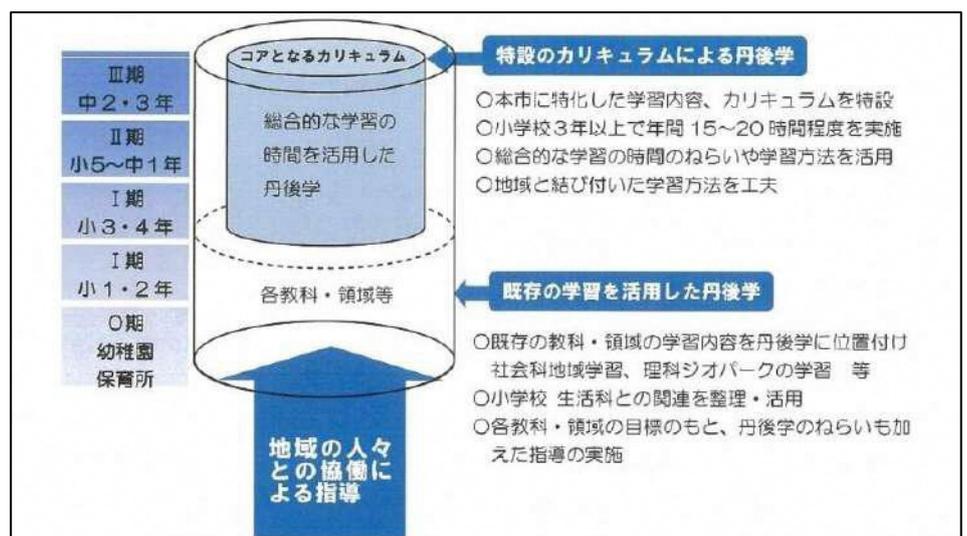


図1-16 丹後学のグランドデザイン

出典:京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラム@丹後学:カリキュラムの概要と活用

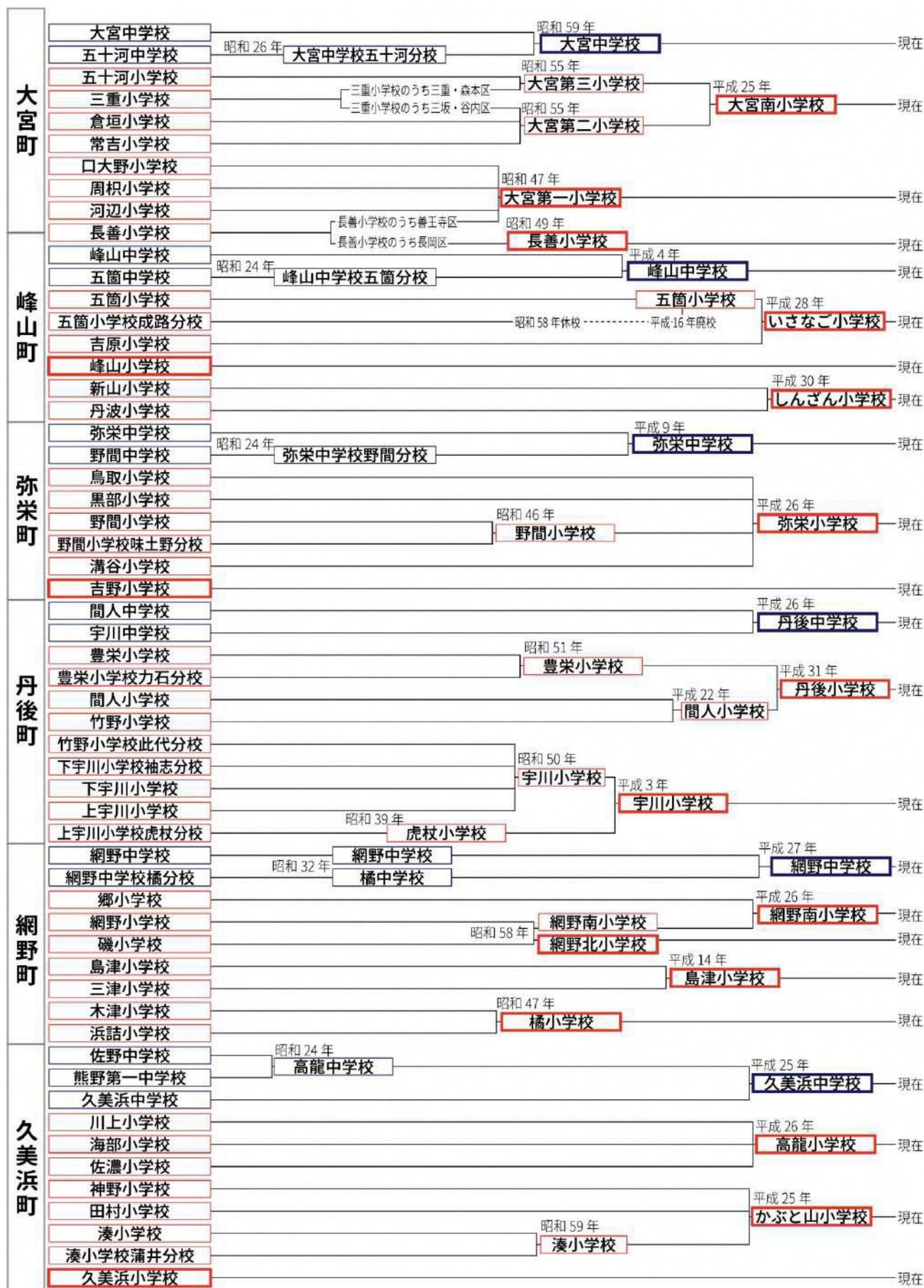


図 1-17 市内の小中学校再編の推移

2-3. 産業

【農業】

本市の花崗岩地帯の山々とその周辺は、昭和後期より国営農地開発事業などが進み、現在では京都府下最大規模の農業地域となっています。

花崗岩地帯を水源とするきれいな水を活用した水稲のほか、海岸砂丘におけるメロン、スイカ、サツマイモなどの栽培、海岸段丘や丘陵地ではナシやモモなどの果樹栽培が行われています。主な農産物は、水稲の他、大豆、小豆、さつまいも、かぼちゃ、大根、ブロッコリーのほか、黒大豆や水菜、九条ネギを中心とした「京野菜」の生産が特筆されます。近年はお茶の生産も増加しています。これらの農産物は、貴重な観光資源のひとつとなっています。

一方で、過疎化・高齢化に伴う農業従事者や後継者の減少による労働力不足、農産物の輸入自由化や価格低迷に加え、野生鳥獣による農作物被害も年々深刻になっています。近年は、農業の生産機能だけでなく、集落自治機能、国土保全、環境保全など、農業の持つさまざまな機能が見直されています。こうした中で、新規就農者や後継者の確保、育成、地産地消の仕組みづくり、観光農園の活用など、農業振興に向けた取り組みが進められています。近年では、「美食観光事業」として、四季折々の京丹後らしい特色ある農林水産物を使用したスイーツを開発・製造して、市内の店舗・施設等で販売しています。



安納芋を利用したタルト



琴引浜の塩を利用したきんつば



ブドウ、モモを利用したゼリー

【漁業】

丹後では、古代より、豊かな海のもと、漁業が盛んに行われてきました。現在も、網野町浜詰や久美浜町湊宮ではブリ漁に用いる定置網漁が行われています。また、間人カニを対象とした底曳き網漁業等により豊かな魚介類が水揚げされています。さらに、中浜地区では一本釣りの漁法が受け継がれています。また、自然の景勝がそのまま残る本市の海域は、山から流れてきた養分がそのまま海に入り込み、植物性プランクトンが豊富です。このため、サザエ、アワビなどの貝類が餌とするワカメ、テングサ、アラメ、ホンダワラなどの海草類がたくさん生息するため、黒アワビが特産となっています。

近年は、漁獲量の減少や輸入魚産物の増加による魚価低迷、漁業従事者の高齢化や後継者不足などの課題を抱えていますが、漁港漁場の整備だけでなく、サザエやアワビなどの稚貝やアユ、クロダイ、ヒラメの稚魚の放流など、「つくり育てる漁業」を推進しているとともに、漁業をまもり育てていくための様々な取り組みを進めています。久美浜湾湊宮では、近年、若い世代によるカキ養殖業の事業展開がみられるだけでなく、中浜漁港では婦人部による黒アワビの養殖が進められるなど、育てる海業によって得られる恵みが本市の特産品として注目を浴びています。

さらに、観光立市を目指す本市では、観光産業と連携した“地産地消”の取り組みや漁業体験事業、漁業や海を活用した一日漁師体験などのアクティビティを柱とした「海業」の取り組みなどを進めています。また、本市の特徴的な産業である漁業について、総合的な学習の時間に地域漁業に関する講座を本市職員が行い、子どもたちに郷土の良さを知ってもらい取り組みを進めています。

【酒造業】

古代の丹後の酒造業の記録としては、『丹後国風土記』逸文に記される羽衣天女伝説のほか、大宮売神社(大宮町周枳)の祭神大宮売神が宮中の造酒司に祀られていること、丹後国から酒米を納めたことが記された平城宮木簡が見つかることが特筆されます。

本市では、花崗岩地帯から流れでるきれいな水と米により、竹野酒造、白杉酒造、木下酒造、吉岡酒造場、熊野酒造など多くの造り酒屋が操業し、さまざまな味覚、風味が楽しめる日本酒がつくられています。近年は、市内の造り酒屋で体験試飲や酒蔵見学が行われるなど、観光事業との連携も進んでおり、映画の舞台として知られる酒蔵もみられます。



映画の舞台として知られる酒蔵

また丹後町宇川を中心とした地域では、かつて丹後杜氏が出稼ぎに出ていました。その歴史は江戸時代にさかのぼるもので、海が荒れて漁に出ることができない冬季の厳しい気候の時期に行われた出稼ぎでした。その後、大正から昭和期にかけては、近畿や北陸を中心に全国で活躍し、各地で名酒を生産しました。

【丹後ちりめん】

日本での織物技術は、弥生時代に稲作とともに普及しました。古くは、弥生時代後期の今市墳墓群(大宮町河辺)出土の「やりがんな」に巻いた絹糸、古墳時代前期のカジヤ古墳(峰山町杉谷)出土の筒形銅器について、天平11年(739)、鳥取郷(弥栄町)から貢納され正倉院宝物に残る「純」があります。また南北朝期から室町時代初期とされる『庭訓往来』には全国の特産品の中に「丹後精好」があげられています。「精好」とは、生地が緻密で張りを持つ絹織物で、主に上質の袴に使用された絹織物です。

江戸時代前期の京都では、友禅染の技法が開発され、その染め下地として西陣で燃系を伴う「ちりめん」の白生地が織られました。同じ時期の丹後では、農家の副業として「撰糸」や「紬」が生産されていましたが、当時の峰山藩は災害や飢饉が重なり、藩財政や生活が困窮していた時期でした。峰山の絹屋佐平治(森田治郎兵衛)は、西陣で修行奉公の末、享保5年(1720)にちりめんの技法を丹後にもたらしました。佐平治が初めて織ったちりめん布は、禅定寺(峰山町小西)に納められ、現在も寺宝として大切に保存されています。さらに寛政元年(1789)、峰山藩は藩令により「反別検査と改印制」を実施して粗製乱造を防ぐことにしました。この制度が丹後ちりめんの「品質検査制度」の始まりで、丹後機業史の中で画期的なものといわれています。また文政3年(1820)には、峰山藩のほか宮津藩などの機屋が連携し、口大野村に「三領分大会所」と呼ばれる組織を造りました。その後、天保11年(1840)の『諸国産物大数望』では、西の小結に「タンゴ縮緬」が記されるまでに発展しました。また金刀比羅神社(峰山町泉)境内社の木島神社には、養蚕の敵であるネズミを取るのが猫であるため、狛犬の代わりに大変珍しい狛猫が祀られています。

明治期に入ると、生糸や織物は、重要な輸出品となりました。丹後ちりめんも海外向けの製品が求められ、国内向けには、燃系を使わないちりめん風の旭織や、大宮町口大野の蒲田善兵衛が発明した綿ちりめんなどが作られました。これらは、ちりめん生産に粗製乱造傾向を生むことになったため、大正から昭和戦前期には丹後織物同業組合(現在の



綿縮緬始祖蒲田氏記念碑

丹後織物工業組合が設立され、丹後震災からの復興を経て、精練を丹後で行う「国練」が実施されました。ちりめん製造は、個人経営の賃機のほか、足米機業場（網野町島津）などの大型のちりめん工場が稼働しており、技術面の指導は京都府立織物試験所（現在の京都府織物・機械金属振興センター）が行いました。試織品見本帳などは、当時のようすを伝える資料です。また絹糸の原料となる蚕を飼う養蚕は、大正年間が最盛期でした。昭和20年代までは盛んに行われ、農家の大切な収入源でした。遠下の風穴（丹後町遠下）は、蚕の卵である蚕種を保管した場所でした。

戦時中の中断期を経て、戦後も海外向け生産が引き続き行われました。転機となった高度経済成長期には、和服生地を生産が中心となり、いわゆる「ガチャ万景気」のもと、昭和48年（1973）に生産量は頂点に達しました。その後、生産量は減少しますが、一方で着物以外の分野の開発や海外への挑戦を行う事業者もあり、現在の丹後ちりめんは新たな展開を見せています。

市では、平成26年（2014）12月には、蚕種業、養蚕業、製糸業、絹織物業、絹製品製造加工業など、現在の蚕糸・絹業の振興を図るとともに、絹の素材・機能を活用したヘルスケア産業、医療・医薬産業、産業素材産業など新たな絹産業の創業や事業創出をめざして、『新シルク産業創造研究会』を創設し、検討を行い、平成28年（2017）3月に「絹のふるさと京丹後推進プラン」を策定しました。

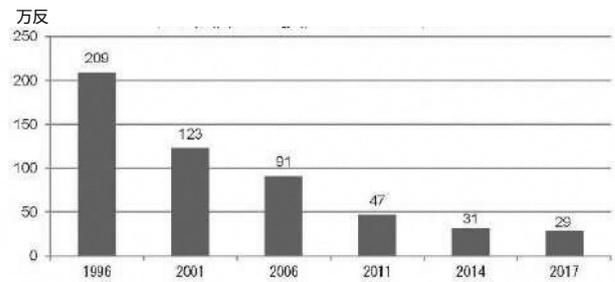


図1-18 丹後織物産地の推移(ちりめん生産量)

資料:丹後織物工業組合調査

【機械・金属産業】

織機調整技術者や戦時中の疎開工場出身者による起業をルーツとし、その後中核企業の地域貢献により市内取引関係の構築も進む中、機械・金属産業が大きく躍進しました。機械計算機の生産が本格的となり、昭和44年（1969）には、生産台数が国内シェアの40%を占めていました。これが基礎となり、ミシンの部品やオートバイ部品、自動車部品の生産から工作機械製品の製造が丹後の「ものづくり」の基盤を支えています。機械・金属産業を支える人材、特に若者のものづくり離れや新規学卒者の市外流出により、人材の高齢化や人材不足が課題となっていますが、関係団体や企業が一体となって、産業人材の確保、育成に取り組み、企業誘致による新規雇用の場づくりなど、新しい働き方の創造に取り組んでいます。

【ものづくりのふるさと丹後】

『丹後国風土記』の羽衣天女は、万病に効く酒を造った豊宇賀能売神、すなわち伊勢神宮外宮の豊受大神と記されます。丹後には元伊勢伝承があり、天女が祀られた奈具神社をはじめ豊受大神を祀る神社があります。近世にさかのぼる伝承として、月輪田（峰山町二箇）は、豊受大神による稲作発祥の地と伝え、木津（網野町）の地名の由来は、垂仁天皇の時代に橘を持ち帰った菓子作りの祖、田道間守命との関係が伝わっています。ヤマトタケルの祖母である垂仁天皇の皇后は、丹後出身のヒバスヒメであり、そこから想起されたと思われまます。

本市のものづくりの源流は、後世の伝説・伝承を根拠とする場合が多いですが、一部は古代にさかのぼるものです。

【観光客数と観光産業】

京丹後市の観光産業は、夏季の海水浴、冬季のカニを中心に、昭和 50 年代頃から平成 10 年（1998）頃にかけて大きく成長し、平成 10 年には年間観光入込客数が 223 万人に達しました。しかし海水浴やカニによる誘客が減少したことに加え、旅行形態の変化、旅行ニーズの多様化などの要因により、平成 24 年（2012）には観光入込客数が 172 万人にまで落ち込みました。その後、平成 25 年（2013）からは府北部 7 市町の連携による広域的滞在型観光を目指した「海の京都」の取組がスタートし、平成 26 年（2014）には「海の京都観光圏」として国の認定を受け、平成 27 年（2015）には「海の京都博」の開催、また平成 27 年の京都縦貫自動車道全線開通、平成 28 年（2016）の山陰近畿自動車道「京丹後大宮インターチェンジ」までの延伸なども相まって、令和元年（2019）には、観光入込客数が 212 万人まで回復しました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、緊急事態宣言の発出や外出自粛の要請が行われ、多くの観光施設で閉館、休業、入場制限等が行われたこと、各種イベントの中止等から、令和 2 年（2020）度は 165 万人まで減少しました。

観光を取り巻く課題としては、①観光客の滞在時間が短く、日帰り客数と比較して宿泊客数が伸び悩んでいること、②高速道路開通による観光客増が客単価増につながっていないこと、③夏・冬の「二季型の観光地」で、年間を通じた安定した誘客が実現していないこと、④外国人旅行客の誘致が不十分であること、⑤観光地としての認知度が低く、効果的な観光情報の発信ができていないこと、⑥評価が高い「食」の魅力が十分に活用されていないこと、⑦ジオパークが育む地域資源、四季折々の魅力が十分に生かされていないこと、⑧地域や業界等が一体となって取り組む体制、機運が不十分なこと、⑨観光業を支える人材不足、が挙げられています。

出典：第 3 次京丹後市観光振興計画「"旬"でもてなす食のまち」、京都府観光入込客数

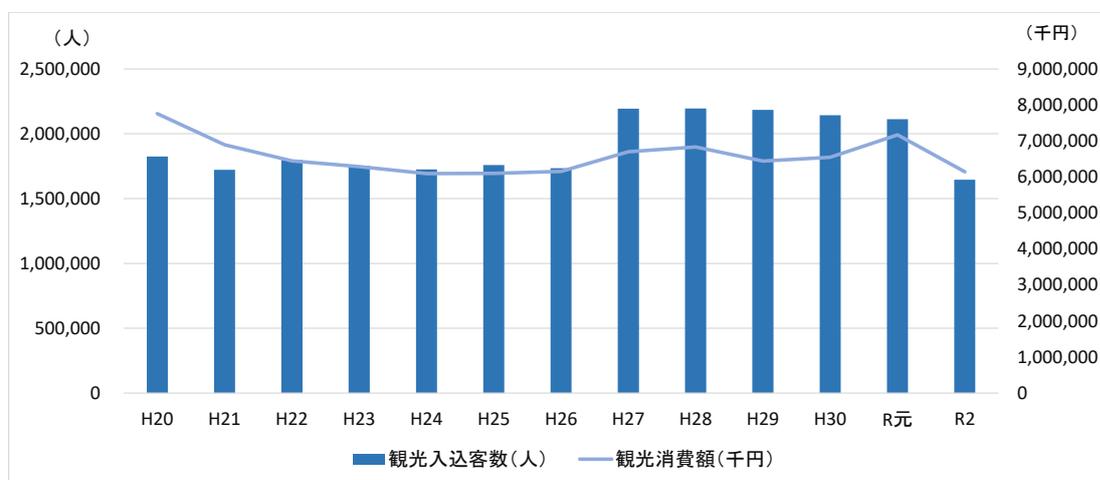
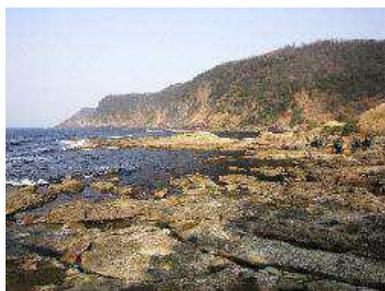


図 1-19 観光入込客数・観光消費額の推移

資料：京都府観光入込客数及び観光消費額



五色浜



経ヶ岬灯台



アミティ丹後

資料：京丹後市 HP

【観光振興策の展開】

本市は平成 21 年(2009)の「京丹後市観光立市推進条例」の制定以降、「京丹後市観光振興計画」(平成 21 年(2009):第1次、平成 25 年(2013):第2次)を策定して観光施策を推進してきました。しかし、観光を取り巻く本市の諸課題に対応した新たな観光立市の実現を目指すことが求められることから、第3次京丹後市観光振興計画(“旬”でもてなす食のまち～ジオの魅力あふれる「滞在型観光地へ」)(計画期間:2018～2022 年度)を策定しました。

第3次観光振興計画では、「他地域との差別化」を図り、「本市の強みを活かせる、絞り込みの戦略」として「旬」と「こだわり」を持つ「食でもてなす観光」を中心に、「ジオパークが生み出す、魅力ある多様な資源」を活かした、四季を通じた「滞在型の観光地づくり」を進めることをコンセプトに掲げています。

計画の基本方針として、①「旬」でもてなす食の観光を徹底的に推進する、②ジオパークや四季の魅力を活かした「体験・滞在型の観光地」をつくる、③外国人旅行者、宿泊客等の誘致を強化する、④「ジオ・スポーツ」や「ジオ・アクティビティ」で観光交流人口の拡大を目指す、⑤徹底したマーケティング手法で戦略的に観光情報を発信する、⑥地域総ぐるみの観光地づくりを推進する、の6つを掲げ、この基本方針に基づく施策を展開しています。

さらに6つの基本方針のなかでも、①と②を重点的かつ優先的な基本方針と位置づけ、基本方針②の戦略的なプロジェクトとしては、日本遺産「丹後ちりめん回廊」の織物業や「ハイテクランド」を構成する機械金属業などの特色ある産業を活かした「産業観光」の展開や「丹後王国」などの歴史や遺跡、ふるさとの伝説を観光に活用することを掲げています。

計画の基本方針を受けた重点的な戦略プロジェクトとして、美食観光、まち歩き観光、体験型・産業観光、教育旅行などのアクションプランを実行するため、ジオパーク主要スポットや日本遺産「丹後ちりめん回廊」構成文化財のほか、間人・竹野の漁師町や峰山の金刀比羅神社周辺、網野や浅茂川の機屋の町並み、久美浜の歴史的町並み、湊宮の町並みなどの町歩きスポットを観光振興計画マップとして取り上げています。

こうした観光振興計画に基づく戦略的な取り組みとして、京丹後市観光公社(以下「観光公社」という)では、公式ホームページ「京丹後ナビ」を開設し、ジオの恵みである温泉、旬でもてなす食のまち、歴史文化にあふれるまち、丹後半島を一周するツーリングなどの観光情報を提供しています。さらに、観光公社がツアーを主催して、市内の各地の魅力を情報発信しています。

このほか、リアルタイム道路情報やライブカメラなどの情報や映像を発信するだけでなく、デジタル観光パンフレットの公開や各所で展開する体験メニューを紹介しています。

また、「丹後ナビ」では市内のロケ地やロケ作品を紹介し、「ロケのメッカ」を目指して、官民が一丸となり積極的に情報を発信していきようとしています。その結果、「第 12 回ロケーションジャパン大賞」に、『映画太陽の子』(令和3年(2021)8月上映)(丹後町平海岸)と『天外者』(令和2年(2020)12月上映)(網野町三津漁港)のロケ地として、初めて京丹後市がノミネート地域・作品に選ばれました。



細川ガラシャ隠棲地「味土野」を巡る旅マップ

2-4. 土地利用

市域の総面積（222.1 km²）のうち、山林が40.8%（90.7 km²）で最も多く、次いで非課税地（道路、水路、公共用地など）が25.2%（55.9 km²）、田が17.6%（39.2 km²）、畑が6.8%（15.1 km²）、宅地が5.4%（11.9 km²）を占めています。

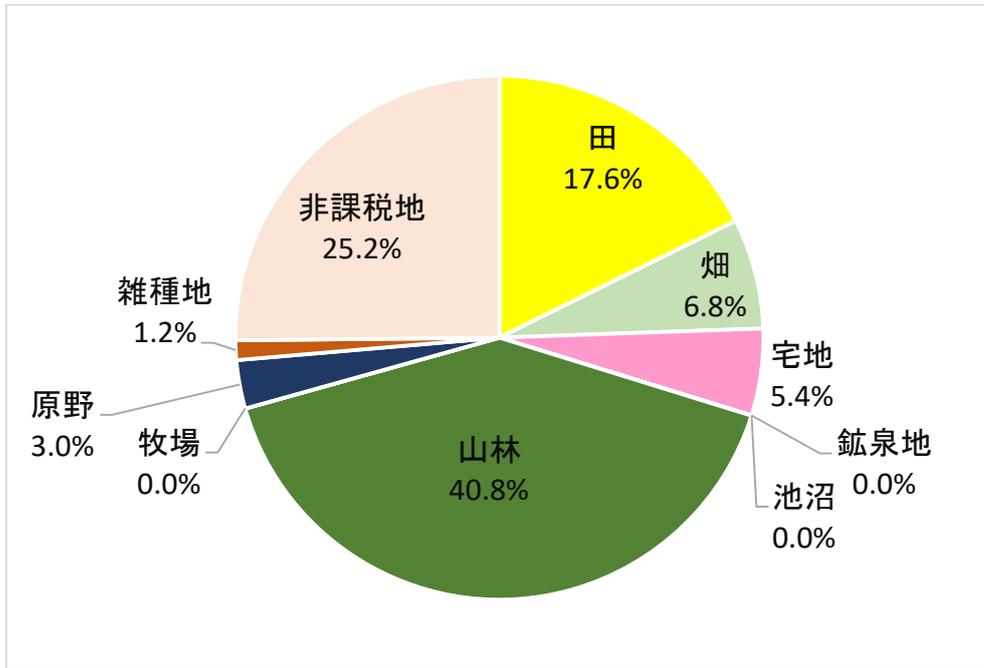


図 1-20 地目別面積割合(平成 26 年 1 月 1 日現在)

※非課税地には道路、水路、公共用地などがある。出典：市勢要覧 2016 “わ”ごころ輝くまち 京丹後、資料編より作成

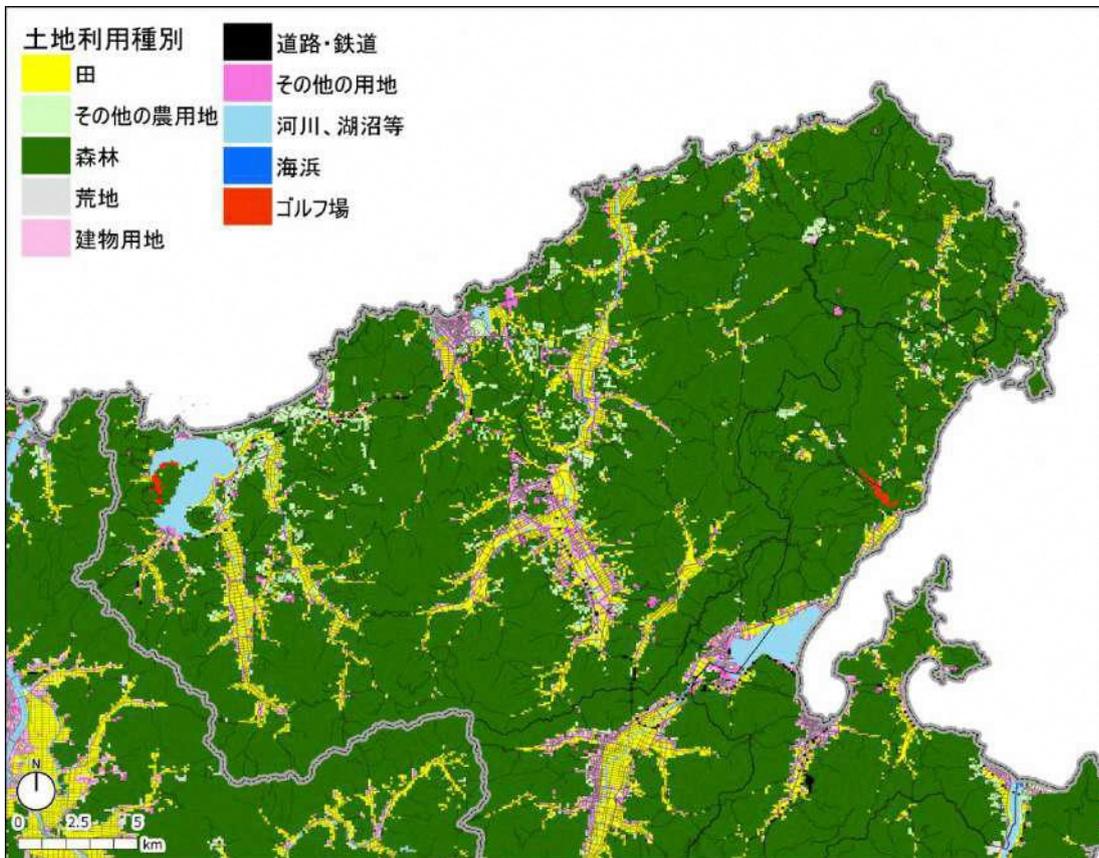


図 1-21 土地利用細分図

資料：国土数値情報土地利用細分メッシュデータ(H28)※単位：3 次メッシュ 1/10 細分区画(100m メッシュ)より作成

2-5. 交通

自家用車などによる市外から京丹後市へのアクセスには、平成28年(2016)に供用が開始された山陰近畿自動車道の京丹後大宮インターチェンジが玄関口となっています。現在、自動車道は、峰山、網野、豊岡方面への延伸工事が着実に進められています。このほか、市内の道路網は、国道178号、国道312号、国道482号を基幹として、主要地方道(府県道)や味土野大宮線などの府道が整備されています。府道のうち山間部では、一部幅員が狭い区間もみられます。

市域の主な公共交通機関としては、鉄道と路線バスがあります。このうち鉄道は、宮津と豊岡を結ぶ京都丹後鉄道宮豊線が運行され、宮津市、与謝野町、伊根町を含む2市2町で、65歳以上の高齢者を対象に運賃を上限200円とする「高齢者200円レール」を実施しています。路線バスとしては、丹後海陸交通(株)が9路線¹を運行されているほか、市営バス9路線を運行しており、通学、通院、買い物など地域住民にとって不可欠な交通機関となっています。また市内のバスは、平成22年(2010)よりすべての路線で運賃が一乗車につき200円を上限とする「上限200円バス」を運行しています。バスの大幅な利用促進に結び付いたこの政策は、その後、宮津市、与謝野町、伊根町にも広がりました。

このほか、京都方面へは京都丹後鉄道の特急列車が、京都・大阪方面へは、丹後海陸交通(株)の高速バスが運行されており、利便性が向上しています。

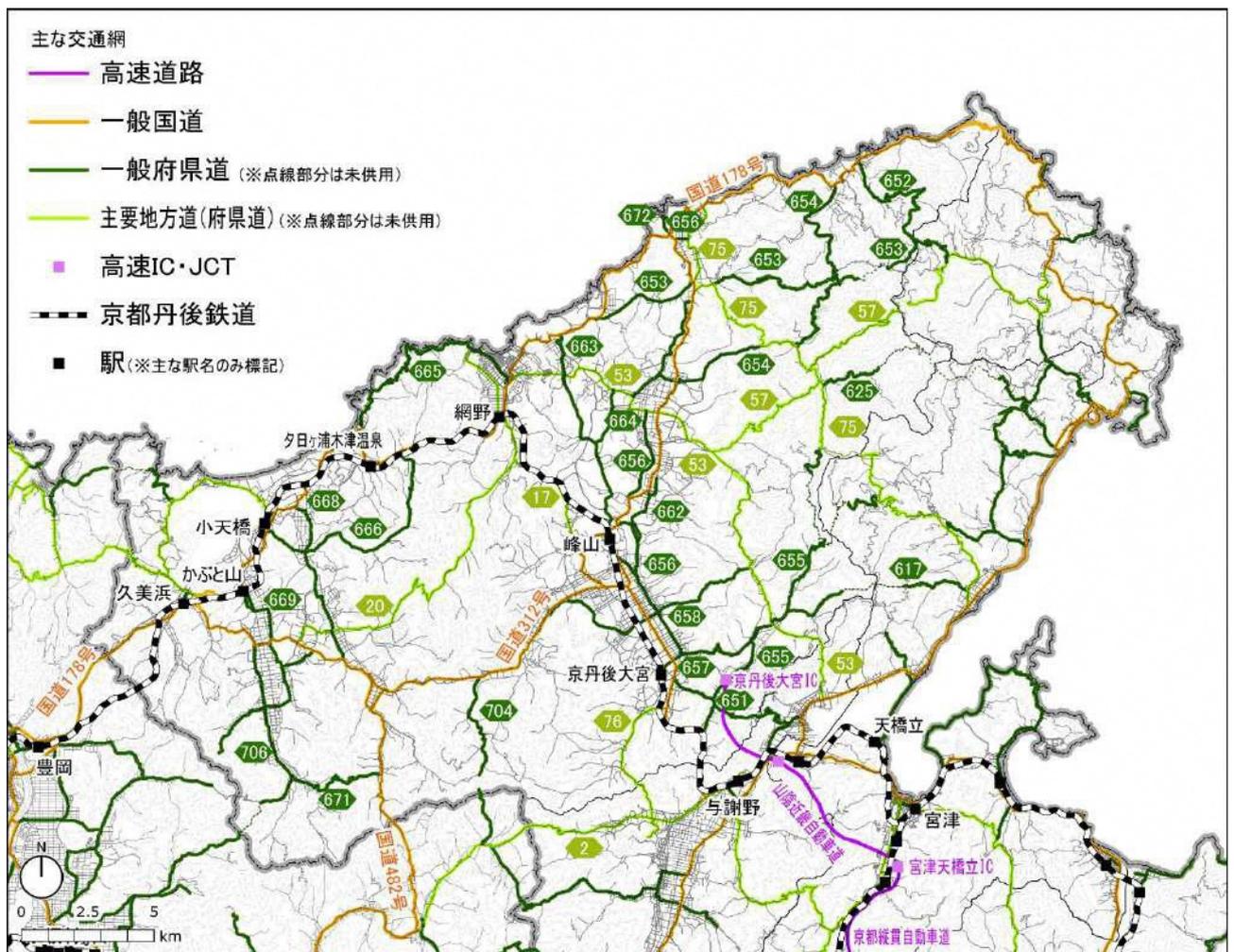


図 1-22 主な交通網

出典:京都府・市町村共同統合型地図情報システム(GIS)(京都府管内道路マップ)、国土数値情報(R2 鉄道時系列データ)(R2 高速道路時系列データ)より作成

¹ 京丹後市公共交通ガイドブック(令和4年3月12日改正)

【自然環境保全地域・自然公園地域】

市内では、自然環境保全法や、京都府環境を守り育てる条例に基づく京都府（歴史的）自然環境保全地域として、府内有数のブナ林を有する「丹後上世屋内山」と、信仰の対象として城跡とともに守られてきた「権現山」の2地区が指定されています。

自然公園としては、山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園の2か所が指定されています。

山陰海岸国立公園区域に含まれる五色浜では、流紋岩の柱状、板状節理がよく発達した海食崖や海食台地があり、ワカサハマギクやナガハシスミレなどの貴重な植物群落がみられます。また、小天橋では、トウテイラン、ハマベノギク等の学術価値が高い海岸植物群落がみられます。

丹後天橋立大江山国定公園のうち、丹後半島海岸地区と世屋高原地区の2地区が市内に位置しています。丹後半島海岸地区は、半島が持つ多様な地形、砂浜や奇岩、砂州、島、岬など、さまざまな海岸景観、歴史的資源などの文化景観があり、海岸独特の風景が見られます。世屋高原地区は、太鼓山、依遅ヶ尾山、金剛童子山などの山が連なる高原からなり、府内有数の広大な落葉広葉樹林帯と谷を流れる溪流や希少な草花などによる山間景観、山頂から真下に海を見下ろす半島ならではの眺望景観、棚田や歴史的資源などの文化景観も含む多様な自然の風景地となっています。

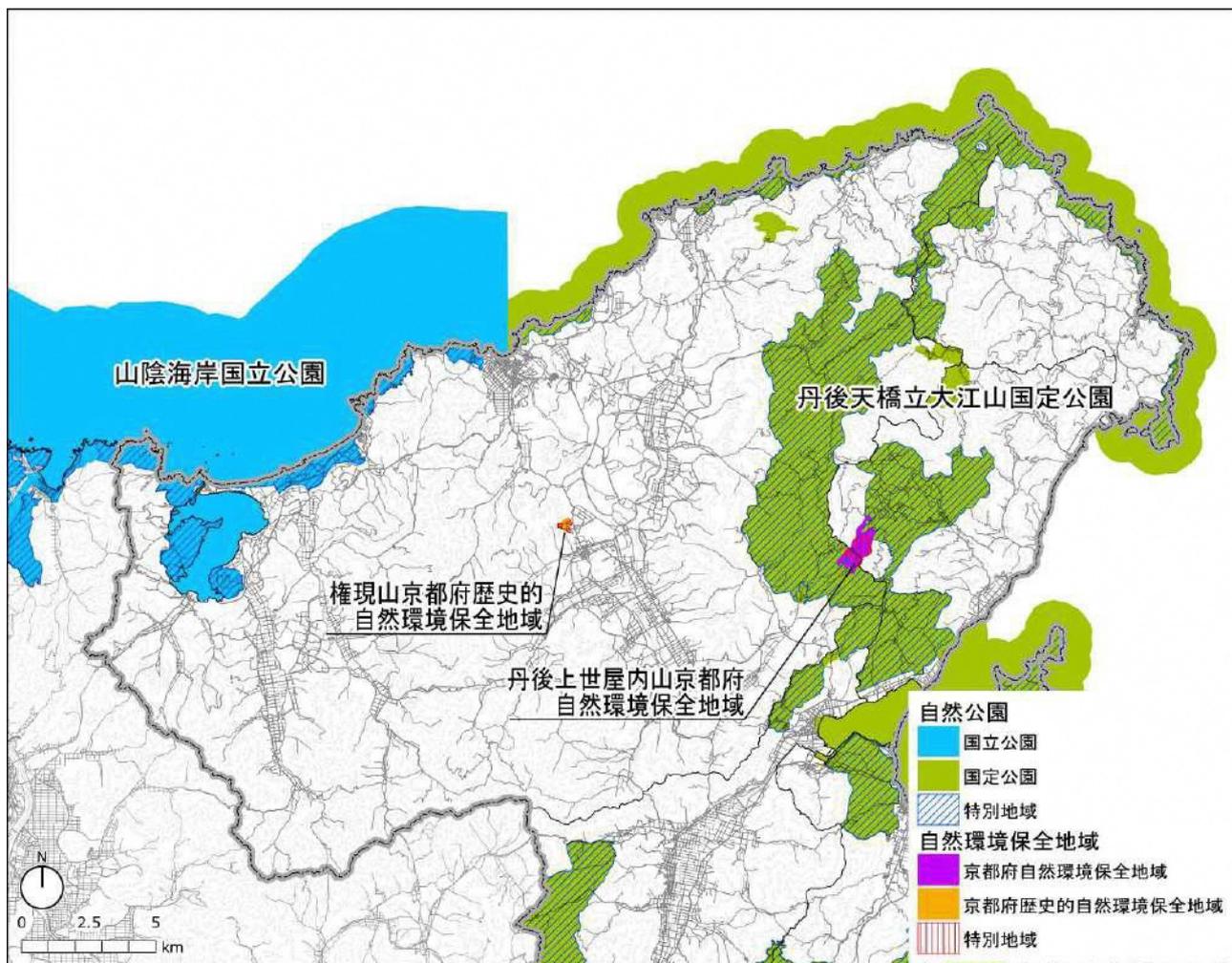


図 1-24 自然公園・自然環境保全地域の指定状況

出典：国土数値情報(H27 自然公園地域データ)[H27 自然環境保全地域データ]、京都府資料、環境省資料より作成

表 1-4 自然環境保全地域の指定状況

名称	所在・指定面積	指定理由／根拠法令
丹後上世屋 内山京都府 自然環境保 全地域	<p>■所在地：宮津市上世屋及び京丹後市大宮町五十河地内</p> <p>■指定面積：115.24ha（うち京丹後市42.03ha、宮津市73.21ha）</p>	<p>宮津市と京丹後市大宮町の境にある丹後上世屋内山保全地域は、丹後半島東部の山地に位置し、府内有数のブナ自然林を擁する地域である。特に本地域のブナ林は標高450m付近の低い標高から分布が見られるほか、「あがりこ」と呼ばれる巨大なブナの変木が点在するなど、学術上価値の高い自然であり、炭焼きや柴刈りなど地域住民の暮らしや営みと深い関わりを持ちながら守られてきたすぐれた自然環境であることから、保全地域に指定している。</p> <p>／根拠法令：①、②、③</p>
権現山京都 府歴史的自 然環境保全 地域	<p>■所在地：京丹後市峰山町吉原権現山地内（吉原山城跡周辺地域）</p> <p>■指定面積：14.83 ha</p>	<p>京丹後市峰山町の北西に位置する権現山（標高181m）は、古くから信仰の対象として、城跡とともに自然が守られてきた地域である。特にほぼ極相状態の常緑広葉樹林や典型的な遷移途上の形態を示す落葉広葉樹林、針葉樹林などの天然林と吉原山城跡等の歴史的遺産などが密接に結びついて優れた歴史的風土を形成しているため、保全地域に指定している。／根拠法令：②、③</p>

根拠法令：①自然環境保全法（昭和47年法律第85号）、②京都府環境を守り育てる条例（平成7年京都府条例第33号）、③京都府環境を守り育てる条例施行規則（平成8年京都府規則第5号）
出典：京都府レッドデータブック2015より作成

表 1-5 自然公園の指定状況

名称	場所・指定面積等	概要
山陰海岸 国立公園	<p>■所在地：京都府、兵庫県、鳥取県</p> <p>■指定年月日：昭和38年7月15日</p> <p>■面積（陸域のみ）：8,783ha（京丹後市1,206ha）</p>	<p>山陰海岸国立公園は、東は京都府京丹後市から西は鳥取県鳥取市に至る約75kmの海岸部が指定されている。山地が直接海に接するリアス海岸（沈水海岸）で、海食崖、海食洞、岩礁などが著しく発達し、海域と一体となった変化に富む海岸景観が特色となっている。その一方で、海食や河口から運ばれた砂により形成された鳥取砂丘に代表される開放的な砂丘の景観も特色となっている。このようにこの国立公園では特質な地形が随所で見られ、また、これらの地形はさまざまな岩石から成っていることから「地質の公園」、「岩石美の公園」とも呼ばれている。平成22年（2010）には山陰海岸国立公園を中心とする「山陰海岸ジオパーク」の世界ジオパークネットワークへの加盟が認定され、山陰海岸の重要性が世界的にも認められている。</p>
丹後天橋 立大江山 国立公園	<p>■所在地：福知山市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町</p> <p>■指定年月日：平成19年8月3日</p> <p>■面積：19,023ha（京丹後市5,338ha）</p>	<p>①丹後半島海岸地区：当地区は、日本海に面し、岩礁海岸や砂浜海岸、砂州など、多様な海岸地形となっている。この地区は、半島が持つ多様な地形に併せ、砂浜や奇岩、砂州、島、岬など、さまざまな海岸景観があり、歴史的資源などの文化景観を含め、海岸独特の自然風景である。</p> <p>②世屋高原地区：当地区は、丹後半島の東側に位置し、権現山、太鼓山、依遅ヶ尾山、金剛童子山など、標高500mから600mの稜線が連なる高原地形である。この地区は、府内有数の広大な落葉広葉樹林帯と谷を流れる溪流や希少な草花等による山間景観、山頂から真下に海を見下ろす半島ならではの眺望景観があり、棚田や歴史的資源などの文化景観も包含する多様な自然の風景地である。</p> <p>③大江山連峰地区：当地区は、丹後半島の南に位置し、西から赤石ヶ岳、千丈ヶ嶽、鳩ヶ峰、鍋塚、鬼の岩屋、杉山、赤岩山、由良ヶ岳と、標高600mから800mの稜線が東西に連なっている連山地形であり、この地域を代表する山である。稜線からは360度の視界が広がるパノラマ景観や連山の山岳景観、鬼嶽稻荷神社から見る海原のような雲海と、多様な自然風景を望むことができる。また、当指定地域は、日本三景の天橋立として、丹後王国さらには、大江山の鬼伝説など歴史や文化にも彩られている。</p>

出典：山陰海岸国立公園指定書（環境省、平成26年3月31日）、京都府資料より作成

2-7. 美しいふるさとづくりの取り組み

本市の海岸線は、山陰海岸国立公園及び丹後天橋立大江山国立公園に指定されています。また、丹後半島の山地は、市内を南北に流れる河川の源となっており、海と山が織り成す豊かで美しい自然環境は、本市の誇るべき資産です。この美しいふるさととの自然環境を保全し、将来の世代に引き継ぐため、市民および関係する全ての人が協力して次代に美しいふるさとを継承していくまちづくりに努めることを目的に「京丹後市美しいふるさとづくり条例」が制定されています。これは旧網野町が平成13年(2001)7月に制定した条例を本市が引き継ぎ、平成29年(2017)4月1日に改正施行しています。

網野町掛津・遊にある「琴引浜」は、全国初の禁煙ビーチとして、本条例により特別保護区域に指定されています。鳴き砂を構成する砂はおもに石英ですが、汚れるとたちまち鳴かなくなるという繊細な性質を持っています。そのため、琴引浜では、花火、キャンプ、炊飯など鳴き砂に悪影響を与える行為を禁止しています。この貴重な鳴き砂を保護していくために、住民と行政が連携して様々な取組が続けられています。

昭和62年(1967)に設立された「琴引浜の鳴り砂を守る会」(以下「守る会」という)は、夏季の海水浴シーズンの禁煙ビーチパトロールのほか、自然環境保護のシンポジウムの開催、浜へ流入する河川の水質調査、漂着物展の開催など鳴き砂保護の啓発活動に取り組んでいます。

この「守る会」の活動と呼応するように、「琴引浜」が平成19年(2007)、国の天然記念物及び名勝に指定されました。このほか、琴引浜観光資源調査の実施、「鳴き砂の保護と活用を考えるシンポジウム」の開催、鳴き砂保護対策の策定などが進んできました。中でも、全国の鳴き砂をもつ市町村に呼びかけ、「全国鳴き砂サミット」を開催したことが契機となって、「全国鳴き砂(鳴り砂)ネットワーク」(現在、15市町で構成)が組織され、保護活動の輪が全国に広がっています。

また、鳴き砂保護の拠点施設として、平成14年(2002)10月に「琴引浜鳴き砂文化館」が完成しました。この施設は、住民と行政による長年の鳴き砂保護活動が評価され、(財)日本ナショナルトラスト(当時)が建設し、内部の展示や周辺整備を本市が受け持って整備されたものです。

鳴き砂体験コーナーや世界の鳴き砂の展示など鳴き砂をテーマにした施設としては、世界でも初めての施設です。館内には、鳴き砂以外に海岸漂着物の展示や琴引浜に生息する微小貝や海浜植物などについての展示などもあり、本市の自然環境保全の拠点施設ともなっています。



琴引浜の西部



特別保護区域指定の看板



禁煙ビーチのパトロール



琴引浜鳴き砂文化館の
鳴き砂体験コーナー



琴引浜鳴き砂文化館の
漂着物の展示

2-8. 山陰海岸ジオパークの取り組み

【ジオパークとは】

ジオパークとは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を含む一種の自然公園です。地質や地形は、地球の歴史を物語っているだけでなく、人の暮らしや文化に直接結びついています。この大地の営みをひとつの遺産として学び、楽しむのがジオパークです。平成16年（2004）にユネスコの支援により、世界各地のジオパークが加盟する世界ジオパークネットワーク（GGN: Global Geoparks Network）が設立され、平成27年（2015）には世界ジオパークはユネスコの正式事業となりました。ジオパークは地質に関する自然遺産を保護するだけでなく、教育や地域の活性化に活かしていこうとする点で、主に保護を目的とする世界遺産と異なります。また「場所」だけでなく、そこで行われている活動（例えば教育プログラム、ガイド養成、地域振興策など）や、運営組織も重視されており、4年に一度の見直し、再審査が行われます。令和3年（2021）12月現在、日本ジオパーク認定地域は44地域、世界ジオパーク認定地域は9地域となっています²。



図1-25 日本ジオパーク・世界ジオパークの認定状況

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料

【山陰海岸ジオパークの概要】

山陰海岸ジオパークは、北に日本海に面した山陰海岸国立公園を中心とする海岸部、南は中国山地北側に位置する山間部、東は京都府京丹后市経ヶ岬から、西は鳥取県鳥取市青谷海岸までの東西約120km、南北最大約30kmのエリアで、面積は約2,458.4 km²です。「～日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし～」をテーマとして、自然遺産の保全と地域活性化につながる活動を展開しています。

【山陰海岸ジオパーク認定の経緯】

陸と海が一体となった変化に富む海岸景観を有する山陰海岸は、昭和30年（1955）に国定公園、昭和38年（1963）には国立公園に指定され、それ以降も海中公園区域が追加されるなど、海岸部だけでなく海域も含めた景観保全が進められてきました。

京丹後市内においても、地域の貴重な景観資源を市民の手で保全し、活用する活動が展開されてきました。例えば、昭和62年（1987）に地域住民を中心に設立された「琴引浜の鳴り砂を守る会」は、これまでに浜辺の清掃、鳴き砂保護の講演会やシンポジウムの開催、中国やタイへの鳴き砂調査団の派遣、浜への流入河川の水質調査や水質浄化、漂着物展の開催、浜の後背地の植林などに取り組んできました。平成9年（1997）に起こったナホトカ号重油災害では、琴引浜における重油回収作業の中心的役割を果たし、その功績が認められ、環境庁（当時）から「地域環境保全功労者」の表彰を受けています。現在は、夏期に禁煙ビーチのパトロール、漂着ごみの調査、はだしのコンサートの協力、全国鳴砂サミットへの参加、琴引浜鳴き砂文化館の運営を行っています。この他にも、農林漁業等、地域の人々の長い営みの中で守り、育てられてきた地域景観は、大きく形を損なうことなく、受け継がれてき

² 日本ジオパークネットワーク HP (<https://geopark.jp/geopark/certification/>) 令和3年12月8日閲覧。

ました。

そうした中、貴重な地形や地質を数多く有し、それらがもたらす多彩な自然を背景にした人々の文化や歴史があるというこの地域の特徴を活かし、地域のジオツーリズムを通じた自然遺産の保全と地域活性化につながる活動を展開していくことを目的として、平成19年(2007)7月、山陰海岸ジオパーク推進協議会が設置されました。その後、専門家からの学術的な助言を受けつつ協議会での検討を重ね、世界ジオパークネットワークへの申請を行い、平成22年(2010)10月に、世界ジオパークネットワークに加盟が認定されました。同年12月には、具体的な行動指針やプロジェクト、住民参加についての行動計画をまとめた「山陰海岸ジオパーク基本計画」を策定しました。

4年に一度の見直しは、平成26年(2014)9月、平成31年(2019)2月に行われましたが、2回連続で再認定されており、当地域で継続してきたジオパークをめぐる保存、活用の取組は、高く評価されています。令和3年(2021)11月には、山陰海岸ジオパーク推進協議会として初となる、地元の事業者とのパートナーシップ協定が締結されるなど、持続可能な地域産業、ツーリズムの推進といった新たな取り組みも進められています。



図1-26 山陰海岸ジオパークエリア 出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料



図1-27 山陰海岸ジオパークの各種パンフレットとロゴマーク(右)

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料

【ジオサイトとモデルコース】

市内のジオサイト（ジオパーク内の見どころ）としては、琴引浜、郷村断層、五色浜、久美浜湾、かぶと山、立岩、大成古墳群、屏風岩、丹後松島、袖志の棚田、犬ヶ岬、経ヶ岬、経ヶ岬灯台などが挙げられています。これらジオサイトには、天然記念物や名勝などの文化財が含まれています。

また山陰海岸ジオパーク推進協議会では、「海わたり、街つなぐ」をコンセプトとして、上記のジオサイトにもなっている奇岩、洞門など、多彩な海岸地形を体感する総延長 230.9km（27 コース：菁谷（鳥取県鳥取市）～経ヶ岬（京都府京丹後市））の「山陰海岸ジオパークトレイル」を設定しています。市内では、このうちコース 21 から 27 が整備されており、内容、見どころには史跡などの文化財が多く含まれます。この他に、短時間でも楽しめるような散策モデルコースや、遊覧船などにより、海からの景観を楽しむマリンコースなども設定されています。

表 1-6 山陰海岸ジオパーク モデルコース

区分	コース名	行程・テーマ:内容	主な見どころ/距離
ジオパークトレイルコース	コース 21	城崎マリンワールド(ガイドセンター)～小天橋: 田結湿地を通り、ほぼ森に帰った山道を超えるコース。豊岡市は日本で野生のコウノトリが絶滅する前に最後に生息していた場所で、復活した今は田結湿地でもコウノトリが見られる。日和山海岸のガイドセンターからは京都の丹後半島まで見ることができる。	田結湿地(豊岡市)、日和山海岸(豊岡市)、小天橋等/12.6km
	コース 22	小天橋～浜詰夕日ヶ浦キャンプ場: 北近畿最大のロングビーチを歩くコース。日本海と久美浜湾を分ける砂州である小天橋は約 6km の砂浜が続く。箱石海岸周辺では、50 種以上の貴重な海浜植物が自生しており、春には、青い海と色とりどりの花々を楽しむことができる。	小天橋、箱石海岸等 /6.5km
	コース 23	浜詰夕日ヶ浦キャンプ場～八丁浜シーサードパーク: 京丹後市網野町で生まれた静御前を祀る静神社を通るコース。様々な色の火山岩を含む擬灰岩の波食台「五色浜」や、美しい夕日で有名な夕日ヶ浦なども見られる。コースの途中、東経 135 度(子午線)が通る最北の地であることを示す子午線塔のモニュメントもある。	静香神社、五色浜、夕日ヶ浦、最北子午線塔 /11.9km
	コース 24	八丁浜シーサードパーク～琴引浜掛津キャンプ場: 砂浜と日本海による美しい景色を楽しみながら歩くコース。名勝や天然記念物に指定された 1.8km のなり砂の浜である琴引浜や、高温水晶でできた白く輝く浜である水晶浜など、砂浜ごとに違った魅力と楽しみ方を感じられる。	琴引浜、水晶浜、等 /4.2km
	コース 25	琴引浜掛津キャンプ場～道の駅てんきてんき丹後: 間人皇后から地方を贈られたと伝えられる間人の地を歩く。周囲約 1km もある柱状節理の巨大岩石「立岩」や、間人海岸や城島にあるドーム状構造の地層など、太古の火山活動によりできた地質をコース各地で楽しめる。	琴引浜、城島、間人海岸立岩、等/10.7km
	コース 26	道の駅てんきてんき丹後～高嶋オートキャンプ場:日本海を見下ろす海岸段丘の上にある大成古墳群を通るコース。海面からそそり立つ屏風岩もコース中に見られる。中盤の犬ヶ岬からは、日本三景の一つ、宮城県の松島に似ていることから名付けられた丹後松島の美しい海岸線を眺められる。	大成古墳群、屏風岩、犬ヶ岬、等/9.9km
	コース 27	高嶋オートキャンプ場～経ヶ岬駐車場: 近畿最北端の経ヶ岬から、地殻変動により隆起して形成された海食台を歩くコース。経ヶ岬には、名前の由来と言われるデイサイトの柱状節理が先端に並んでおり、全国に5基しかない第一等レンズが使用された灯台もある。「日本の棚田百選」に選ばれた袖志の棚田も見られる。	袖志の棚田、経ヶ岬、等 /9.0km

散策モデルコース	立岩周辺散策コース	奇岩「立岩」と古代からの人々の営み： 鬼退治伝説や竹野神社・古墳など、立岩と丹後の歴史について学び、古代のロマンとジオパークの壮大な景観を体験できるコース	立岩、大成古墳、竹野神社、神明山古墳等/約5km(基本コース)
	琴引浜コース	白砂青松と鳴き砂をめぐる道全国でも有数の鳴き砂の浜「琴引浜」や、砂丘などをめぐるコース	琴引浜、離湖、水晶浜等/約7.2km(基本コース)、約1.4km(オプションコース)
	夕日ヶ浦散策コース	きれいな夕日と温泉の町： 日本の夕日百選に選ばれている美しい夕日が浦周辺を楽しむとともに、温泉や砂丘地での農業を学ぶことができるコース	夕日ヶ浦、砂丘農園、木津温泉等/約5.5km(基本コース)、約4km(塩江海岸オプション)、約12km(砂丘農園をめぐる)
	かぶと山登山コース	かぶと山から望む久美浜湾と小天橋： 久美浜湾の中央部にそびえる火山岩の残丘「かぶと山」に登り、雄大な日本海と、海流が作り出した独特な景観を楽しむことができるコース	かぶと山公園、かぶと山展望台、人喰岩等/約5.3km(基本コース)、約1.3km(ショートコース)
マリンコース	立岩・経ヶ岬コース	海岸段丘と小さな島々、荒々しい岩壁が織りなす美しい海岸：海からは日本海の荒波により形成された犬ヶ岬、経ヶ岬などのダイナミックな岩壁や青の洞窟などが楽しめる	経ヶ岬、立岩、城嶋等/-
	夕日ヶ浦・琴引浜コース	伝説と浪漫あふれる岩石海岸とビューティフルビーチ： 琴引浜、八丁浜など砂浜の海岸が多くあり、散策や海水浴、サーフィン等が人気。遊覧船では五色浜など岩石海岸の他、浦島太郎伝説、静御前の歴史など伝説と浪漫の海上ドライブが楽しめる	琴引浜海水浴調、八丁浜海水浴場、夕日ヶ浦等/-
	久美浜コース	自然と人々の暮らしが調和した「神の箱庭」： 久美浜湾遊覧船では、船上から自然が作り出した地形の妙を眺めることができる	久美浜の町並み、小天橋、丹後砂丘等/-

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成



図 1-28 山陰海岸ジオパーク モデルコースと地域資源(1/3)

出典：山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成

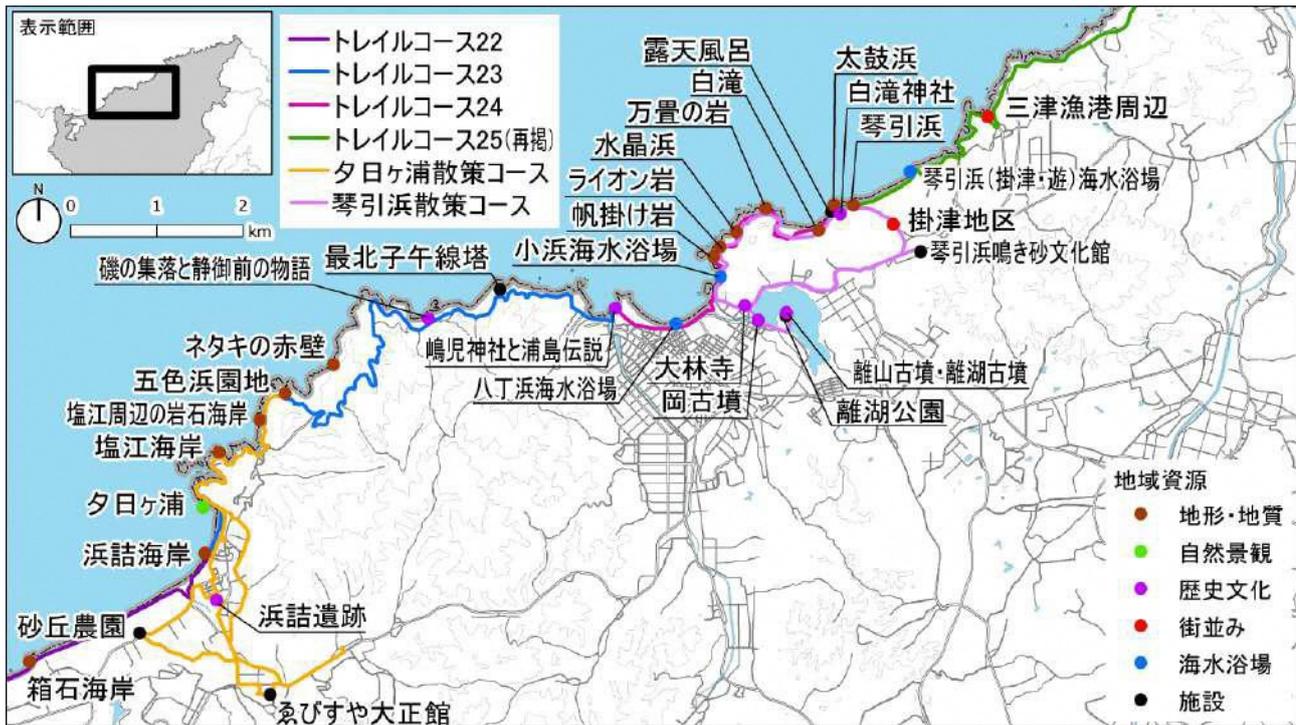


図 1-29 山陰海岸ジオパーク モデルコースと地域資源(2/3)

出典:山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成



図 1-30 山陰海岸ジオパーク モデルコースと地域資源(3/3)

出典:山陰海岸ジオパーク推進協議会資料より作成

【大地の学習での活用】

本市では、保幼小中一貫教育の総合的な学習の時間「丹後学」の中で、さまざまな郷土教育を行っています。その中で、市内の小学校6年生は、琴引浜、郷村断層など山陰海岸ジオパークのジオスポットをまわる「大地の学習」の取組を行っています。

2-9. 市民による地域資源ガイド活動

本市の豊かな地域資源を活用するための活動が進んでいます。特に山陰海岸ジオパークの認定後、本市では、NPO 法人まちづくりサポートセンターや琴引浜ガイドシンクロ、小天橋ガイドクラブが多様な景観資源や歴史資源などの魅力や価値についてガイド活動を通じて、情報発信しています。

NPO 法人まちづくりサポートセンターは、経ヶ岬や屏風岩、立岩を中心に本市一円で活動している団体で、第1種ガイド12名、第2種ガイド1名を含む認定ガイドで構成されています。同団体が行うガイドの内容は地域ガイド部とネイチャーガイド部に分かれ、地域ガイド部では丹後の歴史や伝説、山陰海岸ジオパークのジオサイトを案内、解説しています。一方、ネイチャーガイド部は本市一円を対象として山野草の観察ガイドや京丹後市縦断トレイルガイドツアーを実施しています。

琴引浜ガイドシンクロは、琴引浜で暮らし、琴引浜の保全活動を行っているメンバーがガイドとなっています。琴引浜の鳴砂とそこで暮らす動植物の希少性を説明するだけでなく、琴引浜とともに暮らすガイドならではの魅力的なガイド活動を展開しています。例えば琴引浜の白砂青松保存活動に古くから取り組む地域の活動、本市の産業やナホトカ号重油災害等の説明も行っています。また、地域資源を活用して環境保全の教育的アプローチである出前授業やフィールドワークも行っています。さらに京都府最大の淡水湖である離湖の歴史文化や網野の町の成り立ちと、そこで生まれた文化についても案内しています。

小天橋ガイドクラブは、小天橋の自然と歴史にふれることをテーマとして、五軒家を中心とした小天橋の歴史や江戸時代に廻船業で発展した水戸口、船見番所跡、飢餓塚、大石塔、御柳、海隣寺、宝泉寺、蛭見神社などの案内を行っています。また、丹後砂丘では、ロングビーチ、砂丘農業、海浜植物、白間の松原を案内し、久美浜湾では、栈橋の風景、かぶと山、牡蠣の養殖、とり貝の養殖地などを案内しています。

これらのガイド団体は、山陰海岸ジオパークガイド認定制度に基づき活動している団体で、ガイド養成講座なども継続的に開催され、ガイドのスキルアップが進められています。

また、NPO 法人まちづくりサポートセンターと京丹後市観光公社によるトレイルツアー「京丹後縦断トレイル」が、兵庫県姫路市のバス会社に採用されて人気を呼ぶなど、市民活動と連携した様々な取り組みが展開しています。



まちづくりサポートセンターの活動
出典：山陰海岸ジオパーク



琴引浜ガイドシンクロの活動
出典：山陰海岸ジオパーク



小天橋ガイドクラブが案内する
フィールド
出典：山陰海岸ジオパーク

3. 歴史的背景

3-1. 先史

人々の生活の始まり(旧石器・縄文時代)

市域で最も古い人々の痕跡は、近畿地方最古級の後期旧石器時代前半(約3万6千年前)の上野遺跡(丹後町上野)です。見つかった石器には、隠岐島(島根県)でとれる黒曜石など遺跡の近くに見られない石材も使われており、古くから人々の交流があったことがわかります。また浜詰遺跡(網野町浜詰)では、旧石器時代終末期(約1万6千年前)の細石刃が見つかっています。

約1万2千年前にはじまる縄文時代の遺跡としては、日本海の砂丘海岸に営まれた平遺跡(丹後町平)、浜詰遺跡、函石浜遺跡(久美浜町湊宮)などがあります。また内陸部には、正垣遺跡(大宮町奥大野)、谷内遺跡(大宮町谷内)、裏陰遺跡(大宮町奥大野)などがあります。平遺跡では、厚さ4mにわたって、縄文時代の土器、石器などの遺物が見つかっており、約3千年もの間、人々が継続して生活していたことがわかりました。特に「平式土器」と呼ばれる縄文時代中期の土器は、渦巻きの模様や紡錘文が描かれており、年代の基準となっています。浜詰遺跡では、府下で唯一の貝塚のほか、縄文時代後期の竪穴住居跡が発見されており、昭和34年5月には現地に復元されています。



平遺跡出土土器



復元された浜詰遺跡の竪穴住居



扇谷遺跡の深い環濠

集落(ムラ)の成立と有力者の登場(弥生時代)

弥生時代の代表的な集落遺跡としては、稲の籾痕の残る土器が見つかった竹野遺跡(丹後町竹野)、深い環濠が掘られた高地性集落の扇谷遺跡(峰山町丹波)、大規模な環濠集落の途中ヶ丘遺跡(峰山町長岡)、玉つくりや鍛冶を行っていた奈良岡遺跡(弥栄町溝谷)、古代中国の新王朝(8~23年)の貨幣「貨泉」が見つかった函石浜遺跡などが挙げられます。

弥生時代後期には、大山墳墓群(丹後町大山)、左坂墳墓群(大宮町周積)、三坂神社墳墓群(大宮町三坂)など、有力者とその家族を埋葬した墳墓が、平地に近い丘陵上に造られました。これらの墳墓では、亡くなった人を葬り、木棺に蓋をする時に土器を割る「墓壇内破碎土器供献」という葬送儀礼が行われました。また木棺内からは、当時、大変貴重であった鉄製品、首飾りなどに使われた青いガラス玉といった副葬品が大量に見つかっています。



大山墳墓群



ガラスの勾玉、小玉(左坂墳墓群)

弥生時代後期末の赤坂今井墳墓(峰山町赤坂)は、東西 36

m、南北 39m、高さ 3.5mの巨大な方形の墳丘をもつ国内最大級の墳墓です。第4埋葬施設からは、中国の漢青という顔料を成分に含むガラス玉などを使った豪華な頭飾りが出土しており、葬られた有力者の力の大きさをあらわしています。

また大山墳墓群からは河内(生駒山西麓)産の土器が、古天王墳墓群(弥栄町和田野)からは河内、東海地域の土器、赤坂今井墳墓からは東海から関東地域の土器が見つかり、丹後の有力者と各地との交流のようすがうかがえます。



出土した頭飾り(赤坂今井墳墓)

丹後三大古墳の築造(古墳時代)

古墳時代前期初頭の大田南5号墳(峰山町矢田・弥栄町和田野)では、中国三国時代の魏の年号「青龍三年」(西暦235年)銘をもつ方格規矩四神鏡が出土しました。邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使者を送ったのが西暦239年、翌年には100枚の銅鏡を受け取ったとされ、その中の1枚という説があります。この銅鏡は、日本で発見された年号をもつ鏡の中で最も古いもので、ほかに安満宮山古墳(大阪府)と関東地方出土の2面があります。



青龍三年銘方格規矩四神鏡(大田南5号墳)

前期前葉のカジヤ古墳(峰山町杉谷)は、竪穴式石室から鍬形石などの腕飾り、杖の先につけた筒形銅器などが出土しました。前期後半から中期初頭には、かつて存在したラグーン(瀉湖)と港を望むように、網野銚子山古墳(網野町網野)、神明山古墳(丹後町宮)という巨大な前方後円墳が築かれました。前期後半に造られた蛭子山古墳(与謝野町)とともに丹後の三大古墳と呼ばれています。このうち網野銚子山古墳は墳丘長201mを測り、日本海側で最大の大きさを誇ります。また神明山古墳は墳丘長190mあり、船をこぐ人物を線刻した埴輪が見つかり、丹後三大古墳は、丹後型円筒埴輪が使われており、網野銚子山古墳の墳丘には約2,000本が並んでいたと考えられています。



網野銚子山古墳

古墳時代中期前半には、墳丘長105mの黒部銚子山古墳(弥栄町黒部)が築かれました。しかし、その後の有力者の墓は、前方後円墳ではなく、円墳または方墳となります。大型の円墳である産土山古墳(丹後町竹野)、方墳の離湖古墳(網野町小浜)からは、地元でとれる凝灰岩で作られた「王者の棺」とも呼ばれる長持形石棺が出土しています。またニゴレ古墳(弥栄町鳥取)から出土した船形埴輪は、丸木舟から発展した準構造船と呼ばれる船をあらわしたもので、当時の人々が交易に用いた姿が想像できます。しかしこの時期の丹後には、三大古墳を築いたときのような強大な権力



網野銚子山古墳出土丹後型円筒埴輪



神明山古墳

をもった有力者は存在しなかったと考えられます。

古墳時代後期後半の有力者の墓として、湯舟坂2号墳（久美浜町須田）があります。横穴式石室からは、金銅装双龍環頭大刀をはじめ、大量の鉄製品、銅椀、須恵器などがみつかっています。

古墳時代後期の遠處遺跡（弥栄町木橋）は、製鉄、製炭、鍛冶など鉄生産を一貫して行っていた製鉄遺跡です。その後、奈良時代には、製鉄のほか、須恵器も造られていました。古代の丹後地域が極めて高い技術をもった地域であったことがわかります。



湯舟坂2号墳出土品
(奈良文化財研究所栗山雅夫氏撮影)

『古事記』・『日本書記』にみる古代丹後

『古事記』（712年）、『日本書記』（720年）には、古代の丹波（丹後）に関しての記述が多くみられます。それによれば、現在の丹後と丹波を合わせた領域が丹波と呼ばれていました。『古事記』によると、巨波（丹波）大県主由碁理という豪族の娘・竹野比売（媛）が、9代開化天皇の后となりました。この竹野比売が、年老いて郷土に戻り、竹野神社を創建したと伝わっています。

『日本書記』によれば、開化天皇と姥津媛の子が彦坐王、その子が丹波道主命です。『古事記』には、彦坐王が玖賀耳之御笠という丹波の一族を征伐したと記されています。『日本書記』には、10代崇神天皇が派遣した四道将軍の一人として丹波道主命を丹波に遣したとあります。この記事によると丹波道主命は大和出身となりますが、これは地方の首長の祖先を大和朝廷に結びつけたものと考えられ、実際には、丹波の有力な王であったと思われる。

この丹波道主命の娘達（『古事記』では3人、『日本書記』では5人）は、11代垂仁天皇の妃となりました。このうち比婆須比売は皇后になったと伝えられており、大和朝廷との強い結びつきがうかがえます。



遠處遺跡鍛冶工房跡(公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供)



日本書記に表れる天皇家と丹後との関係(『丹後王国の世界』より)

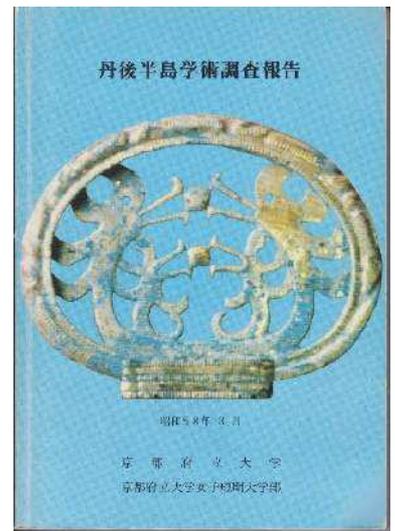
門脇禎二氏の「丹後王国論」

和銅6年(713)に、丹波国のうち、加佐郡、与佐(与謝)郡、丹波郡、竹野郡、熊野郡の5郡を割いて、丹後国となりました。それ以前は、後の丹波国、丹後国の両方を併せた広大な範囲が丹波国でした。丹後に巨大な前方後円墳が集中していること、峰山町に丹波という地名が残っていることなどから、分国以前は、丹後が丹波国の中心的な場所であったと推測されています。



丹波 バス停

「丹後王国論」は、昭和58年(1983)に、門脇禎二氏により発表されました。門脇氏は、ヤマト政権によって統一される以前の弥生時代から古墳時代にかけて、市域の峰山盆地を中心として、野田川、竹野川、福田川、川上谷川の各流域を含めた地域に、地域国家が存在していたというものです。門脇氏は、地域国家の成立条件として、①地域における王権とその支配体制があること②定められた支配領域があること③独自の文化や支配イデオロギーがあることの3点をあげました。その上で、古代日本にいくつか存在した地域国家の一つとして丹後王国(丹波王国)が存在したと考えました。「丹後王国論」は、その後の研究のみならず、地域振興や観光にも大きな影響を与えました。



門脇禎二「丹後王国論序説」が掲載された『丹後半島学術調査報告』

3-2. 古代

寺院の建立(飛鳥時代～奈良時代)

当時の都があった藤原宮・平城宮から出土した木簡には、飛鳥から奈良時代に丹後から税として米や海産物が納められたことが記されます。また、こくばら野遺跡(久美浜町浦明)などの調査では、奈良時代に入ると竪穴住居から掘立柱建物へ変化することがわかっています。

俵野廃寺(網野町俵野)は、7世紀後半に造られた市域で唯一の古代寺院跡です。俵野川改修工事により、塔の礎石や、鬼瓦などが出土しました。見つかった土器から、平安時代まで営まれていたと考えられます。また天平13年(741)、聖武天皇は国分寺建立の詔を出し、各国に国分寺・国分尼寺が建立されました。丹後国分寺は、丹後国府の推定地に近い宮津市国分に建立されたと考えられています。



俵野廃寺 塔の礎石

渤海使～朝鮮半島との交流(平安時代)

中国東北部に大祚榮が建国した渤海(698～926年)は、滅亡までの200年間に34回、我が国に渤海使を派遣しています。延長7年(929)、渤海滅亡後の東丹国の一行が、丹後国竹野郡大津浜に到着しました。しかし朝廷は使節団の都入りを許可せず、そのまま東丹国に帰らせたという記録があります。古代には瀉湖であったと思われ、港の役割を果たしていた離湖(網野町小浜など)の東岸に横枕遺跡(網野町島津)があります。この遺跡からは、平安時代の釉薬を塗った陶器類や、当時貴重であった中国製の磁器などが見つかっています。横枕遺跡は、使節団が滞在した客館跡の可能性が指摘されています。



平城宮木簡(レプリカ)



離湖と横枕遺跡(公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供)

密教系寺院と経塚造営(平安時代)

平安時代に入ると、本市の各地で寺院が開かれ、特に密教系の山林寺院が多く存在しました。善無畏三蔵が開いたと伝え、10世紀に造られた木造千手観音立像を本尊とする縁城寺(峰山町橋木)、天応元年(781)、隠岐島から来た明法上人の草創と伝え、12世紀の木造観世音菩薩立像を本尊とする上山寺(丹後町)、同じく12世紀の木造薬師如来及び両脇侍像を本尊とする円頓寺(久美浜町円頓寺)や成願寺(丹後町成願寺)、現在はメトロポリタン美術館(アメリカ)が所蔵する金銅蔵王権現像があったと伝える迎接寺(現在は久美浜町大向の遍照寺)などがあります。

また平安時代中期に流行した末法思想は、経典を土中に埋め、後世に伝えようとする経塚の流行につながりました。市域では、嘉応2年(1170)の銘文を持つ銅板製の経筒が出土した山の神1号経塚(久美浜町円頓寺)が最も古いものです。その後、市域では、14世紀にかけて経塚が造られます

3-3. 中世

荘園制と寺社

中世の土地制度の一つに、10世紀以降に成立した荘園制があります。鎌倉時代から室町時代にかけて丹後国内にあった郷・保・荘園などは、長祿3年(1459)の「丹後国諸庄郷保惣田数帳(田数帳)」に記されています。丹後国の荘園は、加佐郡6荘、与謝郡6荘、丹波郡2荘、竹野郡5荘、熊野郡6荘の計25荘あります。このうち、市域には13ヶ所の荘園がありました。「田数帳」に記された荘園は、地理的に近い京都・奈良などの寺社領として始まりますが、鎌倉時代から室町時代にかけて武士が台頭したこともあり、武家領が増えていきます。

京都・奈良などの寺社の荘園であった名残は、市内各地に残る寺社に見ることができます。例えば、木津荘の加茂神社(網野町木津)は下賀茂神社(京都市)、鹿野荘の鹿野八幡神社(久美浜町鹿野)・佐野荘の矢田八幡神社(久美浜町佐野)、平荘の平八幡神社(丹後町平)、は、石清水八幡宮(八幡市)の荘園であった時代に祀られたと考えられます。

本願寺(久美浜町十楽)は、後白河法皇の持仏堂の長講堂領(京都市東山区)であった久美荘にある浄土宗の寺院です。本願寺文書には、後白河法皇の五七日供養を行ったという言い伝えが記され、本尊の木造阿弥陀如来立像はその



縁城寺 木造千手観音立像



成願寺 木造薬師如来坐像 両脇侍像



山的神1号経塚 銅製経筒(円頓寺所蔵)



平八幡神社

時に造られたとされます。また当時のようすを伝える鎌倉時代後期の^{ほんどう}本堂があります。

南北朝時代から戦国時代へ

元弘3年(1333)、鎌倉幕府が滅ぶと、京都の^{ほくちやう}北朝と吉野の^{なんちやう}南朝が対立する南北朝時代となりました。幕府滅亡時の丹後では、後醍醐天皇の命で熊谷直経が、熊野郡の浦家(浦明)、浦富保、竹野郡の木津郷、木津荘、船木荘、丹波郡の丹波郷、光安保、善王寺の城を焼きはらっています(「熊谷直経代直久軍忠状」)。南北朝動乱期には、すでに丹後各地に城があったことがわかります。

建武3年(1336)、足利尊氏は、一色範光を丹後国守護に任命しました。一色氏は、応仁の乱後、丹後府中(宮津市府中)に守護所を置きました。その後、一色氏は内紛を起こし、それに乗じて、若狭国(福井県)の武田氏が何度も丹後国を攻めています。永正14年(1517)には、丹後府中から吉沢城(弥栄町吉沢)や堤籠屋城(弥栄町堤)へ武田氏が侵攻し、合戦が行われました。

天文7年(1538)の「丹後国御檀家帳」には、丹後守護・一色氏を頂点に「国の御奉行」と呼ばれた石川氏(加悦)、伊賀氏(久美浜)、小倉氏(宮津)、「国のおとな衆」井上氏が守護のもとにあり、さらに各地に城持ちの城主が点在していたことが記されています。また山林寺院の雄坂寺(網野町尾坂)は、「大なる城主也」と記され、武装した寺院があったことがわかります。

このように南北朝時代から戦国時代には、市域に多くの山城が築られました。若狭武田氏との合戦の舞台となった堤籠屋城の近くに立地するシミズ谷城跡(弥栄町堤)では、掘立柱建物跡、鍛冶炉などがあり、瀬戸焼、美濃焼、青磁碗などの陶磁器、土師器などが見つかっています。また下岡城跡(網野町下岡)は、郭、井戸、堅堀などの遺構がよく残り、戦国時代の山城のようすがよくわかる遺跡です。

信仰の展開

鎌倉時代から室町時代にかけて、市域には、さまざまな信仰の展開が見られました。

時宗の開祖一遍上人は、弘安8年(1285)に丹後の久美の浜で踊り念仏を行い、龍があらわれたと伝えています。その後の時宗は、熊野郡に浦明道場があったという記録が残るほか、室町時代の八幡神社(丹後町平)鱧口や安楽寺(丹後町



本願寺木造阿弥陀如来立像



稲葉家本「丹後国御檀家帳」



シミズ谷城跡(公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター提供)



安楽寺八角石塔

此代)の八角石塔などが残っています。

禅宗では、永享4年(1432)に千畝周竹が臨濟宗寺院として再興した常喜院(久美浜町新町)が知られています。

また戦国時代になると、生前に死後の供養を行う逆修という風習が盛んに行われ、市域には多くの供養塔が建てられました。代表的なものには、福昌寺(弥栄町黒部)境内にある享禄4年(1531)の十三仏石塔や、永禄7年(1564)の立石大逆修塔(大宮町森本)などがあります。この時期のお墓には、水戸谷遺跡(大宮町三重)のように、火葬後の骨を納めた上に石で作った五輪塔や板碑を建てたものが見つかっています。



福昌寺十三仏石塔

3-4. 近世

細川藤孝・忠興の丹後支配

天正7年(1579)、織田信長は明智光秀、細川藤孝・忠興親子に丹波丹後の平定を命じます。明智光秀は、丹波を支配し、細川藤孝・忠興は一年がかりで丹後守護の一色氏を支配下に置きました。天正8年(1580)には、細川氏は宮津城の築城に取り掛かり、城下町の建設も行われました。

天正10年(1582)の本能寺の変で、明智光秀が織田信長を討ったのち、光秀は細川藤孝・忠興に味方になるよう求めましたが、藤孝はこれを断り、幽斎と名を改めて隠居し、家督を忠興に譲って舞鶴の田辺城に移りました。この時、忠興は、明智光秀の娘であった妻・玉子(ガラシャ夫人)を、弥栄町味土野の山中に幽閉したと伝えています。その後、細川氏は、一色氏を滅ぼし、約20年間にわたって丹後を支配しました。幽斎は、和歌、能や文芸に秀でており、当時の一流の文化人でした。



水戸谷遺跡



細川ガラシャ夫人隠棲地に建つ石碑

松井康之の久美浜支配

松井康之は、細川藤孝の重臣です。康之は、松倉城(久美浜町西本町)に入り、ふもとの久美浜を城下町として整備しました。また叔父の玄圃霊三を招いて常喜院を再興し、宗雲寺と改め、父正之と母法寿の墓を移しました。康之は、豊臣秀吉の鳥取城(鳥取県)の戦や、文禄2年(1593)の朝鮮出兵にも参加し活躍しています。関ヶ原の合戦時の康之は、細川家の領地があった豊後杵築城(大分県)にあって、九州の西軍と戦いました。康之は、藤孝・忠興同様に、茶道や文芸に秀でており、茶道は千利休に学んでいました。



絹本著色松井康之像(宗雲寺所蔵)

京極氏と峰山藩

細川氏の豊前中津（大分県）に国替え後、丹後を治めたのは、外様大名の京極高知です。京極氏は、室町幕府の要職を務めた大名として知られています。高知は、慶長7年（1602）に、所領である丹後全域にわたる検地を実施し、支配の基礎を固めました。元和8年（1622）、京極高知の死後、遺言により高知の三人の子が分割して相続することとなり、宮津藩を高広、田辺藩を高三、峰山（峯山）藩を高通が統治することになりました。

峯山藩は、その後、明治4年（1871）の廃藩置県まで、12代250年間にわたって、京極氏が治めました。京極氏の菩提寺であった常立寺には、歴代藩主の肖像画と墓所が残されています。

峰山藩は、1万石の小さな藩であったものの、3人の藩主が江戸幕府の若年寄を務めるなど、譜代大名並みの扱いでした。また宮津藩領、久美浜代官所領と比較すると、峰山藩では百姓一揆が一度もなかったことが注目されます。これは小さな藩ゆえに管理が行き届き、領民にとって良い政治が行われていたためと考えられています。

京極氏は、丹後ちりめんを扱う問屋を選定するなど、丹後ちりめんの保護策を採り、振興を図りました。丹後ちりめんは、4代藩主高之の時代、享保5年（1720）に、絹屋佐平治が京都の西陣から、ちりめんの技術を峰山に持ち帰ったことに始まります。佐平治は、後に名を森田治郎兵衛と改め、「丹後ちりめん」の始祖として讃えられ、その墓は常立寺にあります。その後、ちりめん産業は、歴代藩主のもとで発展を遂げ、丹後全体に富と活気をもたらしました。

また4代高之は、博学多才であり、書画・木工・陶芸の作品が伝えられています。7代高備の時代には、讃岐（香川県）の金毘羅権現を峰山に分祀し、金刀比羅神社が創建されたと伝えられています。

天領と久美浜代官所

熊野郡は、寛文6年（1666）以降、幕府の直轄領（天領）となりました。これは、熊野郡を領地としていた宮津藩が、藩主・京極高国父子との不和と領内農民への悪政を理由に、領地を没収されたことによります。その後、但馬の生野代官所の支配下に置かれたのち、湊宮に「船見番所」が設けられ、享保20年（1735）に、代官所は久美浜に移されました。



京極高通像（常立寺所蔵）



常立寺



森田治郎兵衛（絹屋佐平治）の墓



久美浜代官所があったことを伝える陣屋橋

現在の久美浜小学校は、かつて代官所のあった場所です。寛政11年(1799)の「丹後但馬美作国村々新高帳」によると、久美浜代官所の支配地は、丹後、但馬の227ヶ村に及び、一時は美作国(岡山県)にも支配地がありました。年貢は米と銀で納められ、米は間人、浜詰、久美浜などの蔵に集められました。その後、旭湊(久美浜町蒲井)などから千石船で江戸や大坂に送られ、銀は陸路で大阪へ送られました。丹後の米は、江戸の台所を支えていました。



旭港

代官所は、支配地の広さに比べ役人の数が少なかったため、支配下の村々の代表者である郡中代や、いくつかの村の庄屋の代表者の組合惣代、庄屋などの村役人、代官所の公金を預かる掛屋などがおられました。なお郡中代は、久美浜村の庄屋が勤めました。



稲葉家住宅

久美浜の稲葉家(稲葉本家)は、代官所の掛屋をつとめた家です。土地集積により財をなし、出石藩(兵庫県)などの掛屋もつとめました。離れ座敷の吟松舎には、大名や幕府役人のほか、文人・墨客が訪れました。

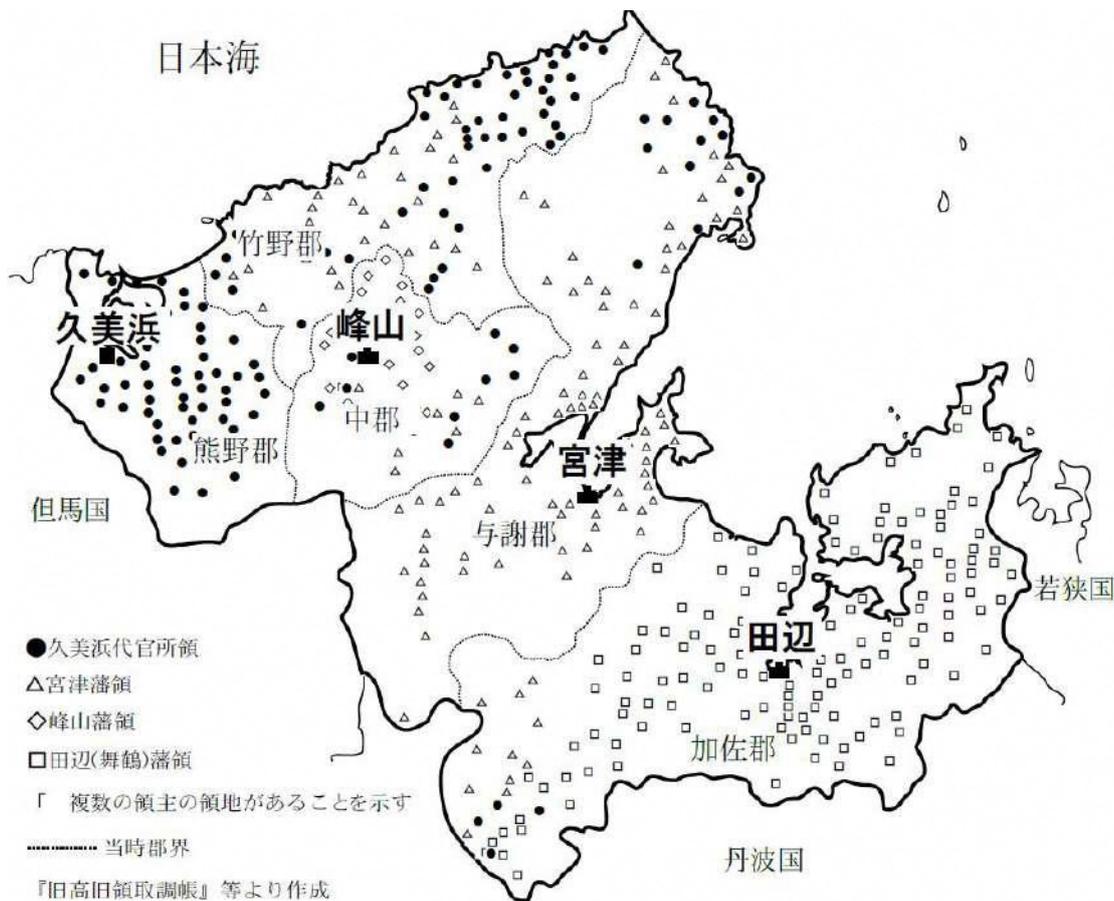


図 1-31 江戸時代末期の丹後国領主別領地村配置図 (『図説京丹後市の歴史』p78 より)

北前船の寄港地としての発展

鉄道が開通する以前の時代、大量の貨物の輸送には、船が最も有効な手段でした。江戸時代、日本海沿岸には北前船の航路が開かれ、各地の産物が運搬、取引されていました。

市域では、間人（丹後町）、浅茂川（網野町）、湊宮（久美浜町）が北前船の寄港地として発展しました。湊宮の「五軒家」は、廻船業の他に両替商、酒造業などを行っていた豪商で、本座屋、新シ屋、下屋、木下家、五宝家のことです。五軒家は、天正期（1573～1592年）から江戸時代前期に最も栄えたと伝えています。その後、延享3年（1746）の湊宮村の明細帳には、850石積から420石積の船19艘があったことが記されています。しかし幕末になると船は小さくなり、弘化2年（1845）には、船は16艘、最大で150石積と記されています。五軒屋に関する史跡としては、小西伯熙の建てた大石塔のほか、天明の飢饉の時に五軒屋を目指しながらも途中で力尽きた人々の供養に建てられた群霊暴骨墓があります。

間人には、船荷問屋として但馬屋、加賀屋、因幡屋がありました。加賀屋には、宝暦年代（1751～1764年）から明治時代までの客船帳が残っており、北海道から九州まで、加賀屋と取引があった船名が記録されています。

村のようすと信仰

江戸時代の農村は、「村」を単位に営まれていました。村のようすは、村明細帳などの史料に記録されており、農村の場合は、職人の家が若干あるものの、村の大半は農業に従事していたようです。農地には、水田、畑があり、水田には用水が欠かせないものでした。水田の肥料には柴草を中心に干鰯や油粕、畑の肥料には柴草、灰のほか、農業に従事した牛などの肥を使っていたようです。山は、肥料として用いた柴草のほか、薪などの燃料を得るために重要なものでした。そのため、村同士で用水や山争いが起こり、代官所や藩主のもとへ訴えることもありました。争論では、現地 のようすを描いた絵図が作られることもありました。

村では、信仰の中心として神社が祀られ、本殿や鳥居などが造られました。秋祭りには、収穫に感謝する祭礼行事などが行われました。現在に伝わる神社や民俗芸能は、大半が江戸時代にさかのぼるものです。また江戸時代の村人は、寺院の檀家でもありました。現在に残る寺院の大半は、江戸時代にさかのぼるものです。



北前船を模した奉納和船
(蛭見神社所蔵)



加賀屋客船帳(個人所蔵)



昭和初期の間人漁港



瀧谷山争論絵図

4-5. 近現代

明治維新と丹後

幕末になると日本海沿岸の諸藩は、外国船に対して警戒を強めていました。宮津藩では、海防警備のために砲台を設置し、岬には胸壁を設けました。市域では大内岬に胸壁がありました。慶応2年(1866)、幕府は第二次長州征討を行い、当時老中であった宮津藩主・本庄宗秀は先鋒副総督を務め、若年寄であった峰山藩主・京極高富は四国征長諸軍の取り締まりに当たりました。しかし長州征討は失敗し、幕府の権威は失墜します。慶応3年(1867)、第15代将軍・徳川慶喜は大政奉還を行いました。次いで「王政復古の大号令」が出され、明治新政府が誕生しました。

当時、丹波・丹後にあった亀山(亀岡)、篠山、福知山、田辺(舞鶴)、宮津などの藩主たちは、すべて幕府に近い大名でした。慶応4年(1868)、新政府は山陰道の鎮撫総督として西園寺公望を任命しました。西園寺は、京都を出発してからおよそ20日間で、これら諸藩を服属させました。なお西園寺は、久美浜代官所へ入る前に稲葉本家の吟松舎で昼食をとっています。久美浜代官所領は、久美浜県となりました。久美浜県は、明治2年(1869)に府下で最も早い小学校建設に関する令達を発しています。翌3年(1870)には、長明寺(久美浜町土居)に久美浜県小学校が置かれました。

廃藩置県から、豊岡県、京都府へ

明治新政府は、様々な制度改正、改革を行いました。明治4年(1871)7月には、廃藩置県がおこなわれ、丹後は宮津、舞鶴、峰山、久美浜の4県となりました。この中で久美浜県の範囲は、丹後・丹波・但馬・播磨・美作の5カ国にわたる広域なもので、県庁は久美浜代官所があった場所に建築されました。同年11月には、全国3府72県に統合され、丹後は、但馬および丹波のうち天田・氷上・多紀の3郡とともに豊岡県となりました。その後、明治9年(1876)8月には、豊岡県が廃止され、丹後、丹波は京都府に編入され、現在に至っています。明治時代前期には、地券交付、地租改正といった土地制度や、戸籍制度などがはじまり、現在に引き継がれているものも多くみられます。

なお久美浜県庁の建物は、解体・移築した上で豊岡県庁(兵庫県豊岡市)として使用された後、大正12年(1923)に神谷神社境内へ玄関棟が移され、参考館として残っています。



京極高富像(金刀比羅神社所蔵)



長明寺に立つ
久美浜県小學校發祥の地石碑



久美浜県庁の正門(兵庫県豊岡市)



参考館(久美浜県庁舎玄関棟)

難航した鉄道敷設

明治20年代、ロシアでシベリア鉄道が造られると、日本海に面した丹後では、宮津－ウラジオストック（ロシア）間の貿易を試みました。しかし日清・日露戦争による朝鮮半島情勢の変化や、宮津から京阪神への鉄道が完成していなかったこともあり、失敗に終わります。

京都－舞鶴間の鉄道計画は、明治27年（1894）、京都鉄道株式会社^{かぶしきがいしゃ}の事業に国の認可が下りました。これを受け丹後各地の有力者は、宮津－城崎間の鉄道敷設を目指す丹後鉄道株式会社を設立しました。しかし日清戦争後の明治32年（1899）、京都鉄道株式会社は京都－園部間を開通させたものの、さらなる延伸^{えんしん}に行き詰まり、丹後鉄道株式会社も解散しました。一方、間人^{まいた}（丹後町）出身で大阪財界の雄であった松本重太郎^{まつもとしげたろう}が関わった阪鶴鉄道株式会社は、明治32年に大阪－福知山間の鉄道を開通しました。その後、日露戦争による情勢の緊迫により、日本海側に唯一置かれた舞鶴鎮守府と京阪神を鉄道で結ぶ必要があったため、明治37年（1904）11月、政府により福知山－綾部－舞鶴間の鉄道が開通しました。

その後、市域の鉄道建設は、大正7年（1918）の舞鶴－峰山間の着工でようやく実現し、大正14年に峰山駅、口大野駅（現在の京丹後大宮駅）が開業しました。峰山－豊岡間は、大正15年（1926）に峰山－網野間、昭和4年（1929）に豊岡－久美浜間、同6年に網野－丹後木津間（現在の夕日ヶ浦木津温泉駅）、同7年に丹後木津－久美浜間が開通、ようやく全通しました。

生活の近代化

丹後の電気事業は、日露戦争後に本格化しました。明治45年（1912）6月に両丹電気株式会社が発足し、同年9月には峰山町に初めて電気が通りました。翌大正2年（1913）に発足した豊岡電気株式会社は、丹後へも事業区域を拡大し、大正4年に網野町に電気が通りました。大正6年（1917）には、両丹電気と豊岡電気が合併し三丹電気株式会社となり、大正時代末には市域のほとんどの地域に電気が通りました。この間、大正9年（1920）には、水力発電の小脇発電所（丹後町）が送電を開始し、現在も稼働しています。

医療では、コレラなどの伝染病^{でんせんびょう}予防^{よぼう}が大きな課題でした。明治22年（1889）の町村制^{ちやうそんせい}施行^{しこう}とともに、各町村では伝染病^{でんせんびょう}隔離^{かくり}病舎^{びんしゃ}の建設が進みました。一方、明治前期までの医師は、幕末^{らんぼう}の蘭方^{いりやう}医療^{いりやう}による開業^{かいぎやう}医^いが中心でした。その後、日清戦争後には、大学、高等学校、専門学校卒業の医師が増加し、医療の近代化が進みました。



丹後小学校に立つ松本重太郎像



峰山線開通記念絵葉書(峰山駅)



小脇発電所



久美浜町伝染病隔離病舎
(稲葉家写真 B658)

日清・日露戦争、第1次世界大戦による社会の変容

明治22年(1889)の改正徴兵令は、例外はあるものの国民皆兵に近づくものでした。各町村役場には「兵事」が業務として加わることとなりました。

日清・日露戦争では、市域からの従軍者があり、日露戦争では戦死者も出ました。市域各地には、明治三十七八年役
記念碑や征露記念の奉納品、軍事郵便などの資料が残っています。明治43年(1910)には、在郷軍人の親睦と団結のため
在郷軍人会が発足し、町村単位で分会が組織され、軍の監督を受けました。大正2年(1914)に第一次世界大戦が勃
発すると、市域の経済面では、織物業を中心に好況を迎えましたが、その後、大正9年(1920)から始まる戦後恐慌
で不況に陥りました。

大正15年(1926)からは、町村ごとに16歳以上の勤勞男子に軍事教練をほどこす青年訓練所が設置され、忠魂碑が一斉に建設されるなど、軍隊を起点とした地域の軍事的結合がゆるやかに進行することとなりました。

丹後震災からの復興

昭和2年(1927)3月7日、北丹後地震(丹後震災)が発生しました。この地震による死者は2,925人、全壊家屋12,584棟、全焼家屋6,459棟という甚大なものでした。最も被害が大きかったのは峰山町で、当時の市街地の90%以上が焼失しました。

この地震の震源となった断層は、郷村断層帯と山田断層帯でした。郷村断層は、丹後半島を北北西から南南東に縦断する約18kmの断層です。山田断層は、東北東から西南西方向に伸びる約7kmの断層です。地震発生直後から、当時の地震学者による現地調査が行われ、郷村断層のうち、学術的に価値があるとされた3地点は、天然記念物として保存されました。

震災発生直後の負傷者の救護、救援物資の補給、倒壊家屋の片づけ、バラック(仮設住宅)の建設といった救護活動には、各地から支援の手が差し伸べられました。救護活動は約1ヶ月で区切りを迎え、被災地は復興に向けて進むこととなりました。

住宅や産業の復興には、資金融資がありましたが、被災した人々には重い負担となりました。それでも融資をもとにちりめん業などの産業や住宅の復興が進められ、被災地は速やかな復興が果たされました。



征露記念猿石碑(日吉神社)



忠魂碑



震災直後の峰山町
(『丹後但馬震災画報』より)



復興の途上にある峰山町
(『丹後但馬震災画報』より)

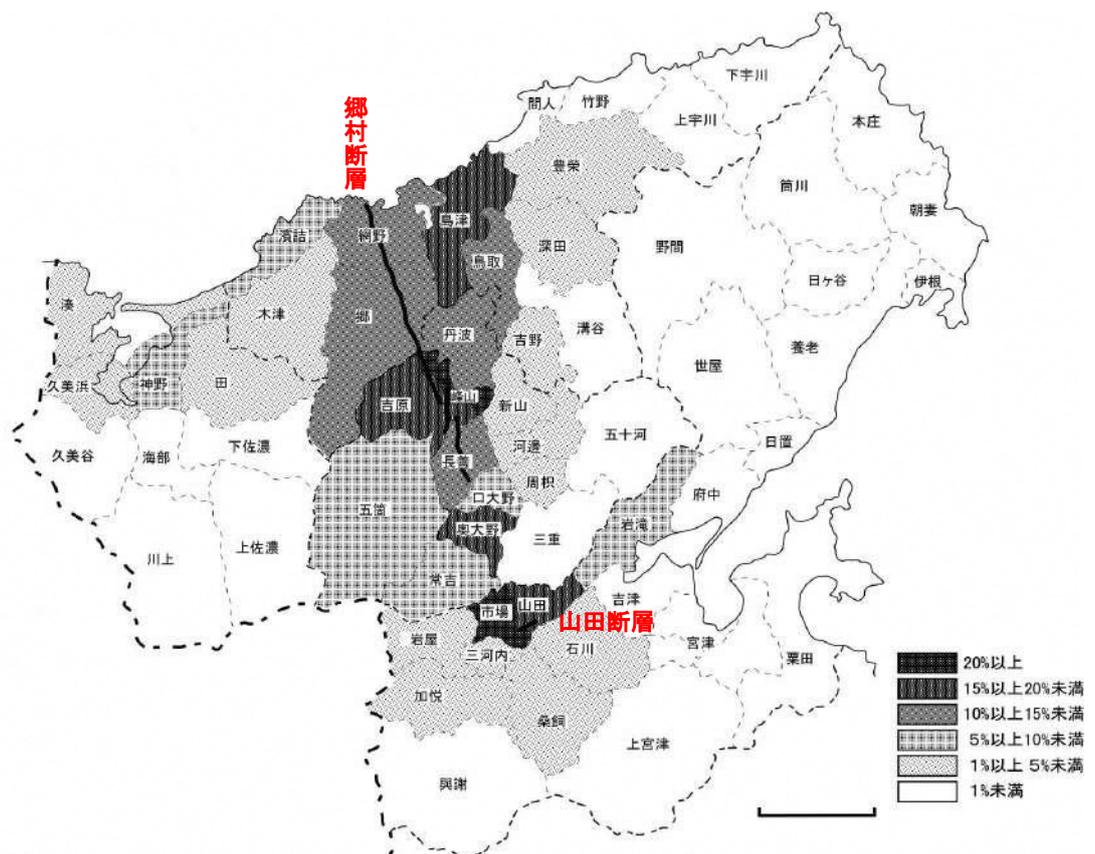


図 1-32 丹後震災による町村ごとの死傷者率の分布（『京丹後市の災害』p133 より、断層名を追記）

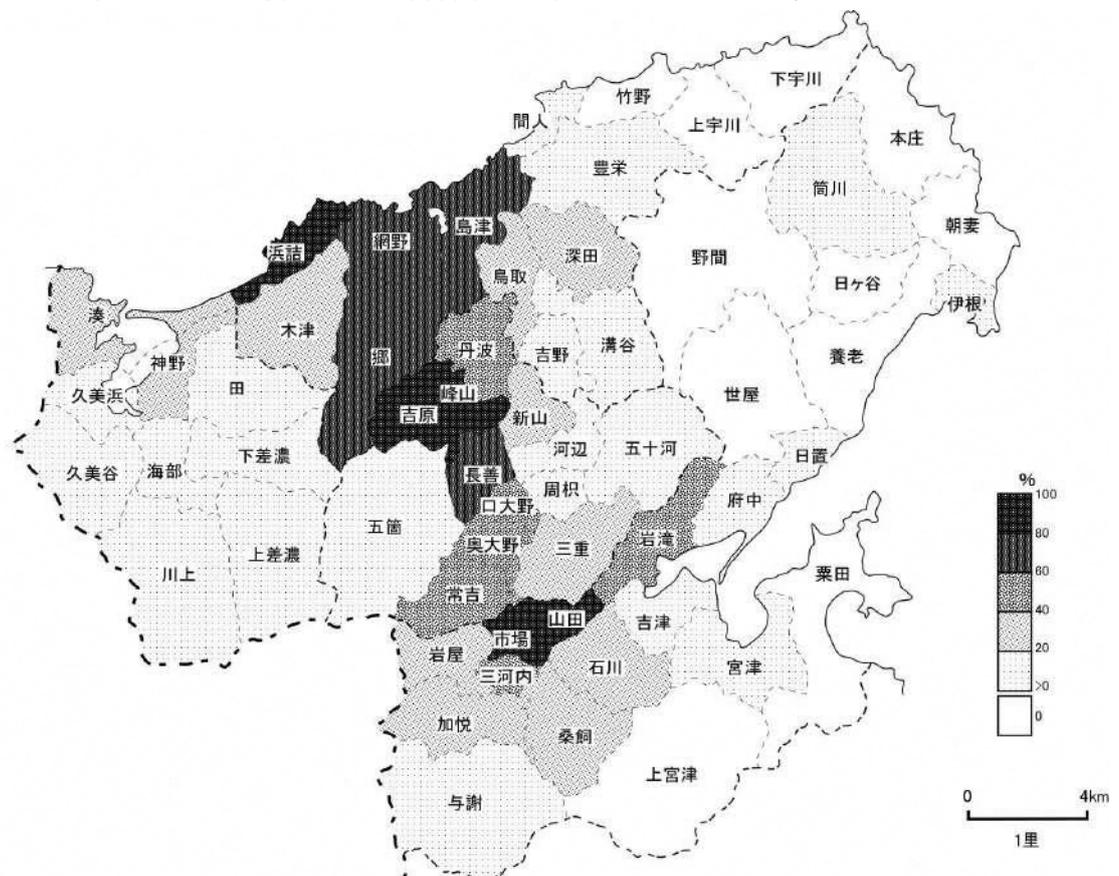


図 1-33 丹後震災による町村ごとの死傷者率の分布（『京丹後市の災害』p134 より）

表 1-7 京丹後市(丹後半島西部山地)における廃村集落の状況

集落番号	集落名	所在地	集落の標高※1	集落の地形※2	明治期の戸数	全面廃村化の時期	備考
1	山内	久美浜町	150	中腹崩壊斜面	11	昭和 43 年	
2	日和田	網野町	140	中腹崩壊斜面	34	昭和 40 年	4 戸新規転入
3	尾坂	網野町	180	谷頂	12?	昭和 36 年	
4	大河内	大宮町	160	谷頭	4	昭和 18 年	
5	奥車谷	大宮町	180	谷頭	5?	昭和 28 年	

表 1-8 京丹後市(丹後半島東部山地)における廃村集落の状況

集落番号	集落名	所在地	集落の標高※1	集落の地形※2	明治期の戸数	全面廃村化の時期	備考
6	小脇	丹後町	120	中腹浸食斜面	13	平成元年	
7	川久保	弥栄町	90	谷中	7	昭和 56 年より冬無住	
8	三山	丹後町	120	谷頭	35	昭和 50 年	集団離村
9	竹久僧	丹後町	200	谷頭	10	昭和 38 年	集団離村
10	乗田原	丹後町	310	谷頂	6	昭和 44 年	三山の端郷
11	碓開拓	丹後町	380	崩壊性高原面	-	昭和 36 年	昭和 23 年 10 戸入植開拓
15	大石畑	弥栄町	600	崩壊性高原面	5?	明治末期頃	須川の端郷
16	住山	弥栄町	500	崩壊性高原面	5	昭和 39 年	須川の端郷
17	熊谷	弥栄町	300	谷頭	2	昭和 37 年	須川の端郷
18	平家	弥栄町	500	山頂浸食斜面	1	昭和 38 年	須川の端郷
19	茶園	弥栄町	440	山頂浸食斜面	2	昭和 38 年	須川の端郷
20	尾崎	弥栄町	560	山頂浸食斜面	2	昭和 38 年	須川の端郷
21	鉄谷	弥栄町	400	谷頭	2	昭和 40 年	同上(黒川の呼称あり)
22	出合	弥栄町	280	谷中	3	昭和 40 年	須川の端郷
26	三舟	弥栄町	320	谷頂	3?	昭和 34 年	藪の端郷
27	小杉	弥栄町	420	山頂浸食斜面	9	昭和 39 年	味土野の端郷、木地屋集落
35	滝谷	大宮町	130	谷頂	4?	大正初期	延利の端郷
36	内山	大宮町	490	崩壊性高原面	16	昭和 45 年	五十河の端郷
37	大谷	大宮町	200	谷頭	11	昭和 40 年	河辺の端郷
38	表山	弥栄町	270	中腹浸食斜面	10	昭和 34 年	吉沢の端郷
39	六谷	弥栄町	220	中腹浸食斜面	4?	昭和 25 年頃	堀越の端郷
40	中尾引	弥栄町	200	中腹浸食斜面	4?	昭和 30 年頃	堀越の端郷
41	箴津	弥栄町	170	中腹浸食斜面	3?	明治 40 年頃	堀越の端郷
42	二股	弥栄町	200	谷頭	2?	明治末年頃	堀越の端郷
43	養ヶ供御	弥栄町	280	中腹浸食斜面	4?	明治 40 年頃	堀越の端郷
44	芦谷	弥栄町	430	山頂浸食斜面	3?	明治 40 年頃	堀越の端郷
45	吉津	弥栄町	420	崩壊性高原面	15?	昭和 41 年	明治 10 年大火
46	畑	弥栄町	220	中腹浸食斜面	14?	昭和 44 年	

表 1-8 京丹後市(丹後半島東部山地)における廃村集落の状況

集落番号	集落名	所在地	集落の標高※1	集落の地形※2	明治期の戸数	全面廃村化の時期	備考
47	岩野	弥栄町	350	谷頂	3?	明治末年頃	畑の端郷
48	高原	弥栄町	400	山頂浸食斜面	15	昭和 42 年	等楽寺の端郷
49	栃谷	丹後町	180	谷頭	5	昭和 43 年	
50	一段	丹後町	130	中腹崩壊斜面	50	昭和 45 年	
51	力石	丹後町	240	中腹浸食斜面	31	昭和 49 年	昭和 34 年大火
52	大谷	丹後町	220	中腹浸食斜面	15?	昭和 52 年	永谷の呼称があった
53	神主	丹後町	190	中腹浸食斜面	17	昭和 53 年	

※1:標高は集落空間内の居宅集合地の中央部付近の 1/25000 地形図による

※2:地形図、空中写真の読図ならびに実地調査に基づき類型化したもの

(出典:『丹後地方における廃村の多発現象と立地環境との関係 その1地形的・地質的条件との関係』

坂口慶治(1998):京都教育大学環境教育研究年報第6号、51-82)

※集落番号は、坂口 1998 を使用

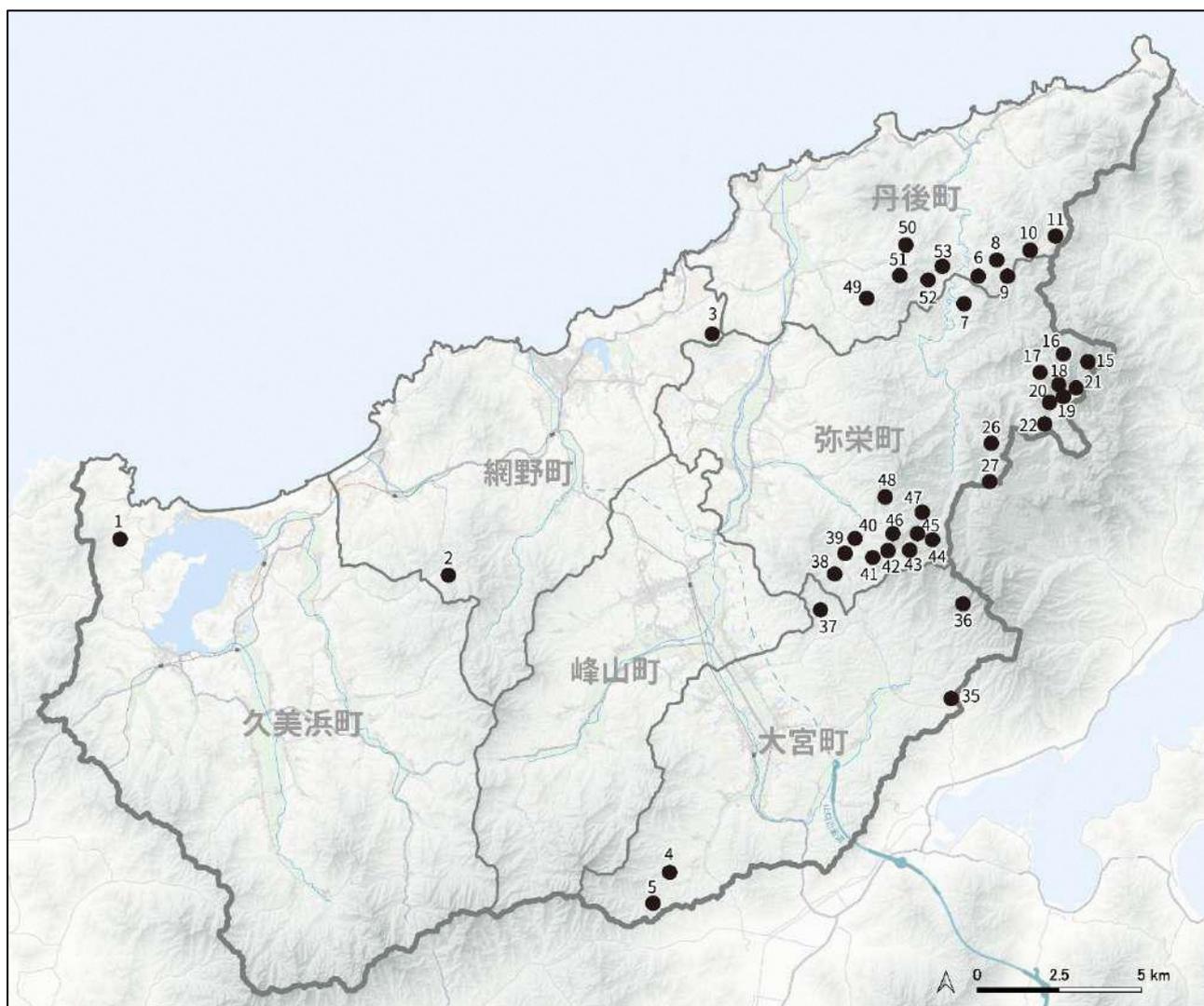


図 1-34 廃村集落の位置

(出典:『丹後地方における廃村の多発現象と立地環境との関係 その1地形的・地質的条件との関係』

坂口慶治(1998):京都教育大学環境教育研究年報第6号、51-82)

また昭和4年(1929)には、震災義援金の残金を用い、京都府が丹後震災記念館(峰山町室)を建設し、震災の記憶を後世に伝えています。

総動員体制と丹後

昭和4年(1929)世界恐慌の広がりにより、国内は深刻な経済不況となりました。各町村では、冠婚葬祭や日常の交際費の節約などを申し合わせた生活改善に取り組みました。社会の不安定化の一方、陸軍は昭和6年(1931)に満州事変を起こし、翌年には満州国建国、国際連盟の脱退へと進みました。この間、教化総動員運動や在郷軍人会の活動により、次第に国民は軍事体制に取り込まれていきました。

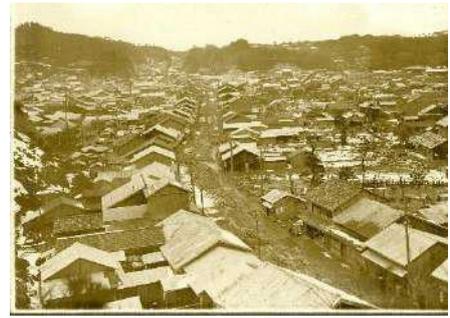
昭和12年(1937)に日中戦争が起こると、多くの人々が軍隊に召集され、応召軍人の見送り、出征者への慰問袋の作成、応召家庭への勤労奉仕などが取り込まれました。そして昭和13年(1938)には、国家総動員法により一挙に戦時体制に進むこととなりました。昭和15年(1940)には大政翼賛会が結成され、町村では隣組単位まで上意下達の全国組織となり、昭和16年(1941)の太平洋戦争へと突入していくこととなりました。木津村役場で作られた兵事関係文書には、総動員体制へ進む町村の姿が記録されており、大変貴重な史料です。

開戦後、海軍は、対ソ連戦に備えて舞鶴軍港の防空戦闘機の基地となる河辺飛行場を、峰山盆地の河辺から新町にかけて建設しました。その滑走路は約1.5km、幅80mにも及ぶもので、格納庫、兵舎、通信基地なども併設されました。昭和19年(1944)、第二美保海軍航空隊峰山分遣隊として、峰山海軍航空隊が発足し、兵員数は当初600名、昭和20年(1945)7月には1,500名にも増員されました。同年7月に飛行場は米軍機による爆撃を受け、死傷者を出していません。戦後、飛行場跡地は農地などに変わりました。航空機の格納庫や火薬庫、弾薬庫などが現在も残っています。

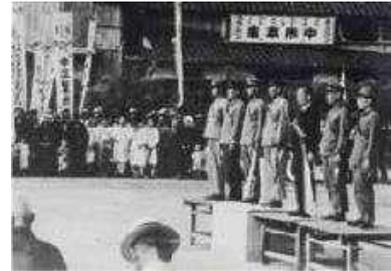
昭和38年豪雪と離村

昭和38年(1963)1月、日本海側をおそった豪雪は、平野部で3m、山間部では4mを超える積雪でした。100年に一度の豪雪といわれ、現在は「38豪雪」と呼ばれています。

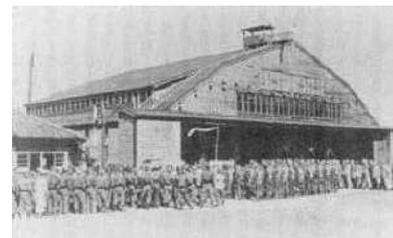
この雪害をきっかけに、明治時代よりみられた山間部に位置する集落の離村が急速に進みました。その数は、表1-7、1-8に示すとおり、40集落に及びます。



震災1年後の峰山町



出兵兵士の見送り



峰山海軍航空隊
(峰山海軍航空基地格納庫前)



現在も残る格納庫



38豪雪、家の2階まで積もった雪

第2章 文化財の概要

1. 既往の文化財把握調査の概要

本市では、これまで文化庁、京都府、京都府立丹後郷土資料館による調査、個人・団体による調査等のほか、旧町の町史編さんに伴う調査が行われています。また京丹後市発足後の平成17～29年度には、京丹後市史編さん事業を実施し、本文編2冊、資料編12冊を発刊しました。市史編さん事業では、過去の調査を踏まえた様々な方法で調査を実施して、市内の自然遺産、歴史遺産の特徴を明らかにしました。

一方、過去の調査では、認識されなかった文化財もあります。地域で大切にされている文化財を対象とした調査として、平成16年(2004)に久美浜町域の地域資源情報を調査した『守り継がれるむらの自然と歴史 ふるさと資源大事典～集落資源調査報告書【第2次】』があります。峰山、大宮、網野、丹後、弥栄町域については、平成26～27年(2014～2015)に地区ごとに地域資源情報をまとめた「ふるさと わがまち わが地域」が作成され、市ホームページに公開されています。これらの地域資源情報には、従来の調査で知られていないものも含まれており、大変貴重な情報となっています。

さらに、地域計画の作成にあたっては、各区を対象としてアンケート調査を実施し、さらなる地域資源の把握に努めました。以上を踏まえ、類型別の把握調査の現状と課題を表2-1、2-2にまとめました。

表 2-1 類型別の文化財把握調査の現状と課題

類型	類型別の把握調査の現状と課題	
有形文化財	建造物(社寺建築)	市史で神社本殿、寺院本堂など主要な建造物と棟札の悉皆調査を実施し、町ごとの建築調査報告書がある。若干の漏れが見受けられるほか、境内摂社や小堂の大部分は未調査。
	建造物(石造物)	宝篋印塔、鳥居等のうち一部の在銘石造物等は研究者による調査報告が、大宮町域は町誌編さん時の所在調査が行われているが、いずれも現存確認が十分ではない。
	建造物(その他)	民家は、府や市史の調査があるが、現存確認が十分でない。土木構造物や近代建築物は府や市史の調査で主要なものは把握できているが、現存確認や把握調査が十分ではない。
	美術工芸品(絵画・彫刻・工芸品)	府や市史の調査で主要なものは把握できているが、所在確認や悉皆調査は十分ではない。石造狛犬や石灯籠等は、建造物と同様、主要なものを把握しているが、現存確認や把握調査が十分ではない。
	美術工芸品(書跡・典籍・古文書・歴史資料)	中世文書は数が少なく、大部分を把握している。近世・近代文書の残りは良く、府や市史で主要なものを把握しているが、悉皆調査や目録作成が十分ではない。近代行政文書は、大部分の簿冊目録を作成し所在把握しているが、件名目録の作成に至っていない。古地図は、市史の調査で主要なものを把握、撮影を行ったものの、把握調査は十分でない。
	美術工芸品(考古資料)	市史の調査で、過去の調査資料の整理を行った。今後、発掘調査による増加が見込まれる。
無形文化財(工芸技術)		丹後ちりめんの技術資料に関しては、昭和期の試織見本帳などの所在把握ができています。しかし、実物資料の所在把握や収集は十分でない。
民俗文化財	有形の民俗文化財	堂、祠は把握調査を行ったが、現存確認が十分ではない。神輿、絵馬、土俵、芝居舞台等は把握調査が十分ではない。奉納和船は、府の調査によりおおむね把握ができています。
	無形の民俗文化財	民俗芸能や伝統行事は、府や市史の調査で把握調査や一部地域の詳細調査を実施しているが、悉皆調査と映像記録作成は十分でない。方言・伝説・伝承・民謡等は、すでに失われたものが多いが、過去の府や郷土史団体等の調査によりおおむね把握ができています。郷土料理は、百歳長寿レシピの調査により、現在に伝わるものはおおむね把握ができています。
記念物	遺跡	古墳・墳墓・散布地等は、周知の埋蔵文化財包蔵地として把握している。山林寺院や製鉄遺跡、古道などの把握は十分にできていない。震災記念碑は、市史の調査で把握している。
	名勝地	ジオパーク関連、文化庁調査により主要なものは把握できている。
	動物・植物・地質鉱物	動植物については十分な把握ができていない。巨樹・巨木は、緑の少年団、宮津天橋高等学校の調査により詳細把握ができています。地質鉱物、地形等は、ジオパーク関連調査、市史の調査で主要なものは把握できている。
文化的景観		文化庁調査により主要なものは把握できているが、全市的な把握には至っていない。
伝統的建造物群		市史の調査で主な漁村、農村集落を調査したが、全市的な把握には至っていない。

表 2-2 分類ごとの把握状況

分類			把握状況	分類			把握状況
有形文化財	建造物	伽藍等（寺院）	○	記念物	遺跡	貝塚・集落跡・散布地	△
		社殿等（神社）	○			古墳・墳丘墓	○
		住宅等	△			城館跡他	△
		近代建築物	△			社寺跡他	×
		土木構造物	△			学校跡他	△
		石造物	△			墳墓及び碑(中世以降)	△
		その他建造物	△			街道・生産施設他	×
	美術 工芸品	絵画	△			旧宅、園池その他特に由緒のある地域	△
		彫刻	△			災害記念碑・供養塔	○
		工芸品	△			その他の記念碑	△
		書跡・典籍	△		その他の遺跡	△	
		古文書	△		名勝地	公園・庭園	△
		考古資料	○			花樹・紅葉等	△
		歴史資料	△			砂丘・海浜	○
無形文化財			×	山岳・丘陵		○	
民俗文化財	有形の 民俗 文化財	寺院等	△	峡谷・瀑布		○	
		神社等	△	岩石・洞穴		○	
		堂・祠等	△	湖沼・浮島・湧泉		○	
		信仰（奉納物等）	△	展望地点	△		
		民俗芸能・娯楽・遊戯	○	動物・ 植物・ 地質 鉱物	畜養動物	△	
		生活・衣食住	△		動物の棲息地	△	
		生産・交通	△		名木・巨樹	○	
		その他有形の民俗文化財	○		巨木林・社叢	○	
	無形の 民俗 文化財	年中行事・祭礼・法会等	△		原始林他特殊な植物相等	△	
		民俗芸能（三番叟等）	△		変動地形・地層	○	
		口承文芸・民間伝承・民謡	○	岩石・鉱物及び化石	○		
		食習俗・技術	△	温泉	○		
		民俗技術	×	海岸地形	○		
					その他地形	○	
文化的景観			△	伝統的建造物群			△

【凡例】

- ：概ね把握が出来る
- △：部分的に把握出来る
- ×

2. 文化財の指定等の状況

2-1. 指定等文化財

令和4年（2022）4月現在の指定等文化財の件数は合計275件であり、その内訳は表2-2のとおりです。文化財の種別ごとにみると、建造物が89件と最も多く、絵画35件、遺跡28件、考古資料23件と続いています。近年、指定等文化財となったものは、峯山藩主京極家墓所（令和2年府指定史跡）、三嶋田神社石造物2件（石造地藏菩薩立像等、令和2年市指定有形文化財）、銅造飲食器（令和2年市指定有形文化財）などです。（指定等文化財の一覧は資料編に掲載）

表 2-3 指定等文化財の件数(令和4年4月現在)

区分		国				府					市	合計	
		指定	選定	登録	選択	指定	登録	選定	暫定登録	決定	指定		
有形文化財	建造物	2		13		5	5		52		12	89	
	美術 工芸品	絵画	0				3	7		10		15	35
		彫刻	2				2	0		0		14	18
		工芸品	1				4	0		0		14	19
		書跡・典籍	0				0	0		0		3	3
		古文書	0				1	1		3		1	6
		考古資料	2				6	1		5		9	23
		歴史資料	0				1	0		0		1	2
無形文化財		0	0		0	0	0				0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0		0		0	0		3		1	4	
	無形の民俗文化財	0		0	1	3	11				3	18	
記念物	遺跡(史跡)	5				7	0		0		16	28	
	名勝地(名勝)	1※1				2※2	0		0		3※3	6	
	動物・植物・地質鉱物 (天然記念物)	2※1		0		2※2	1		0		12※3	17	
文化的景観			0					2				2	
伝統的建造物群			0									0	
文化財環境保全地区										3	2	5	
合計		15	0	13	1	36	26	2	73	3	106	275	

※1 うち1件は重複指定。(琴引浜は、名勝及び天然記念物)

※2 うち1件は重複指定。(立岩は、名勝及び天然記念物)

※3 うち1件は重複指定。(五色浜周辺は、名勝及び天然記念物)



図 2-1 指定等文化財の分布



2-2. 日本遺産

「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。

京丹後市では、平成 29 年 (2017) 4 月に宮津市・与謝野町・伊根町とのシリアル型として『300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』が日本遺産に認定されました。市内では、緇の碑、丹後ちりめん、八丁撚糸機、網野弥栄の機屋の町並み等計 14 件が構成文化財となっています。そのうち、網野神社の本殿・拝殿・蚕織神社などの建物が国の登録文化財となっています。

現在は、京都府北部地域連携都市圏振興社 (海の京都 DM0) が中心となり日本遺産を活かした地域振興に取り組んでいます。

●『300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』ストーリー

京都府北部の丹後を訪れると、どこからか聞こえてくるガチャガチャという機織りの音。

丹後は古くから織物の里であり、江戸時代に発祥した絹織物「丹後ちりめん」は、しなやかで染色性に優れ、友禅染などの着物の代表的な生地として、我が国の和装文化を支えてきた。

この地は今も着物の生地の約 6 割を生産する国内最大の絹織物産地であり、織物の営みが育んだ、住居と機場が一体となった機屋や商家、三角屋根の織物工場の町並みと、民謡宮津節で歌い継がれた天橋立などの象徴的な風景を巡れば、約 300 年に渡る織物の歴史と文化を体感できる。

引用：日本遺産 丹後ちりめん回廊の旅公式ウェブサイト



図 2-2 京丹後市内の日本遺産の構成文化財

参考：日本遺産 丹後ちりめん回廊の旅公式ウェブサイト

表 2-4 京丹後市内の日本遺産の構成文化財

	文化財の名称	ストーリーの中の位置づけ
1	絶の碑	奈良の正倉院に天平 11 年(739)に「丹後国竹野郡鳥取郷」と記された絹織物「絶」が保存されていることから、当地に顕彰碑が建立され、先人に感謝し、丹後ちりめんの発展を祈願する顕彰祭が行われる。
2	丹後ちりめん	緯糸に強い撚りをかけた生糸を使い、生地に細かい凸凹状の「シボ」がある織物。しなやかな風合いで、発色性に富むのが特徴。江戸時代に峰山の絹屋佐平治と、加悦谷の手米屋小右衛門、山本屋佐兵衛、木綿屋六右衛門が京都西陣から技術を習得し発祥した。
3	八丁撚糸機	丹後ちりめんの特徴の「シボ」と呼ばれる細かい凸凹を生み出すため、水を注ぎながら糸に撚りを掛ける機具
4	禅定寺	丹後ちりめんの創業者の一人、絹屋佐平治が京都の西陣の技術習得を祈願し、佐平治が最初に織ったちりめんとされる「縮布」が奉納されている。
5	常立寺	丹後ちりめんの創業者の一人、絹屋佐平治(後に森田治郎兵衛と改名)の墓碑があり、現在も同氏の功績をたたえる慰霊祭が行われる。
6	金刀比羅神社	丹後ちりめんの繁栄が財政を支えた峰山藩の藩主の京極家が創建し、ちりめんの繁栄を背景に、広大な神域や多くの社殿群を有し、華やかな屋台行事が行われる。境内の糸商人や養蚕家が建立した木島神社には、養蚕の大敵であるネズミを退治する狛猫がある。
7	丹後織物工業組合中央加工場	丹後ちりめんは、かつては精練(湯で煮て絹糸の表面のタンパク質(セリシン)を取り除く工程)されず京都の間屋へ出荷されたが、昭和初期に、地元で精練と検査を行う国練検査制度を開始。現在も本工場で精練・検品を経て、丹後ちりめんとして出荷される。
8	足米機業場	網野(京丹後市)にある織物工場で、昭和初期のノコギリ型の三角屋根のある織物工場特有の建物が残る。
9	網野・弥栄の機屋の町並み	丹後ちりめんの工場の多くは、住宅に小規模な機屋を併設して行う家内工業的な形態であり、網野町浅茂川や弥栄町和田野地区には、こうした機屋が点在している。
10	丹後ちりめん小唄	昭和 10 年(1935)に、丹後ちりめんの宣伝のため、新たに作られた唄でお座敷唄としても唄われた。
11	京丹後ちりめん祭	約 70 年に渡り続く、丹後ちりめんによるファッションショーなどの着物の魅力を発信・体感する祭典
12	吉村家住宅、吉村家別荘[桜山荘]	吉村家は、天保元年(1830)から続くちりめん商家で、4 代目の吉村伊助氏は、地元での精練と検査制度の開始など、丹後ちりめんの発展に尽力した。「吉村家住宅」は昭和初期の建物で、現在も吉村商店の店舗として使用されている。吉村家の別荘である「桜山荘」は、吉村伊助氏が、大正 8 年(1919)に建築した荘厳な建物で、ちりめんによる繁栄を物語っている。
13	網野神社、蠶織神社	網野神社の境内にある蠶織神社は、大正 14 年(1925)に、地元のちりめんと養蚕の関係者が織物と養蚕の神を奉祀したもので、毎年4月には、地元の織物関係者が祈願祭を行い、丹後ちりめんを奉納している。
14	丹後ばらずし	鯖のおぼろを使うのが特徴的な郷土料理で、丹後ちりめに所縁のある「三河内曳山祭」などの丹後地域の祭りや祝い事などの「ハレの日」に、各家庭で作られる。

3. 未指定文化財の概要

京丹後市において現在把握している未指定文化財は合計 6,074 件あります。その内訳は表 2-5 のとおりです。

図 2-5 未指定文化財の一覧 (1/2) ※5/19 現在

分類		峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	分散	全域	合計	
有形文化財	建造物	伽藍等	29	37	24	20	18	56			184
		社殿等	71	19	24	73	17	178			382
		住宅等	3	3		3	1	4			14
		近代建築物	12	11	2	2	2	4			33
		土木構造物	12	4	3	4	6	15			44
		石造物	2		1	7	2	6			18
		その他建造物			1						1
	美術 工芸品	絵画	24	11	3	2	1	172			210
		彫刻	6	2	11	14	8	47			88
		工芸品	6	2	2	5	4	12			31
		書跡・典籍	1	4			1	48			54
		古文書	2	2			1	16			20
		考古資料	1	1		68		7	40		117
歴史資料	1								1		
無形文化財									1	1	
民俗文化財	有形の 民俗 文化財	寺院等	23	22	20	22	20	44			151
		神社等	41	42	74	83	62	140			442
		堂・祠等	15	24	20	17	23	65			164
		信仰（奉納物等）	6		1	4	2	11			24
		民俗芸能・娯楽・遊戯			2	1		1			4
		生活・衣食住	1					1			2
		生産・交通				1		2		1	4
		その他有形の民俗文化財					2				2
	無形の 民俗 文化財	年中行事・祭礼・法会等	15	15	22	37	24	105			218
		民俗芸能（三番叟等）	8	27	9	17	10	21			92
口承文芸・民間伝承・民謡		46	686	73	404	37	131		174	1,551	
食習俗・技術		1	1			2			51	55	
	民俗技術				1	1	2			4	

図 2-5 未指定文化財の一覧 (2/2) ※5/19 現在

分類		峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	分散	全域	合計
遺跡	貝塚・集落跡・散布地	5	21	7	8	5	10	/	/	56
	古墳・墳丘墓	42	31	30	18	58	62	/	/	241
	城館跡他	48	53	46	32	43	51	/	/	273
	社寺跡他	1	7	1	4	3	14	/	/	30
	学校跡他	/	/	/	/	/	2	/	/	2
	墳墓及び碑 (中世以降)	5	9	3	1	3	18	/	/	39
	街道・生産施設他	6	10	2	1	2	25	/	/	46
	旧宅・園池その他特に 由緒のある地域	1	/	/	1	/	4	/	/	6
	災害記念碑・供養塔	7	2	8	/	2	1	/	/	20
	その他の記念碑	1	1	1	1	1	1	/	/	6
	その他の遺跡	1	/	/	1	1	1	/	/	4
名勝地	公園・庭園	1	1	3	1	/	4	/	/	10
	花樹・紅葉等	/	/	/	/	/	2	/	/	2
	砂丘・海浜	/	/	5	4	/	3	/	/	12
	山岳・丘陵	2	/	5	3	/	4	/	/	14
	峡谷・瀑布	/	/	2	1	2	10	/	/	15
	岩石・洞穴	/	/	5	7	/	5	/	/	17
	湖沼・浮島・湧泉	/	1	6	1	/	32	/	/	40
	展望地点	/	/	/	/	/	12	/	/	12
動物・ 植物・ 地質 鉱物	畜養動物	/	/	/	1	/	/	/	/	1
	動物の棲息地	1	1	2	1	1	3	/	/	9
	名木・巨樹	172	222	96	222	209	309	/	/	1,230
	巨木林・社叢	2	1	/	1	/	4	/	/	8
	原始林他特殊な植物相等	/	1	1	/	/	7	/	/	9
	変動地形・地層	/	/	1	/	1	/	/	/	2
	岩石・鉱物及び化石	1	2	/	2	2	4	/	/	11
	温泉	/	/	4	/	/	1	/	/	5
	海岸地形	/	/	6	7	/	2	/	/	15
	その他地形	/	1	1	1	1	1	/	/	5
文化的景観		/	/	/	2	/	3	/	1	6
伝統的建造物群		/	1	5	7	/	1	/	/	14
環境保全地区		1	1	/	1	/	/	/	/	3
合計		620	1279	531	1114	577	1685	40	228	6074

4. 文化財の概要

4-1. 有形文化財

(1) 建造物(寺院建築等)

寺院建築には、本堂・庫裏・門（山門・仁王門・鐘楼門など）・塔（多宝塔等）、鐘楼などがあります。市域の寺院は、禅宗系（曹洞宗・臨済宗）、特に曹洞宗寺院が多く分布します。標準的な寺院本堂の平面形式は、三室を前後に配した六間取りで、中央奥の「仏間」に仏壇を安置します。仏間の奥には、位牌の間が突出することがあります。仏間左右の「上間」、「下間」には床や付書院が設けられており、接客の空間であるとともに、住職が常駐する部屋でもあります。また、仏間の前にある室中は、法要などでの重要な場となります。

市域で最も古い寺院建築は、鎌倉時代後期の本願寺本堂（久美浜町十楽）です。その後は、江戸時代後期以降に建立された寺院建築が多く残っています。一方、郷村断層帯に近い地域では昭和2年（1927）の丹後震災で被害を受けた例が多くみられ、震災後に古材を用いて再建した場合があります。「船木の通り堂」（弥栄町船木）は、禅勝寺の門とも伝え、かつては道の上に建物が建っており、通行人は通り堂の中を歩いていました。

(2) 建造物(神社建築等)

神社建築には、本殿、本殿上屋、拝殿、割拝殿、絵馬舎、舞台、社務所などがあります。現存する17世紀に建立された社殿は、寛文9年（1669）の売布神社本殿（網野町木津）のみです。ついで、18世紀代建立の社殿としては持田神社本殿（久美浜町壱分）、安永7年（1778）の愛宕神社本殿（峰山町五箇）、天明2年（1782）の蚕織神社本殿（網野町網野）、寛政3年（1791）頃の志布比神社本殿（丹後町大山）などがあります。ほかには江戸時代後期以降の建立であり、特に多いのは万延元年（1860）以降のもので、

市域で最も多い社殿形式は流造ですが、峰山町周辺では春日造が目立ちます。流造、春日造ともに、軒唐破風を設けるものが多いのが特徴です。この唐破風の妻部分に龍の彫刻を用いる神社が多くみられ、中には丹波柏原（兵庫県丹波市）の彫物師・中井氏による例もあります。

なお近代の社殿では、大宮町を中心に神明造の本殿がいくつか見られます。さらに、昭和2年（1927）の丹後震災後の社殿の復興にあたっては、本殿と拝殿を渡廊でつなぐ連結型へ社殿形式の統一化も進みました。

(3) 建造物(住宅等)

民家は、平入で広間型三間取りを基本とし、土間に面した「ダイドコロ」の上手に「オモテ」と「ヘヤ」を並べる「丹後型民家」が広く分布しています。戦後の高度経済成長期までは、養蚕を行う家が多くありました。また市域は、西南日本的な隠居習俗である別宅隠居の日本海側の東限とされ、近年は薄れつつあるものの、同じ敷地内に母屋と離れがある世帯が多く見られる点が特徴です。

大宮町五十河地域は、近世末期から明治期に建てられた民家が多数残る農村集落です。現在は多くが「田」の字形の四間取りになっていますが、かつては丹後型の広間型三間取りであったと考えられます。屋根は、内山ブナ林の林床に生えているチマキザサを使った笹葺が多くみられましたが、現在、旧田上家住宅以外、笹葺屋根にトタンをかぶせるか瓦葺屋根へと転換しています。

沿岸地域の漁村集落では、狭小な宅地が多いことから、丹後型民家の形を基本とした前土間型二

間取りの平面形式をもつ独自の家屋形式ができあがりました。このように、丹後型民家の形式を基本としつつも地域によって独自の特徴を持つ民家がみられます。

久美浜一区は、大正14年(1925)の北但馬地震と昭和2年(1927)の丹後震災に被災したため、多くの町家はその後の建築です。しかし両震災ともに、火災がほとんど発生しなかったことが幸いし、近世後期や明治期の町家も残っています。町家には、一列三間取り型と一列二間取り型の大きく2種類があります。北但馬地震の時期には茅葺と瓦葺が混在した町並みでしたが、現在では瓦葺の二階建て町家が並ぶ町並みへと変化しています。近年、飲食店にリメイクした浜茶屋は、町並みで唯一の三階建ての建物で、かつては旅館でした。

(4) 建造物(石造物)

宝篋印塔や五輪塔、石鳥居などの石造物は、寺社を中心に広く分布しています。

中世の宝篋印塔は、正平6年(1351)の縁城寺(峰山町橋木)、永徳元年(1381)の上山寺(丹後町上山)、室徳4年(1387)の野中区(弥栄町野中)が代表例です。室町時代以降のものは市域各地にあり、江戸時代以降は寺院境内を中心に見られます。五輪塔は、永禄6年(1563)の長福寺(大宮町奥大野)、同8年(1565)の上山寺のものが代表例で、小型で無銘の五輪塔は市域全域に分布します。

石鳥居は、江戸時代以降のものがああります。最も古い17~18世紀のものとしては、元禄8年(1695)の稲代吉原神社(峰山町安)、宝永3年(1706)の三嶋田神社(久美浜町金谷)、同4年(1707)の神谷神社(久美浜町新町)などがあります。

(5) 建造物(近代建築物、土木構造物、その他構造物)

市域には、昭和2年(1927)に発生した丹後震災の復興建築がいくつか残っています。代表的なものとして、昭和4年(1929)、鉄筋コンクリート造の丹後震災記念館(峰山町室)、峰山小学校(峰山町不断)があり、いずれも京都府技師の一井九平により設計されました。また峰山税務署として建築された峰山商工会館(峰山町杉谷)も同時期の鉄筋コンクリート造の建物です。その他、木造建築では、昭和5年(1930)建造の旧口大野村役場庁舎(大宮町口大野)、平成23年(2011)に改装・修景が行われた久美浜町公会堂(久美浜町西本町)、昭和7年(1932)建造の旧久美浜町役場などがあります。特に丹後震災記念館は、震災直後に全国から集まった義援金の一部を用い、京都府が建設したものです。講堂には、昭和11年に伊藤快彦が描いた3枚の震災画があります。国内で震災記念館として現存するものは、関東大震災の震災記念堂・復興記念館(東京都墨田区)、濃尾地震の震災記念堂(岐阜市)と丹後震災記念館の3館に留まるため、大変貴重なものです。

丹後ちりめんや醤油業など地域の産業に関連する工場施設や、戦時中の峰山海軍航空隊(河辺飛行場)に関連する格納庫、弾薬庫、火薬庫(峰山町新町)なども特筆すべき近代建築物として挙げられます。

土木構造物には、丹後震災の復興の過程で建設された大橋(峰山町浪花)などの「震災復興橋」や堰堤などがあります。また、峰山海軍航空基地(河辺飛行場)に関連する土木遺構(マンホールや水路、海軍橋)もみられます。その他、各区の生活用水となっている井戸や、戦前に造られた手掘りの須川トンネル(弥栄町須川)などの隧道等も現存しています。

(6) 美術工芸品(絵画)

絵画は、中世以来の古い作品が多数残っており、①仏画、②大江山鬼退治図、③肖像画、④障壁画、

⑤異種配合三幅対、⑥山水・故事・その他の大きく6つに分類されます。

①仏画は、如来像、菩薩像、明王像、曼荼羅図、天部像に細分されます。如来像は、鎌倉時代後期の岩屋寺（大宮町谷内）絹本着色釈迦十六善神など。菩薩像は、鎌倉時代後期の岩屋寺絹本着色地藏菩薩像、南北朝期の縁城寺（峰山町橋木）絹本着色如意輪観音像などがあります。明王像、曼荼羅図は、鎌倉時代後期の岩屋寺絹本着色五大尊像、毘沙門天像、本願寺（久美浜町十楽）絹本着色当麻曼荼羅などがあげられます。天部像は、鎌倉時代後期の岩屋寺の絹本着色毘沙門天像、室町時代の縁城寺絹本着色十二天像などがあります。仏画は、鎌倉時代後期のものが最も古く、室町時代にかけて数が増えていきます。江戸時代に入ると市域全域の寺院に数多く見られ、涅槃図や釈迦十六善神像のように年に1度は使用されているものもあります。

②大江山鬼退治図は、麻呂子親王の鬼退治伝承を描いた竹野神社（丹後町宮）の紙本着色等楽寺縁起、斎明神縁起のほか、源頼光の酒吞童子退治を描いた岩屋寺の大江山鬼退治絵巻などがあります。本市に伝わる伝承を描いたものとして特筆されるものです。

③肖像画は、戦国時代に描かれた宗雲寺（久美浜町新町）の絹本着色玄圃霊三像、絹本着色松井康之像、宝泉寺（久美浜町湊宮）の絹本着色松井与八郎像、江戸時代に描かれた常立寺の峯山藩歴代藩主肖像画が知られています。このほか禅宗寺院には、住職の肖像画である頂相が残る例があります。これら肖像画は、本市にゆかりのある人物を描いたものとして特筆されるものです。

④障壁画は、江戸時代以降のものが残っています。代表的なものとしては、江戸時代後期に長沢声洲が描いた慶徳院（峰山町五箇）の方丈障壁画、慶応元年（1865）に斎藤崎庵が描いた万松寺（網野町木津）の本堂障壁画などがあります。これらは、寺院ゆかりの人物が描いたものとして特筆されます。

(7)美術工芸品(彫刻)

彫刻には、仏像、神像、狛犬などがあります。

市内最古の仏像は、10世紀代に造られた縁城寺の千手観音菩薩立像です。一木造りで内刻を施さないものです。11世紀のものとしては、臨海寺（久美浜町湊宮）の薬師如来坐像、持国天・多聞天立像、正福寺（久美浜町市野々）の菩薩形立像、泰平寺（久美浜町永留）の薬師如来坐像、地藏菩薩立像、延命寺（久美浜町永留）の観音菩薩立像などがあります。12世紀のものとしては、円頓寺（久美浜町円頓寺）の薬師三尊像のほか、全徳寺（峰山町鱒留）の阿弥陀如来坐像、如意寺（久美浜町西本町）の阿弥陀如来坐像、遍照寺（久美浜町大向）の阿弥陀如来坐像など数多く見られます。市域に多く見られる平安時代の仏像の特徴としては、平安京で発達した寄木造が少なく、一木割削造と呼ばれる技法が多く使われる点にあります。このほか、金剛力士像として鎌倉時代の如意寺、円頓寺、文明13年（1481）の仲禅寺のものがあります。

石で造られた石仏は鎌倉時代以降に出現し、江戸時代に入ると大型のものが造られます。平地地藏（大宮町上常吉）は、台座を含む高さが5.3mもある京都府で最大規模の石地藏です。

次に市域の神像には、平安時代前期に造られた大宮売神社（大宮町周枳）の女神坐像、平安時代後期の大宮神社（弥栄町野中）の神像などがあります。

狛犬は、木造のものが少数あるほかは、石造のものです。石造の狛犬は、本殿に置かれる小型のものと、境内に独立して立つ大型のものがあります。小型の石造狛犬は、国内最古の文和4年（1355）銘をもつ高森神社（大宮町延利）を筆頭に、室町時代から江戸時代にかけて丹後半島を中心に分布し、「丹後型狛犬」とも呼ばれています。大型のものは、江戸時代後期以降、市域各地に分布します。そ

の中で、金刀比羅神社の石造狛猫は、狛犬のかわりに猫をモチーフにした狛猫として全国的にも珍しくユニークなものです。

(8)美術工芸品(工芸品)

工芸品には、寺社の扁額や鰐口、梵鐘、御正体や懸仏などがあります。

寺社の扁額は、寺の門や神社の鳥居に懸ける寺社名を描いた額で、有名な書家が描いたものもあります。木製のものは、如意寺（久美浜町西本町）、大宮売神社（大宮町周枳）など、鎌倉時代にさかのぼるものがあります。一方、金属製のものは、溝谷神社（弥栄町外村）の鉄製扁額や銅製扁額のように、江戸時代以降に見られます。

鰐口は、江戸時代以降のものが現在も使われています。室町時代にさかのぼる例は、加茂神社（網野町木津）、木橋区、八幡神社（丹後町平）、如意寺などがあります。

梵鐘は、太平洋戦争中に戦時供出されたものもあり、江戸時代以前のもは数少ないです。江戸時代の作例としては、延宝6年（1678）の岩屋寺（大宮町谷内）、同8年の全性寺（峰山町吉原）のものがあります。

御正体と称される鏡像は、12世紀後半の山の神経塚（久美浜町円頓寺）や枳谷経塚（久美浜町枳谷）などの出土例があります。鏡の表面に仏像を線刻するもので、紐を通す孔をあけて壁にかけていました。木橋区（弥栄町木橋）の線刻薬師如来御正体は、鏡に見立てた銅の板に仏像を線刻しています。これらは、銅板に仏像を取り付けた懸仏へと発展します。

懸仏は数が少ないものです。鎌倉時代にさかのぼる事例は、円頓寺の熊野十二社権現懸仏があります。南北朝期から室町時代のものには、現在、奈良国立博物館所蔵となっている上山寺の懸仏があります。ほかには江戸時代以降のものがあります。

(9)美術工芸品(書跡・典籍)

書跡には、墨蹟や経典があります。最も多く伝わるものは、現在も大般若会で使用されている大般若経があります。大部分は江戸時代以降の版本ですが、大宮売神社（大宮町周枳）の大般若経は鎌倉時代の東大寺八幡経のうち一巻です。また延命寺（久美浜町永留）には、中世の大般若経が伝わっています。

典籍は、中世にさかのぼる医学書、陰陽道書、易書などを含む小倉家伝書が代表例です。近世以降の典籍は、版本を中心に数多く残っています。

(10)美術工芸品(古文書)

市域の中世以前の古文書は大変数が少なく、寺社の古文書として本願寺文書、縁城寺文書、戦国時代の土豪が残した古文書として坪倉家文書があります。

一方、近世以降の古文書は、区、寺社や庄屋など有力者の家に伝わったものがあり、市内各地にみられます。区有文書は、吉沢区有文書や堤区有文書を代表として、市域の多くの区に伝わっています。内容は、近世の年貢に関する免状、割付のほか、用水や山の争論関係、絵図などがあります。また明治前期以降町村制施行までの近代文書を含む場合が多く、さらには町村制施行後の区の文書を残す例もあります。庄屋の家に伝わった古文書には、永島家文書、永雄家文書などがあります。また神谷神社に伝わる太刀宮文書は、久美浜村の庄屋で、久美浜代官所の郡中代をつとめた今西家の古文書を含んでいます。同じ久美浜村で、久美浜代官所の掛屋（公金預かり）をつとめた稲葉家（稲葉本家）は、

近世から近代の約 28,000 点の古文書が残っています。

明治 22 年の町村制施行後の町村の行政文書は、それ以前の古文書と比較すると、残された量が少なくなります。その原因としては、終戦後間もなくに行われた兵事関係史料の焼却処分や、昭和の町村合併時に引き継がれなかった文書の廃棄処分が考えられます。その中で、後に初代網野郷土資料館長となる井上正一の努力により伝わった木津村役場文書のほか、丹波区有文書（丹波村役場文書）、昭和の合併時に網野町へ引き継がれて残った浜詰村役場文書など、近代行政文書が残っています。これらの史料には、丹後震災後の救護、復旧に関するものや、兵事関係文書が含まれており、当時の行政や市民生活を考える上で大変貴重なものです。

(11) 美術工芸品(歴史資料)

歴史資料は、古文書、典籍、肖像画といった複数分野の史料を含む資料群です。

玄圃霊三関係資料は、宗雲寺を再興し、後に南禅寺（京都市左京区）の住持となった玄圃霊三に関する史料群です。古文書のほか、肖像画、文芸資料などを含みます。

また大正から昭和前期に郡町村誌を数多く執筆した郷土史家永浜宇平は、母校の三重小学校に直筆原稿や書籍を寄贈しました。これらの史料も歴史資料の一つといえます。

(12) 美術工芸品(考古資料)

市域では、上野遺跡（丹後町上野）から旧石器時代の石器が見つかり、約 36,000 年前に人々が生活していたことがわかりました。その後、縄文時代早期末には、内陸部で数十片出土している押型文土器や 3 本の有形尖頭器が見つっています。縄文時代の集落遺跡からは、魚や鯨などの動物や栗やクルミなどの植物などが出土しており、当時の豊かな食生活を伝えています。弥生時代に入ると、農耕文化も伝わり、村としてのまとまりも出てくることから、石器や土器の種類が豊富になるとともに、武器や装身具、それらを製造する原料なども出土しています。原料の中でもガラスや鉄は当時日本では製造できなかったと考えられており、朝鮮半島や中国とのつながりがあったことが分かります。弥生時代後期から古墳時代にかけての墳墓や古墳からは、大陸から伝わったとみられる豪華な副葬品（ガラス玉や頭飾り、鏡など）や埴輪、土器類等が豊富に出土しています。奈良・平安時代には塩や鉄、須恵器など様々な生産施設が営まれ、それに関連する遺物が多数出土しているほか、仏教寺院跡では瓦や墨書土器等が出土しています。

4-2. 無形文化財

市域の無形文化財として現在確認されているのは、丹後ちりめんです。丹後ちりめんとは、緯糸に強撚糸を使用して織られ、精練加工を経ることで生地表面にシボと呼ばれる凹凸が生まれる後染め織物の総称です。300 年以上の歴史があり、現在でも新たな価値を生み出し続けており、日本遺産にも認定されています。

4-3. 民俗文化財

(1) 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財には、民具、信仰関係資料などがあります。

高度経済成長期以前を中心とする生活道具類（民具）には、衣類、農具、漁撈道具、養蚕の道具、織機、林業の道具、食器類、家具・調度類などがあります。ほかに鍛冶屋や大工など職に関する道

具類があります。

信仰関係資料は、さまざまなものがあります。建物としては、住民の身近な信仰対象である祠のほか、地蔵堂や薬師堂などの辻堂などがあります。また溝谷神社（弥栄町外村）や蛭見神社（久美浜町湊宮）などに残る北前船を模した奉納和船は、航海の安全祈願のために奉納されたものです。

この他には、神社境内にある建物で、民俗芸能や芝居が行われる舞台や、民俗芸能で用いられる道具類があります。

(2)無形の民俗文化財(民俗芸能)

本市では、江戸時代の「村」を単位とする生活共同体である区を単位として、地域性に富む様々な祭礼・行事が継承されています。各地の氏神祭りでは、さまざまな民俗芸能や祭礼行事が行われています。

本市の民俗芸能は、①中世の風流の古態を偲ばせるような芸能 ②笹ばやし ③三番叟 ④獅子神楽 ⑤太刀振り ⑥そのほか に分類されます。

①には、野中の田楽（弥栄町野中）、黒部の踊子（弥栄町黒部）、舟木の踊子（弥栄町船木、休止中）、竹野のテンキテンキ（丹後町竹野、休止中）、遠下のちいらい踊り（丹後町遠下、休止中）があります。野中の田楽は、大人と子どもが一緒に演じますが、ほかは子どもだけで演じます。

②笹ばやしは、大宮町、峰山町を中心に分布します。代表的なものとしては、丹波の芝むくり（峰山町丹波）、周枳の笹ばやし（大宮町周枳）、久次の笹ばやし（峰山町久次）などがあります。これらは、子どもが締太鼓を叩きながら所作を行う点が特徴で、子どもが唄うものと、唄を歌う囃子方に大人が参加するものがあります。

③三番叟は市域各地に分布し、江戸時代の墨書をもつ道具や箱が残る例が多く見られます。子どもを舞手とするものは、周枳の三番叟（大宮町周枳）、五箇の三番叟（峰山町五箇）、甲坂の三番叟（久美浜町甲坂）があります。ほかは、すべて大人を舞手とします。囃子方はすべて大人が担います。いずれも神前では、神社境内に建つ舞台で奉納しますが、五箇の三番叟は本殿前に仮設の舞台を作って奉納します。なお布袋野の三番叟は、現在、春祭りに奉納されており、また舞手に稲荷が加わる点が特徴です。

④獅子神楽は、大宮町、峰山町、弥栄町を中心に分布します。いずれも伊勢太神楽系のもので、獅子と天狗が登場します。江戸時代後期の記録に登場するものが多く、三曲から四曲を伝えるものが大半です。

⑤太刀振りは、籠神社（宮津市）周辺から伝わった棒太刀系のもので、大宮町、峰山町を中心に分布し、丹後町では宇川地区にのみ分布します。その中で、峰山町久次では、旧太刀と新太刀の二つの太刀振りが伝わっています。笹ばやしにあわせて振る旧太刀は、ほかに例がない芸能で、江戸時代後期にさかのぼるものです。また谷内の太刀振り（丹後町谷内）は、組み太刀と呼ばれるもので、加佐郡（舞鶴市など）の太刀振りに近いものです。

⑥そのほかの民俗芸能として、大山の刀踊り（丹後町大山、休止中）や須田の奴振（久美浜町須田、休止中）があります。

(2)無形の民俗文化財(祭礼行事)

秋祭りに奉納される行事として、屋台行事があります。屋台行事には、①山屋台や芸屋台、②太鼓台、太鼓輿、だんじりと呼ばれるものの2種類があります。

①山屋台や芸屋台は、金刀比羅神社（峰山町）の秋の祭礼で奉納されるものが代表です。かつては、各町で山屋台、芸屋台ともに各 10 基以上が奉納されていました。しかし丹後震災で大半が焼けてしまい、現在は山屋台が 3 基、芸屋台が 2 基伝わるのみです。このほか、大野神社（大宮町口大野）の秋祭りに芸屋台 1 基（明治区）が奉納されています。

②太鼓台・太鼓輿と呼ばれる行事は、鉦打太鼓と 2 人の打ち手を乗せた屋台を担いで巡行するもので、丹後町、弥栄町、網野町を中心に行われています。これらは、屋台の天井に布団を乗せる点が特徴で、布団のかわりに布団をかたどった板を乗せる場合もあります。間人の屋台行事は、漁師町としてのにぎわいと熱気を現在に伝えるもので、本祭りの午後に屋台どうしがぶつかり合うことから「間人のけんか屋台」と呼ばれています。また神谷神社（久美浜町新町）の秋祭りに奉納される太鼓台は、「空のせ」、「先蒿」という芸を伴うことが特徴です。だんじりは、久美浜町域の春祭りで奉納されるものです。現在は、担いで巡行するものと、曳いて巡行するものがあります。

夏の祭礼行事としては水無月祭があります。市域では、「川すそ祭り」、「川そそ祭り」などと呼ばれています。このほか、夏や秋に、神社境内などで奉納相撲を行う地域があります。

(4)無形の民俗文化財(年中行事等)

正月の年神迎え、餅飾り、餅花、「年取り柿」、狐狩り、ヒヤッカゲ、鬼の宿、各種の講など、かつてはさまざまな行事が行われていました。市域全域に現在も残る行事としては、初詣、互例会、御札立て、七草、ドンド焼き、盆踊り、施餓鬼供養、地藏盆などが挙げられます。また、一部の地域で残る行事としては、日待ち、社日さん、サナボリ、いのこ、秋葉さん、愛宕さんがあります。

このほか、5月4日夜に行われる三重の幟立（大宮町三重）は、その年の新婚夫婦がいる家の前に立てた幟に、地区内の家々から持ち出した家財道具をつるす行事です。翌5日の朝には、新婚夫婦が幟につるされた家財道具を地区内の家々に返却してまわります。また5月5日に行われる市野々の菖蒲田植え（久美浜町市野々）は、子どもたちが稲苗に見立てた菖蒲（シャガ）を準備し、神社境内に設けられた結界の中で菖蒲を投げ上げる行事です。青年たちは、堂の中で苗取り唄と田植え唄を歌います。

7月には、麦わらに火をつけ振り回す「マンドリ」（網野町網野）、「マンドル」（網野町掛津）という行事が行われます。いずれも愛宕信仰との関係が深いものです。また8月23日には、万灯山にやぐらを組んで13の灯をともし河梨の十二灯が行われています。

(5)無形の民俗文化財(食文化)

本市の百寿者率（人口 10 万人当たりの百寿者人口）は令和 3（2021）年 1 月現在で 210.6 と全国平均 64.9（令和 3 年 1 月 1 日住民基本台帳年齢階級別人口）の約 3.2 倍の長寿を誇ります。市内の百寿者への聞き取り調査を行った結果、長い年月の間に、風土に根差した本市の食文化が長寿に結びついていることが明らかになりました。

本市はその地勢から強い風が吹いて海が荒れることもあり、積雪で農地が耕作できない時期もあります。晩秋から冬にかけては「うらにし」と呼ぶ季節風が雨や雪を運んできますが、このような厳しい気象条件のもと、様々な知恵によって多様な保存食が作られてきました。例えば「ぐら」のような水分の多い魚を干物として保存することもあり、海藻も飢饉に備えて乾燥させて保存する習慣がありました。さらに、一般的に干し魚は焼いて食しますが、本市では煮ることで、骨の栄養までも無駄なく食べられるよう、調理法が工夫されています。このようにして、本市の風土が産んだ食材、それ

を保存する知恵、食材を無駄なく美味しく食べるための調理法など「食べごとの知恵」がひとつになって、市民の長寿を支えてきました。

野菜の保存食としては、梅干し、大根の糠漬、白菜漬、きゅうりの塩漬、瓜の奈良漬、なすのべった漬、福神漬、いか干し大根（切り干し大根）などがあります。また、野山で採取するワラビやフキなどの山野草は保存したうえで、ヨモギ餅やわらびの塩漬け、山菜おこわなどに調理して食します。秋には、柿を干し、ショウガを漬け込み保存しています。冬には餅づくり、こんにやくづくり、味噌づくり、醤油づくり、鯛のへしこづくりなどが各家庭で行われます。

また食文化は季節ごとの行事や祭礼などとも深く関わっています。

祭礼の日に食される「丹後のばら寿司」は、丹後を代表する郷土料理です。正月に欠かせないのが「もち花づくり」です。紅白のもちを細長く伸ばして小指の先くらいの大きさにちぎってクロモジの枝に丸めて飾ったものが「もち花」です。飾った後はもち花を揚げてあられにしておやつにしました。お正月の料理としては大根、ニンジンなどの野菜を中心とした精進料理である「福煮」を食しました。

巻き寿司は丹後ちりめんの「巻き取る」との関係もあり、田植えの後に食されていたといわれています。かつては、田植えの後の「さなぼり」にはせりを具にした巻き寿司が春だけのごちそうとして出されました。稲刈りの後の「いのこ」など集まって食する時には、うどん、ばら寿司、もち、おこわを用意していました。

また伝統的な「へしこ」、「あごの団子汁」、夏祭りの「あんころもち」、「茶がゆ」、「ぐら汁」、「はばご飯」、法事の際の「羅漢和え」などの郷土料理も地域で大切に継承されています。間人ガニに代表される魚介類は、本市の代表的な食文化をつくりだすとともに、重要な観光資源ともなっています。本市の百歳長寿を支える食文化は、現代の私たちの暮らしを彩る生活文化であるといえます。

(6)無形の民俗文化財(口承文芸・民間伝承・民謡・方言等)

人から人へと口伝えで伝わる昔話、民謡、伝説、伝承が豊富に残り、「丹後弁」と呼ばれる方言で語られていた点が特徴です。

かつての丹後半島の家々では、団炉裏を囲んだ団らんのひとときに、子どもたちが祖母などに昔話を語ってほしいとねだる姿がありました。高度経済成長期による生活風習の変化の中で、昭和40年代以降、各地で昔話を採録し、記録として残す作業が行われました。これらの記録は、すでに失われているものが大半ですが、豊かな昔話の様相を今に伝えています。

また日常の労働や生活の場では、自然に出てくる労働歌や、遊びの歌などの民謡が口ずさまれました。戦前より採録が始まり、昭和50年代にかけて採録された豊かな神事唄、労作唄、祝唄・酒宴唄、盆踊唄、子供の唄などは、高度経済成長期を境にして急速に失われた民謡の様相を今に伝えています。

また伝説・伝承が多く残る点は大きな特徴です。特に女性に関わる伝承が多い点は特筆できます。

最も古いものは、奈良時代の『丹後国風土記』逸文に記された羽衣天女で、神が天に帰ることなく神社に祀られるという内容です。天女ゆかりの地としては、比治山（磯砂山）山頂の真奈井（女池とされる）、奈具神社（弥栄町船木）、乙女神社（峰山町鱒留）、多久神社（峰山町丹後）などがあります。

浦嶋子と乙姫の伝承は各地にあります。『丹後風土記』逸文では主人公浦嶋子と与謝郡筒川村（現在の伊根町）の「日下部首等の祖」と語っており、先祖の由来を語る内容です。市域には網野町に浦嶋伝承が伝わり、網野神社（網野町網野）、嶋見神社（網野町浅茂川）には浦嶋子を、その近くの西浦福島神社には乙姫を、六神社（網野町下岡）には嶋子と乙姫を祀っています。

間人皇后は、穴穂部間人皇后と呼ばれ、用明天皇の后です。その名から、丹後町間人の地名の由来

が伝承されています。江戸時代後期の記録にあらわれ、足洗いの井戸などの伝承地があります。

『日本書記』や『古事記』には、中央の王権と婚姻関係を結んだ丹後出自の女性たちが登場します。

「丹波の五女」は、川上摩須郎女と丹波道主命との間に生まれた姫たちと伝え、日葉酢媛は垂仁天皇との間に倭姫命や景行天皇を産んだと記されます。川上摩須郎女の父親の川上摩須が創建したと伝える神社や屋敷跡の伝承地が残っています。

大宮町五十河の小町伝承は、小町を開基とする妙性寺があり、『妙性寺縁起』などに小町が亡くなった地と記されます。小町の墓、位牌、小町が使用した鏡と椀などの資料は17世紀末～18世紀初頭のものであるため、五十河の小町伝承は、平安時代の小町ではなく、村の火災・難産をなくす江戸時代の遊行の霊能者と考えられます。

網野町磯は、静御前の母である磯禪師の出生地と伝えています。延宝5年(1677)の『与謝巡遊記』がもっとも古い記録で、静神社や船かくし岩などの伝承地があります。

弥栄町味土野の細川ガラシャ夫人隠棲地は、天正10年(1582)、父明智光秀の謀反の後、夫細川忠興の命により2年間蟄居した地と伝えています。夫人が隠棲した女城跡や家臣がいた男城跡などの伝承地があります。

このほか、丹後・丹波一帯には、聖徳太子の異母弟の麻呂子親王による鬼退治伝承が広く伝わっている点も特徴です。市域には、竹野神社(丹後町宮)に伝わる鬼退治を描いた等楽寺縁起、齋明神縁起といった絵巻のほか、円頓寺(久美浜町円頓寺)、願興寺(丹後町願興寺)の木造薬師三尊像など麻呂子親王の七仏薬師と伝える仏像、鬼を閉じ込めたと伝える立岩(丹後町竹野)などがあります。

市域にはほかに、八尾比丘尼伝承や寺院の縁起伝承があります。またこれらの伝説・伝承をわかりやすく伝えるため、羽衣天女や小野小町などは絵本が作られています。

これら昔話、民謡、伝説、伝承は、「丹後弁」で語られました。「丹後弁」は、大きくは西日本方言地域に属し、方言区画論では山陰地区方言に属しています。その中で久美浜町の方言は、兵庫県北部の但馬方言に近いので、それ以外の京丹后市域、与謝野町域のものとは異なります。またアクセントという面では、東京式アクセントをもつ中国地方の東端にあたっており、現在の宮津市域の中を境目にして東側は京阪式アクセントとなります。同じ京都府内ではありますが、丹後弁は京ことばとは全く異なるものといえます。大きな特徴として、「赤い→アキヤー」、「悪い→ワリー」など二重母音が拗音化する点があります。これは、尾張弁(愛知県)に近い特徴です。

4-4. 記念物

(1)遺跡

市域に人々が暮らし始めるのは、旧石器時代です。その後、縄文時代早期には、10遺跡ほどが知られています。弥生時代に入り最初にできたムラは、瀧湖のほとり、微高地上にある竹野遺跡です。遺跡からは珍しい陶埴(土笛)や遠賀川式土器など様々な遺物が出土しており、当時の生活が想像できます。弥生時代中期になると大規模な集落が次々と誕生していきませんが、本市では、途中ヶ丘遺跡(峰山町長岡、新治)や奈良・奈良岡遺跡群(弥栄町溝谷)などが代表的なものとして挙げられます。奈良岡遺跡では中国大陸などから入手した原料を使い鍛冶や玉づくりが行われていました。弥生時代中期～後期には、丘陵上に墳墓群が営まれるようになり、国内最大級の赤坂今井墳墓(峰山町赤坂)などの有力墳墓も築造されます。埋葬施設からは、ガラス玉、朝鮮半島からの鉄製品などが出土しており、この時期の大陸との交易や、国内での人の動きを知ることができます。

丹後地域は、当時、中央政権からの距離も遠く、最初期の前方後円墳は確認されていません。市域

において、古墳時代開始前後の地域の覇権を握っていたのは、弥栄町と峰山町にまたがる大田南古墳群を築いた勢力であったと考えられ、ここからは、全国的にも貴重な中国鏡が出土しています。古墳時代前期後半から中期初頭にかけては、日本海側最大の網野銚子山古墳（網野町網野）や神明山古墳（丹後町宮）などの大規模な前方後円墳が築造されます。これらに蛭子山古墳（与謝野町）を加えて日本海三大古墳または丹後三大古墳と呼びます。これらの古墳の築造から、丹後地域にも独自のアイデンティティーを持つ首長を中心とした地方勢力（通称「丹後王国」）が存在していたことが想像できます。5世紀前半の丹後では、大型前方後円墳から中小の古墳まで、幅広い墳墓の階層が認められ、丹後の地域力が極めて充実していたことを物語ります。6世紀以降は、小規模な古墳で横穴式石室や横穴など新しい形式の埋蔵施設を持つようになり、伝統的な前方後円墳の築造は6世紀中葉～後半の新戸1号墳（大宮町奥大野）をもって終焉を迎えます。このころには、墳丘よりも石室の大きさが被葬者の階層的地位を示す傾向にあり、副葬品も豊富に埋葬されています。6世紀後葉以降には大成古墳群（丹後町竹野）のように、横穴式石室を持つ古墳が十数期集まって群集墳を形成する事例が現れます。また、古殿遺跡（峰山町古殿）や遠處遺跡（弥栄町鳥取）などの古墳時代の集落遺跡からは、豊富な木製品や製鉄関係の遺物等が良い状態で出土しています。

飛鳥時代に入っても、引き続き古墳や横穴墓が築造されました。特に、上野2号墳（丹後町三宅）は、7世紀中葉に円墳から方墳に造りかえられた珍しいものであり、畿内の終末期古墳の動向を敏感に反映しているといえます。7世紀末からはほとんど墓が見つかっておらず、代わって、仏教寺院の造営が始まります。飛鳥時代の寺院としては、市域では俵野廃寺（網野町俵野）が確認されているのみです。俵野廃寺は、海岸にも近い立地であり、海上交通に携わる地元の勢力の元で寺院が営まれていたと考えられます。平安時代に入ると、縁城寺旧境内遺跡（峰山町橋木）など山林寺院もみられ密教の普及がうかがえます。飛鳥時代以降は、大陸から様々な技術がもたらされて産業も興隆します。新宮窯跡（大宮町新宮）や阿婆田窯跡（大宮町善王寺）からは須恵器窯や瓦などが出土しています。加えて、京丹後市は海上交通の要衝でもあったため、海岸部に近い横枕遺跡（網野町島津）などでは中国産の陶磁器など珍しいものもまとまって出土しています。戦国時代には市域全域に数多くの山城が築城されています。

また、「月の輪田」は豊受大神がはじめて田植えをされた場所とされ、稲作発祥の地と伝わっています。田は三日月の形をしており、現在は二箇区月の輪田保存会によって保存と活用が図られています。

(2)震災記念碑

大正14年（1925）の北但馬地震や昭和2年（1927）の北丹後地震で大きな被害を受けた本市には、震災の記憶や教訓を後世に伝えるため、震災記念塔や震災供養塔が建立されました。戦前は、各地で慰霊祭や法要が行われていましたが、戦時中に中断し、戦後になるとほとんど行われなくなりました。その中で、常德寺（大宮町口大野）では、現在も毎年3月7日に震災供養行事を行っています。

(3)名勝地

海と山に囲まれた本市は豊富な景勝地を有しており、琴引浜や五色浜、小天橋、立岩などの海の景観、無明の滝や磯砂山、かぶと山、女池などの陸の景観、ともに古くから人々の心を癒してきました。また、公園・庭園として、宗雲寺庭園（枯山水庭園）や丹後ちりめんの発展に尽力した吉村伊助氏の別荘である桜山荘の庭園など見ごたえのあるものが市内でも見られます。さらに、近年、人々の

生活の中で、丁寧に手が加えられ愛されてきた市民憩いの公園や桜並木なども本市の重要な名勝地と言えます。

(4)動物・植物・地質鉱物

本市は日本海に面し、屏風岩や海岸段丘、離湖、丹後松島、経ヶ岬等の多彩な海岸地形や、鳴き砂や五色浜の円礫岩層などの貴重な地質等が数多く観察できます。また、郷村断層は国の天然記念物に指定されている断層ですが、昭和2年（1927）に丹後震災を引き起こし多くの人命や財産を奪い、自然の脅威を伝えています。

市域には、豊かで美しい水環境を住处としてアベサンショウウオや宇川の鮎をはじめ様々な生物が生息しており、久美浜湾では冬場になるとオオハクチョウやコハクチョウの飛来もみられます。

植物を見ると、寺社を中心に巨樹・名木が数多く分布しており、中には浦島伝承にまつわる皸榎など、地域の歴史を伝えるものもあります。また、内山のブナ林やシイ林、平海岸海浜植物群自生地など貴重な植生も本市の各地で見られ、適切に保存・管理されています。

4-5. 伝統的建造物群

農村集落として、丹後型民家の平面形式を持つ、伝統的な民家が分布する五十河の集落が挙げられます。伝統的な民家を多く残すことに加え、「川井戸」を利用した伝統的な生活環境が残っている点で貴重であるといえます。一方漁村集落は、半島の長い海岸線上に沿って分布し、袖志・竹野・塩江等13の集落で伝統的な集落形態が見られます。

4-6. 文化的景観

海に関係する景観として「久美浜湾カキ養殖景観」と「久美浜湾沿岸の商家建築群と街なみ景観」が府選定文化的景観となっているほか、間人海岸や袖志の棚田など特徴的なものが挙げられます。内陸部の景観としては、「河内梅」など古くからつづく農業景観が挙げられます。

また、本市の伝統産業にまつわる景観として「網野・弥栄の機屋の町並み」が挙げられます。丹後ちりめんの工場の多くは、住宅に小規模な機屋を併設して行う家内工業的な形態であり、網野町浅茂川や弥栄町和田野地区には、こうした機屋が点在しています。

4-7. 環境保全地区

環境保全地区は自然環境と文化財が一体になって優れた歴史的風土を形成している地域の事を指します。本市では、神社や遺跡、動植物などが一体となった美しい歴史景観が各地に残っていますが、その中で、多久神社や竹野神社などの境内地は、府の文化財環境保全地区に決定しています。